

「子どもの読書活動に関する意識調査」

報告書

平成 22 年 3 月

福岡市教育委員会



目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査方法	1
4. 調査実施期間	1
5. 回収状況	1
6. 調査結果利用上の注意	2
II. 標本構成	3
1. 子ども	3
2. 保護者	4
3. 団体	5
III. 調査結果のまとめ	6
1. 子どもの読書について	6
2. 保護者の読書について	10
3. 読書に関する意識別にみた傾向について	14
4. 読書活動団体について	15
IV. 調査結果	17
第1部 子ども編	17
1. 読書について	17
(1) 読書の好き嫌い	17
(2) 読書が嫌いな理由	18
(3) 好きな本の種類	19
(4) 本の入手方法	22
(5) 月間での読書冊数	23
(6) 本を読む場所	25
(7) 平日での時間の使い方	26
(8) 本の選択方法	37
(9) 読書の大切さ	38
(10) 本を読んで良い点	39
(11) 本を読むようになる方法(小5・中2・高2)	41
(12) 本の読み聞かせについて	42
2. 学校、学校図書館について	43
(1) 読書の時間(朝の読書など)の有無	43
(2) 読書の時間による変化(小5・中2・高2)	44

(3) 学校図書館の利用状況	45
(4) 学校図書館の利用方法	46
(5) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)	47
(6) 利用しない理由 (小5・中2・高2)	48
(7) 学級文庫の利用状況	49
(8) 学級文庫の利用方法	51
3. 地域文庫等について	52
(1) 公民館や地域の文庫活動への参加状況	52
(2) 参加目的	53
(3) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)	54
(4) 参加しない理由 (小5・中2・高2)	55
(5) 参加意向 (小5・中2・高2)	56
4. 市立総合図書館・分館について	57
(1) 図書館 (学校以外) への来館経験 (小2)	57
(2) 市立図書館 (総合図書館・分館) への来館経験 (小5・中2・高2)	58
(3) 来館頻度 (小5・中2・高2)	59
(4) 同伴者 (小5・中2・高2)	60
(5) 主な目的 (小5・中2・高2)	61
(6) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)	62
(7) 利用しない理由 (小5・中2・高2)	63
5. 市の公共施設内の図書室について	64
(1) 公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室 (小5・中2・高2)	64
6. 公共図書館全体について	65
(1) 使いやすくするための方策 (小5・中2・高2)	65
第2部 保護者編	66
1. 読書について	66
(1) 読書の好き嫌い	66
(2) 読書が嫌いな理由	68
(3) よく読むもの	69
(4) 本の入手方法	70
(5) 月間での読書冊数	71
(6) 読書の場所	73
(7) 余暇時間の取得の有無	74
(8) 平日での余暇時間の使い方	75
(9) 本の選択方法	85
(10) 読書の大切さ	86
(11) 読書の良さ	87
(12) 本を読むようになる方法 (小・中・高校生保護者)	88
(13) 子どもの頃の読み聞かせについて	89

2. 地域文庫等.....	90
(1) 公民館や地域の文庫活動への参加経験.....	90
(2) 参加内容.....	91
(3) 利用上での問題点.....	92
(4) 参加しない理由.....	93
(5) 参加意向.....	94
(6) ボランティアとしての協力の有無.....	95
3. 市立総合図書館・分館について.....	96
(1) 市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験.....	96
(2) 来館頻度.....	97
(3) 同伴者.....	98
(4) 主な目的.....	99
(5) 利用上での問題点.....	100
(6) 利用しない理由.....	101
4. 市の公共施設内の図書室について.....	102
(1) 公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室.....	102
5. 公共図書館全体について.....	103
(1) 使いやすくするための方策.....	103
6. 読み聞かせについて.....	104
(1) 読み聞かせについて.....	104
(2) 家庭での読み聞かせについて.....	106
(3) 読み聞かせを始めたきっかけ.....	108
(4) 読み聞かせの開始年齢.....	109
(5) 読み聞かせの終了年齢（小・中・高校生保護者）.....	111
(6) 読み聞かせの頻度.....	112
(7) 本の選択方法.....	113
(8) 読み聞かせの影響.....	114
第3部 読書に関する意識別にみた傾向（クロス集計結果）.....	116
1. 「読書の好き嫌い」と「読書の大切さ」の関連性.....	116
2. 読書を勧める働きかけが意識と行動に及ぼす影響.....	118
(1) 学校での読書時間の有無と読書の好き嫌い（子ども）.....	118
(2) 学校での読書時間の有無と読書の大切さ（子ども）.....	119
(3) 学校での読書時間の有無と月間での本の読書冊数（子ども）.....	120
(4) 学校での読書時間の有無と学校図書館の利用状況（子ども）.....	121
(5) 読み聞かせ経験の有無と読書の好き嫌い（保護者）.....	122
(6) 読み聞かせ経験の有無と月間での本の読書冊数（保護者）.....	123
(7) 読み聞かせ経験の有無と読書の大切さ（保護者）.....	124
(8) 読み聞かせ経験の有無とボランティアとしての協力の有無（保護者）.....	125
(9) 読み聞かせ経験の有無と家庭での読み聞かせ（保護者）.....	126

(10) 読み聞かせ経験の有無と読み聞かせの頻度（保護者）	128
-------------------------------------	-----

第4部 団体編	129
---------------	-----

1. 団体の主な活動場所	129
--------------------	-----

2. 会員数	130
--------------	-----

3. 中心となって活動している人の数	131
--------------------------	-----

4. 司書資格者数	132
-----------------	-----

5. 活動概要	133
---------------	-----

6. 対象者	134
--------------	-----

7. 平均参加人数	135
-----------------	-----

V. 調査票	136
--------------	-----

1. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、子どもの読書活動の現状や、平成16年度に実施した「子どもの読書活動に関する意識調査」(以下、前回調査と記述)からの変化を把握することにより、福岡市子ども読書活動推進計画改定の資料とすることを目的として実施した。

2. 調査対象者

- ①市立小学校2年生の児童及びその保護者
- ②市立小学校5年生の児童及びその保護者
- ③市立中学校2年生の生徒及びその保護者
- ④県立、市立、私立高校2年生の生徒及びその保護者
- ⑤子が1歳半、3歳の未就学児の保護者
- ⑥読書活動団体

3. 調査方法

- ①
 - ②
 - ③
- 教育委員会の巡回メール便を使い、配布・回収を行った。
- ④市立高校については教育委員会の巡回メール便、県立、私立高校については直接訪問して配布・回収を行った。
 - ⑤各区保健福祉センターでの定期検診(1歳6ヶ月及び3歳児健診)時に直接配布し、郵送によって回収を行った。
 - ⑥郵送によって配布・回収を行った。

4. 調査実施期間

平成21年11月1日～12月25日

5. 回収状況

	配布数	回収数	回収率(%)
小学校2年生	305	304	99.7%
小学校2年生の保護者	304	255	83.9%
小学校5年生	327	320	97.9%
小学校5年生の保護者	327	260	83.9%
中学校2年生	284	284	100%
中学校2年生の保護者	288	236	81.9%
高校2年生	318	313	98.4%
高校2年生の保護者	312	286	91.7%
未就学児の保護者	300	185	61.7%
読書活動団体	301	197	65.4%

6. 調査結果利用上の注意

- (1) 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を100%としている。なお、回答の比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、図表に示す比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の集計については、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、図表に示す各項目の比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表に示すN、nは、比率算出上の基数（標本数）である。
N＝標本全数
n＝該当数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）
- (4) 図表及び文章中では、スペースの関係で選択肢の文言を短縮して表記している場合がある。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- (6) 読書活動団体調査は、質問に対する回答を自由記述式で実施しているが、調査結果を定量的に把握するため、記述内容を定量データに置き換え、これを集計し、分析している。なお、自由記述式の調査を分析の手段として置き換えた定量データを、時系列的な変化をみる尺度とするのは適切ではないことから、平成16年度に実施した同様の調査との比較分析は行っていない。

II. 標本構成

1. 子ども

③ 学年別

		サンプル数	小学2年生	小学5年生	中学2年生	高校2年生
全	体	1,221	304	320	284	313
		100.0	24.9	26.2	23.3	25.6
性 別	男 性	571	156	150	138	127
		100.0	27.3	26.3	24.2	22.2
	女 性	639	144	168	142	185
		100.0	22.5	26.3	22.2	29.0
	無 回 答	11	4	2	4	1
		100.0	36.4	18.2	36.4	9.1

②性別

		サンプル数	男性	女性	無回答
全	体	1,221	571	639	11
		100.0	46.8	52.3	0.9
学 年 別	小学2年生	304	156	144	4
		100.0	51.3	47.4	1.3
	小学5年生	320	150	168	2
		100.0	46.9	52.5	0.6
	中学2年生	284	138	142	4
		100.0	48.6	50.0	1.4
	高校2年生	313	127	185	1
		100.0	40.6	59.1	0.3

③居住区別

		サンプル数	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区	市外	無回答
全	体	1,221	162	163	201	157	139	151	169	67	12
		100.0	13.3	13.3	16.5	12.9	11.4	12.4	13.8	5.5	1.0
性 別	男 性	571	73	64	104	83	66	76	71	31	3
		100.0	12.8	11.2	18.2	14.5	11.6	13.3	12.4	5.4	0.5
	女 性	639	87	97	97	72	72	75	95	35	9
		100.0	13.6	15.2	15.2	11.3	11.3	11.7	14.9	5.5	1.4
	無 回 答	11	2	2	-	2	1	-	3	1	-
		100.0	18.2	18.2	-	18.2	9.1	-	27.3	9.1	-
学 年 別	小学2年生	304	69	27	60	32	61	27	28	-	-
		100.0	22.7	8.9	19.7	10.5	20.1	8.9	9.2	-	-
	小学5年生	320	31	76	32	39	31	37	74	-	-
		100.0	9.7	23.8	10.0	12.2	9.7	11.6	23.1	-	-
	中学2年生	284	33	30	91	39	17	36	38	-	-
		100.0	11.6	10.6	32.0	13.7	6.0	12.7	13.4	-	-
	高校2年生	313	29	30	18	47	30	51	29	67	12
		100.0	9.3	9.6	5.8	15.0	9.6	16.3	9.3	21.4	3.8

2. 保護者

①子どもの学年別

	サンプル数	就学前保護者	小2保護者	小5保護者	中2保護者	高2保護者
全 体	1,222 100.0	185 15.1	255 20.9	260 21.3	236 19.3	286 23.4

②年齢別

	サンプル数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	
全 体	1,222 100.0	-	33 2.7	489 40.0	593 48.5	79 6.5	8 0.7	20 1.6	
子どもの学年別	就学前保護者	185 100.0	-	24 13.0	143 77.3	16 8.6	-	-	2 1.1
	小2保護者	255 100.0	-	7 2.7	154 60.4	90 35.3	2 0.8	-	2 0.8
	小5保護者	260 100.0	-	2 0.8	122 46.9	125 48.1	5 1.9	1 0.4	5 1.9
	中2保護者	236 100.0	-	-	47 19.9	163 69.1	19 8.1	1 0.4	6 2.5
	高2保護者	286 100.0	-	-	23 8.0	199 69.6	53 18.5	6 2.1	5 1.7
性別	男 性	63 100.0	-	2 3.2	16 25.4	30 47.6	13 20.6	2 3.2	-
	女 性	1,140 100.0	-	31 2.7	473 41.5	563 49.4	66 5.8	6 0.5	1 0.1
	無 回 答	19 100.0	-	-	-	-	-	-	19 100.0

③子どもとの関係別

	サンプル数	父	母	祖父	祖母	その他	無回答	
全 体	1,222 100.0	60 4.9	1,133 92.7	2 0.2	4 0.3	2 0.2	21 1.7	
子どもの学年別	就学前保護者	185 100.0	3 1.6	180 97.3	-	-	-	2 1.1
	小2保護者	255 100.0	9 3.5	243 95.3	-	-	1 0.4	2 0.8
	小5保護者	260 100.0	12 4.6	241 92.7	-	1 0.4	1 0.4	5 1.9
	中2保護者	236 100.0	13 5.5	214 90.7	-	1 0.4	-	8 3.4
	高2保護者	286 100.0	23 8.0	255 89.2	2 0.7	2 0.7	-	4 1.4

④性別

	サンプル数	男性	女性	無回答	
全 体	1,222 100.0	63 5.2	1,140 93.3	19 1.6	
子どもの学年別	就学前保護者	185 100.0	3 1.6	180 97.3	2 1.1
	小2保護者	255 100.0	9 3.5	244 95.7	2 0.8
	小5保護者	260 100.0	12 4.6	243 93.5	5 1.9
	中2保護者	236 100.0	14 5.9	216 91.5	6 2.5
	高2保護者	286 100.0	25 8.7	257 89.9	4 1.4

⑤居住区別

		サンプル数	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区	無回答
全 体		1,222 100.0	160 13.1	186 15.2	198 16.2	167 13.7	146 11.9	151 12.4	157 12.8	57 4.7
子どもの 学年別	就学前保護者	185 100.0	25 13.5	16 8.6	26 14.1	33 17.8	25 13.5	24 13.0	34 18.4	2 1.1
	小2保護者	255 100.0	55 21.6	25 9.8	52 20.4	32 12.5	48 18.8	19 7.5	24 9.4	- -
	小5保護者	260.0 100.0	23.0 8.8	76.0 29.2	32.0 12.3	24.0 9.2	28.0 10.8	35.0 13.5	42.0 16.2	- -
	中2保護者	236 100.0	34 14.4	20 8.5	70 29.7	37 15.7	16 6.8	31 13.1	26 11.0	2 0.8
	高2保護者	286 100.0	23 8.0	49 17.1	18 6.3	41 14.3	29 10.1	42 14.7	31 10.8	53 18.5

⑥子どもの人数別

		サンプル数	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全 体		1,222 100.0	198 16.2	603 49.3	327 26.8	60 4.9	12 1.0	22 1.8
子どもの 学年別	就学前保護者	185 100.0	81 43.8	84 45.4	18 9.7	- -	- -	2 1.1
	小2保護者	255 100.0	37 14.5	136 53.3	67 26.3	11 4.3	2 0.8	2 0.8
	小5保護者	260.0 100.0	25.0 9.6	134.0 51.5	83.0 31.9	11.0 4.2	2.0 0.8	5.0 1.9
	中2保護者	236 100.0	24 10.2	113 47.9	74 31.4	16 6.8	2 0.8	7 3.0
	高2保護者	286 100.0	31 10.8	136 47.6	85 29.7	22 7.7	6 2.1	6 2.1

3. 団体

①主な活動場所別

		サンプル数	市立公民館	他の 集会施設	小学校	留守家庭 子ども会	保育所・ 幼稚園等	その他
全 体		197 100.0	42 21.3	5 2.5	27 13.7	88 44.7	25 12.7	10 5.1

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 子どもの読書について

(1) 読書についての考え方や読書量について

①読書についての考え方

- 読書の好き嫌いについては『好き』(=「好きだ」+「どちらかといえば好きだ」)の割合が、いずれの学年も8割以上を占めており、多くの子ども達が本を好きだと答えている。前回調査と比較すると、小学2年生、中学2年生及び高校2年生は『好き』の割合が増加し、一方で『きらい』(=「きらい」+「どちらかといえばきらい」)の割合が減少しているが、小学5年生は逆に『好き』の割合が減少し、一方で『きらい』の割合が増加している。
- 読書が嫌いな理由としては、小学2年生は「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」と「文章を読むのが苦手だから」が多く、その他の学年は「文章を読むのが苦手だから」が多くなっている。また、小学5年生以上では「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」が、学年が上がるにつれて割合は増加している。前回調査と比較すると、小学生は「文章を読むのが苦手だから」が増加しており、5年前に比べて小学生の中で文章に対する苦手意識が増えている傾向がみられる。一方、高校2年生は「文章を読むのが苦手だから」が減少している一方で、「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」が増加している。
- 好きな本の種類は、学年に関わらず「小説や物語」(小学2年生は「物語」)が第1位、「マンガ」が第2位となっている。前回調査と比較すると、「小説や物語」について前回調査では小学5年生以外は第2位であったが、今回1位と2位の順位が入れ替わり、すべての学年で「小説や物語」が第1位となっている。また、「小説や物語」の割合はいずれの学年も前回調査の結果よりも10ポイント程度増加しており、活字本を好む児童生徒の割合が増加している傾向がみられる。
- 読書の大切さについては、『思う』(=「思う」+「どちらかといえば思う」)の割合がいずれの学年も9割を超えており、読書を大切だと思う児童生徒が大半を占めている。前回調査と比較すると、5年前に比べて読書を大切だと思う児童生徒は増加している傾向がみられる。
- 本を読んで良い点については、いずれの学年も「読んでいておもしろい」(小学2年生は「読んでいて楽しい」)が最も多く、次いで「知らないことがわかる」の順となっている。前回調査と比較すると、小学5年生は「読んでいておもしろい」が約8ポイント減少しているほか、高校2年生は「国語の力(色々な言葉を知るなど)がつく」が約5ポイント減少している。一方、中学2年生は「国語の力(色々な言葉を知るなど)がつく」が約7ポイント増加している。
- 本を読むようになる方法については、中学2年生までは「学校で読書の時間をもっと増やす」が最も多い。小学5年生は「テレビやゲームの時間を減らす」が約3割を占めている。なお、「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」は学年が上がるにつれて増加している。前回調査と比較すると、小学5年生と高校2年生で「テレビやゲームの時間を減らす」が増加している。
- 本の読み聞かせについては、小学生で『好き』(=「好き」+「どちらかといえば好き」)の割合が8割を超えているものの、中学2年生は約4割、高校2年生は約6割となっており、特に中学2年生は『きらい』(=「きらい」+「どちらかといえばきらい」)が『好き』を上回っている。前回調査と比較すると、小学生で『好き』の割合が約20ポイント増加しており、5年前に比べて読み聞かせの好きな児童が増加している傾向がみられる。

②読書量など

- 本の選択方法については、いずれの学年も「書店や図書館で自分で選んで」が最も多くなっている。また、学年が上がるにつれて、親にすすめられた本よりも友達からすすめられた本を選ぶ児童生徒が増加する傾向がみられる。前回調査と比較すると、小学生で「書店や図書館で自分で選ぶ」が増

えている傾向がみられる。その他の学年は5年前とほぼ同様の傾向となっている。

- 本の入手方法については、小学2年生で『借りる』（学校の図書館、それ以外の図書館、公民館などで）が約6割を占めているが、その他の学年は「本屋で買う」が6割以上となっている。前回調査と比較すると、いずれの学年も「本屋で買う」の割合が減少しており、特に小学2年生では約20ポイント減少している。
- 本の読書冊数については、小学2年生は月に3冊以上読む児童の割合が6割を超えるが、学年が上がるにつれて「読まない」と「1冊より少ない」の割合が増加しており、学年が上がるほど月間に読む本の冊数が少なくなる傾向がみられる。前回調査と比較すると、「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合は、小学2年生で約6ポイント減少、中学2年生は約10ポイント減少している。なお、小学5年生と高校2年生は5年前とほぼ同様となっている。
- 一方、マンガの月間読書冊数は、いずれの学年も月に3冊以上読む割合が4割程度を占めている。前回調査と比較すると、小学生で10ポイント程度増加しており、小学生のマンガの読書冊数が増加している傾向がみられる。
- 本を読む場所については、いずれの学年も「自宅」が8割以上で突出しているが、小学生と中学2年生は「学校」の割合も6割以上みられる。前回調査と比較すると、5年前に比べて「学校」で読書をする児童生徒は増加しているものと思われる。

③平日での時間の過ごし方

- 小学2年生は「外で遊ぶ」が平均1時間16分で最も長く、次いで「テレビを見る」（平均1時間07分）の順となっているが、「外で遊ぶ」時間は学年が上がるにつれて短くなる一方で、「テレビを見る」時間は学年が上がるにつれて長くなる傾向がみられ、最も長いのは中学2年生の平均1時間50分となっている。また、「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」時間も学年が上がるにつれて長くなる傾向がみられ、最も長いのは高校2年生の1時間14分となっている。「ゲーム機やパソコンでゲームをする」は小学5年生が平均56分で最も長く、次いで長いのは中学2年生で平均46分となっている。なお、「本を読む」時間は小学生と中学2年生では平均30分程度、高校2年生ではさらに短く平均25分となっている。
- 前回調査と比較すると、小学2年生は「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」時間が減少している。小学5年生も「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」時間が減少している一方で、「勉強する（学校以外で）」時間が増加している。中学2年生は「ゲーム機やパソコンでゲームをする」時間が増加している。高校2年生は「テレビを見る」時間が減少している一方で、「ゲーム機やパソコンでゲームをする」と「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」時間が増加しており、特に「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」時間は平均20分以上も増加している。なお、「本を読む」時間はいずれの学年も5年前とあまり変わっていない。

(2) 学校での読書について

- クラスでの読書の時間の有無については、小学2年生が92.4%、小学5年生は76.9%、中学2年生が58.5%、高校2年生が66.5%となっており、中学2年生が他の学年に比べて低くなっている。前回調査と比較すると、小学5年生と中学2年生は「ある」と回答した児童生徒の割合が減少している一方で、高校2年生は「ある」と回答した生徒の割合が30ポイント以上増加しており、高校生は5年前に比べて読書の時間が大幅に増加している傾向がみられる。
- 読書の時間があることによる変化については、中学2年生までは「以前より本を読むようになった」が半数以上と最も多いが、高校2年生は「特に変わりはない」が約7割と、意識に違いがみられる。前回調査と比較すると、小学5年生と中学2年生で「以前より本を読むようになった」児童生徒の割合が増加し、一方で「特に変わりはない」の割合が減少しており、読書の時間があることによ

て本を読むようになったと感じている児童生徒が5年前よりも増加している傾向がみられる。

- 学校図書館の利用状況をみると、『利用する』（＝「よく利用する」＋「ときどき利用する」）の割合は学年が上がるにつれて減少しており、特に小学5年生と中学2年生では30ポイント以上も開きが見られる。前回調査と比較すると、『利用する』と回答した児童生徒の割合は、中学2年生以外で大きく増加しており、学校図書館の利用頻度は5年前と比べて高くなった傾向がみられる。
- 学校図書館の利用方法については、中学2年生までは学年が上がるにつれて「調べ学習の時間」と「昼休み・中休み」に図書館を利用すると回答した児童生徒の割合が増加し、「図書の時間」は逆に学年が上がるほど減少する。高校2年生は「放課後」が最も多く、次いで「昼休み・中休み」の順となっている。前回調査と比較すると、小学生で「図書の時間」の割合が増加した傾向がみられる。中学2年生は「調べ学習の時間」が減少している一方で「昼休み・中休み」が増加している。高校2年生は「放課後」の割合が約18ポイント減少している。
- 学校図書館の利用上での問題点については、いずれの学年も「読みたい本がない」と「困ることは特にない」が4割程度ずつとなっている。前回調査と比較すると、いずれの学年も5年前とそれほど大きな違いはみられない。
- 学校図書館を利用しない理由としては、いずれの学年も「読みたい本がないから」の割合が最も多く、前回調査と比較すると、その割合は増加している。一方、「読書がきらいだから」、「図書室が遠いから（不便だから）」の割合は前回調査から減少している。
- 学級文庫の利用状況については、小学2年生では『読む』（＝「よく読む」＋「ときどき読む」）の割合が8割以上となっている。前回調査と比較すると『読む』の割合は約5ポイント増加している。小学5年生以上では、「はい」（学級文庫を利用する）と回答した児童生徒の割合は学年が上がるにつれて減少しており、特に小学5年生と中学2年生では約30ポイントも開きが見られる。前回調査と比較すると、いずれの学年も「はい」と回答した児童生徒の割合が増加している。
- 学級文庫の利用方法については、中学2年生までは「読書の時間」が最も多く、高校2年生は「昼休み・中休み」が最も多くなっている。前回調査と比較すると、中学2年生以外の学年で「読書の時間」が減少し、「昼休み・中休み」が増加している。なお中学2年生は「読書の時間」も「昼休み・中休み」も減少している。

（3）地域文庫活動について

- 公民館や地域の文庫活動への参加状況についてみると、『参加している』（＝「よく参加している」＋「ときどき参加している」）の割合が、小学2年生は3割を超えて最も多く、次いで小学5年生の順となっている。なお、中学2年生と高校2年生は1割にも満たない。前回調査と比較すると、小学2年生は『参加している』の割合が約4ポイント増加しているが、その他の学年は5年前とそれほど大きな違いはみられない。
- 参加目的については、いずれの学年も「本を借りた」が最も多く、中学2年生と高校2年生は7割を超えている。前回調査と比較すると、小学5年生で「本を借りた」の割合が約23ポイントも減少している一方で、高校2年生で「おはなし会」の割合が約19ポイント増加している。
- 地域文庫を利用する上での問題点については、小学5年生と中学2年生は「読みたい本がない」が3割程度を占めている。高校2年生では「近くにない」と「利用したいときに開いていない」がいずれも2割程度を占めている。前回調査と比較すると、小学5年生以外では「困ることは特にない」が増加しているが、小学5年生では「読みたい本がない」が約8ポイント、「近くにない」が約4ポイント増加している。
- 地域文庫に参加しない理由については、学年が上がるにつれて「地域文庫活動を知らない」の割合は減少し、一方で「身近にそのような活動がない」の割合が増加している。なお、高校2年生は「興味がない」（32.4%）が3割を超えて最も多くなっている。前回調査と比較すると、小学5年生は「他にすることがある」の割合が約5ポイント増加している。中学2年生は「身近にない」と「興味が

ない」の割合が約3ポイント増加している。高校2年生は「地域文庫活動を知らない」の割合が約3ポイント減少している。

- 地域文庫への参加意向については、「参加したい」と回答した児童生徒の割合は小学5年生(25.9%)が最も多く、次いで高校2年生(11.1%)の順となっており、中学2年生は1割に満たない。前回調査と比較すると、高校2年生以外で「参加したい」と回答した児童生徒の割合が20ポイントから30ポイントと大きく減少している。

(4) 学校以外の図書室などの利用について

①市立総合図書館・分館について

- 学校以外の図書館への来館経験についてみると、小学2年生では『行っている』(=「よく行っている」+「ときどき行っている」)の割合が半数以上を占めている。前回調査と比較すると、『行っている』の割合は約8ポイント増加しており、学校以外の図書館への来館経験は増加している傾向がみられる。また、小学5年生以上については、いずれの学年も来館経験が「ある」と回答した割合が6割を超えているが、前回調査と比較すると「ある」の割合は減少しており、5年前に比べると市立図書館への来館経験が減少している傾向がみられる。
- 市立図書館への来館頻度は、学年が上がるにつれて少なくなる傾向がみられる。前回調査と比較すると、小学5年生は「月に1回以上」と「年に1回以上」が増加しているが、「半年に1回以上」の割合は減少しており、来館頻度が多い児童と少ない児童に2極化している傾向がみられる。中学生以上は「月に1回以上」と「半年に1回以上」の割合が減少している一方で、「年に1回以上」が増加しており、来館頻度は全体的に低くなっている傾向がみられる。
- 市立図書館に来館する際の同伴者についてみると、学年が上がるにつれて「家族」の割合は減少し、「友達」や「自分1人で」の割合が増加する傾向がみられる。前回調査と比較すると、中学2年生までは「家族」の割合が増加し、「友達」の割合が減少している。高校2年生は逆に「友達」や「自分1人で」の割合が増加し、「家族」の割合が減少している。
- 市立図書館に来館する際の主な目的については、いずれの学年も「本を借りる」が最も多く、次いで「本を読んだり調べものをする」の順となっている。なお、学年が上がるにつれて「学習室を利用する」の割合が増加している。前回調査と比較すると、高校2年生で「学習室を利用する」の割合が約3ポイント増加している。
- 市立図書館を利用する際の問題点については、小学5年生で「探している本がない」、中学2年生は「近くにない」、高校2年生は「席が空いていない」が、それぞれ3割程度で最も多くなっている。前回調査と比較すると、小学5年生で「探している本がない」と「席が空いていない」の割合が増加している。また、高校2年生は「席が空いていない」が増加している一方で、「近くにない」の割合が減少している。
- 市立図書館を利用しない理由については、いずれの学年も「書店で買うことが多い」の割合が最も多く、学年が上がるにつれて「図書館が遠い」と「本に興味がない」の割合が増加している。前回調査と比較すると、小学5年生で「図書館が遠い」と「書店で買うことが多い」が減少している。中学2年生以上では「図書館が遠い」と「書店で買うことが多い」の割合が増加している一方で、「本に興味がない」の割合は減少している。

②市の公共施設内の図書室について

- 公共施設内にある図書室のなかでよく利用する図書室については、「あまり利用しない」がいずれの学年も6割から7割以上と群を抜いているが、利用している中では小学5年生の「公民館」や「博物館」、「少年科学文化会館」が1割程度となっている。前回調査と比較すると、小学5年生は「少年科学文化会館」の割合が約3ポイント減少し、「公民館」の割合が約4ポイント増加している。
- 公共施設内にある図書室を使いやすくするために必要なこととしては、いずれの学年も「本の種類

を増やす」が最も多く、次いで「貸出期間を長くする」となっている。前回調査と比較すると、小学5年生で「利用できる時間を長くする」、「利用日を増やす」、「貸出期間を長くする」が5ポイント以上減少している。

2. 保護者の読書について

(1) 読書についての考え方や読書量などについて

① 読書についての考え方や読書量などについて

- 読書の好き嫌いについては、いずれの保護者も『好き』の割合が8割程度を占めている。しかしながら、前回調査と比較すると、いずれの保護者も『好き』の割合が減少し、『きらい』の割合が増加しており、保護者の読書離れが進んでいる傾向がみられる。
- 読書が嫌いな理由としては、いずれの保護者も「文章を読むのが苦手だから」の割合が最も多く、次いで「他に楽しいことがあるから」の順となっている。前回調査と比較すると、就学前保護者で「文章を読むのが苦手だから」が約18ポイント増加しており、文章に対する苦手意識が増大している傾向がみられる。
- よく読むものとしては、いずれの保護者も「小説や物語」の割合が最も多い。また「スポーツや趣味等の実用書」や「新聞」も1割から2割程度を占めている。なお、小5保護者は「マンガ」の割合が他の保護者に比べて高くなっている。前回調査と比較すると、小5保護者以外で「新聞」の割合が減少している。また、就学前、中2保護者は「スポーツや趣味等の実用書」の割合も減少している。なお、小5保護者は「マンガ」の割合が10ポイント以上増加している。
- 本の入手方法については、いずれの保護者も「本屋で買う」の割合が大半を占めているが、就学前及び小2保護者は「市立総合図書館や分館で借りる」が2割以上みられる。前回調査と比較すると、就学前保護者以外で、「市立総合図書館や分館で借りる」が減少している。また小2及び高2保護者は「本屋で買う」の割合が増加している。
- 本の選択方法については、いずれの保護者も「書店や図書館で自分で選ぶ」の割合が最も多くなっている。また「新聞、テレビ等の広告を見て」の割合は学年が上がるにつれて増加する傾向がみられる。前回調査と比較すると、「新聞、テレビ等の広告を見て」の割合はいずれの保護者も減少している。また「書評を見て」の割合が就学前保護者で約9ポイント増加しており、5年前に比べて書評を参考に本を選ぶ保護者が増加している傾向がみられる。
- 本の読書冊数については、「1冊より少ない」もしくは「1~2冊」が最も多くなっており、それ以上の冊数を読んでいる保護者は少ない。「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合をみると、就学前保護者は半数以上を占めている。小学生以上の保護者はいずれも4割程度を占めている。前回調査の結果と比較すると、「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合は、就学前及び小学生の保護者で増加しており、特に小2保護者は20ポイント以上も増加している。なお、中2保護者は約3ポイント減少、高2保護者は5年前とほぼ同程度となっている。
- 読書の場所は、いずれの保護者も「自宅」が9割以上と突出している。前回調査と比較しても、ほぼ同様の傾向となっている。
- 読書の大切さについては、『思う』の割合はいずれの保護者も9割以上を占めている。前回調査と比較しても、5年前と大きな違いはみられない。
- 本を読んで良い点としては、いずれの保護者も「知らないことがわかる」の割合が最も多く、次いで「考える力がつく」、「語彙が豊富になる」の順となっている。また就学前児童の保護者は「気分転換になる」が4割を越え、他の保護者に比べて高い。前回調査と比較すると、5年前と大きな違いはみられない。
- 子どもがもっと本を読むようになる方法としては、いずれの保護者も「学校で読書の時間をもっと

増やす」や「テレビやゲームの時間を減らす」が多くなっている。前回調査と比較すると、高2保護者は「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」が約7ポイント増加しており、5年前に比べて子どもの自主性を尊重する人が増加している傾向がみられる。

②余暇時間について

- 平日の余暇時間の取得については、「とれる」と「少しはとれる」と回答した保護者がいずれも7から8割を占めており、時間の多少はともかく余暇時間が取得できる保護者が多い。前回調査と比較すると、就学前保護者は「とれる」の割合が約9ポイント減少している一方で、「取れない」が約6ポイント増加しており、余暇時間をとれない保護者が増えている傾向がみられる。
- 平日の余暇時間の使い方については、いずれの保護者も「テレビをみる」時間が一番長く、就学前と小2保護者は平均1時間10分程度、小5以上の保護者は平均1時間30分前後となっている。なお、「本を読む」はいずれの保護者も30分程度となっている。
- 前回調査と比較すると、「メール、インターネット、ゲームをする」時間がいずれの保護者も5年前に比べて長くなっており、「本を読む」時間と同程度もしくはそれ以上にまで平均時間が増加している。就学前児童の保護者は「テレビを見る」時間が平均で11分減少しているが、「本を読む」時間も平均で7分減少している。小2保護者は「メール、インターネット、ゲームをする」時間が平均で8分増加している。小5保護者は「メール、インターネット、ゲームをする」時間が平均で14分増加しているほか、「テレビを見る」時間が平均で12分増加している。中2保護者は「本を読む」時間が平均で8分増加しているものの、「メール、インターネット、ゲームをする」時間も平均で12分増加している。高2保護者は「本を読む」時間が平均で7分増加しているものの、「メール、インターネット、ゲームをする」時間も平均で7分増加している。

(2) 地域文庫活動について

- 公民館や地域の文庫活動への参加経験については、いずれの保護者も「参加したことはない」が半数以上を占めており、『参加している』の割合は就学前保護者で18.9%、小2保護者で14.1%となっている以外は1割に満たない。前回調査と比較すると、5年前とそれほど大きな変化はみられない。
- 公民館や地域の文庫活動への参加内容については、いずれの保護者も「おはなし会」と「本を借りた」が半数以上を占めている。前回調査と比較すると、いずれの保護者も「本を借りた」の割合が減少している一方で、「おはなし会」の割合が増加している。
- 公民館や地域の文庫活動の利用上の問題点については、いずれの保護者も「読みたい本がない」と「近くにない」の割合が2割以上で多くなっている。前回調査と比較すると、就学前保護者は「近くにない」の割合が約16ポイント減少している一方で、「読みたい本がない」が約9ポイント増加している。また小2保護者が「利用したいときに開いていない」が約7ポイント増加している一方で、中2以上の保護者では「読みたい本がない」が減少している。
- 公民館や地域の文庫活動に参加しない理由については、就学前保護者、小5及び中2保護者で「地域文庫活動を知らない」が最も多く、特に就学前保護者は約4割と、他の保護者に比べて多い。小2及び高2保護者は「他にすることがある」が最も多くなっている。前回調査と比較すると、小学生及び中2保護者は「地域文庫活動を知らない」の割合が減少しており、公民館や地域の文庫活動への認知度は5年前と比べて高まっていると思われるが、小学生の保護者では「興味がない」の割合が増加している。なお、就学前保護者は「地域文庫活動を知らない」の割合が5年前とほぼ同程度となっており、公民館や地域の文庫活動への認知度があまり変化していない。
- 公民館や地域の文庫活動にボランティアとして協力できるか尋ねたところ、いずれの保護者も「時間的に余裕がない」が半数以上を占めており、特に就学前保護者は7割以上と突出している。前回調査と比較すると、小学生以上の保護者で「要請があれば協力したい」の割合が減少しており、特に高2保護者は約7ポイント減少している。

(3) 図書館などの利用について

①市立図書館（総合図書館・分館）について

- 市立図書館への来館経験については、いずれの保護者も「ある」が7割以上を占めており、来館経験率は高い。前回調査と比較すると、就学前保護者は「ある」の割合が約11ポイント増加しており、5年前に比べて来館率が高くなっている傾向がみられる。
- 市立図書館への来館頻度について「週1回以上」と「月1回以上」を合わせた割合でみると、小2保護者が40.2%で最も多く、次いで就学前保護者(28.9%)、小5保護者(23.4%)の順となっている。前回調査と比較すると、「週1回以上」と「月1回以上」を合わせた割合が就学前及び小2保護者では大きく減少している一方で、「半年に1回以上」と「年に1回程度」の割合が増加しており、5年前に比べて低学年以下の児童の保護者の来館頻度が減少している傾向がみられる。
- 市立図書館に行く際の同伴者については、小学生以下の保護者は「家族」の割合が大半を占めているが、中2及び高2保護者は「家族」が5割から6割で最も多いものの、「自分1人で」が3割から4割を占め、小学生以下の保護者に比べて高い。前回調査と比較すると、中2保護者は「家族」の割合が約9ポイント減少している一方で、「自分1人で」が約8ポイント増加しており、5年前に比べて1人で来館する保護者が増えている傾向がみられる。
- 市立図書館利用の主な目的については、いずれの保護者も「本を借りる」が最も多い。「子どものため」は小学生以下の保護者で3割前後を占めて高く、「本を読んだり調べものをする」は子どもの学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。前回調査と比較すると、小学生の保護者で「本を借りる」と「子どものため」の割合が増加している。
- 市立図書館の利用上での問題点については、就学前及び中2保護者では「近くにない」が、小学生及び高2保護者では「探している本がない」が最も多い。前回調査と比較すると、「探している本がない」が小2保護者で約8ポイント増加している一方で、中2保護者では約6ポイント減少している。また、就学前保護者は「特にない」の割合が約11ポイント増加しており、他の保護者に比べて割合の伸びが著しい。
- 市立図書館を利用しない理由としては、就学前、小5及び高2保護者は「書店で買うことが多い」、小2保護者は「図書館が遠い」がそれぞれ最も多く、中2保護者は「書店で買うことが多い」と「図書館が遠い」が同程度となっている。前回調査と比較すると、「図書館が遠い」は就学前、小5保護者及び高2保護者で減少しているものの、小2保護者と中2保護者で増加している。また「書店で買うことが多い」は小2保護者と中2保護者で減少しているものの、高2保護者で増加している。また小5保護者は「書店で買うことが多い」は5年前とほぼ同程度となっているが、「本に興味がない」が約8ポイント増加している。

②市の公共施設内の図書室について

- 公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室については、いずれの保護者も「公民館」が最も多く、特に就学前保護者で14.6%と他の保護者と比べて高い。また小2保護者で「少年科学文化会館」が10.6%と他の保護者と比べて高い。前回調査と比較すると、就学前及び小5保護者で「公民館」が約4ポイント減少しているほか、小2保護者で「少年科学文化会館」が約4ポイント減少している。
- 公共施設内にある図書室を使いやすくするために必要なこととしては、いずれの保護者も「本の種類を増やす」が最も多く、次いで「利用できる時間を長くする」の順となっている。前回調査と比較すると、「利用できる時間を長くする」の割合が小5保護者以外の保護者で減少している。

(4) 子どもが幼いときからの関わりについて

- 子どもの頃に『読み聞かせをしてもらった経験がある』(=「よく読んでもらった」+「読んでもら

ったことがある)と回答した保護者は、就学前保護者が約6割で最も多く、子どもの学年が上がるにつれて割合が減少する傾向がみられる。前回調査と比較すると、いずれの保護者も『読み聞かせをしてもらった経験がある』と回答した人の割合が増加している。

- 子どもが読み聞かせをしてもらっている場所（小学生以上はしてもらっていた場所）については、就学前保護者は「家庭」が全体の7割以上を占めている。小学生以上の保護者も「家庭」が最も多いものの、「保育園」、「幼稚園」も2から3割程度みられる。前回調査と比較すると、就学前保護者は「家庭」の割合が約6ポイント減少している一方で、「保育園」が約7ポイント増加しており、家庭での読み聞かせが減少している傾向がみられる。また小学生以上の保護者も「家庭」の割合が減少し、「保育園」の割合が増加している。
- 家庭での読み聞かせについては、就学前児童の保護者は読み聞かせを『している』（＝「よくしている」＋「ときどきしている」）割合が9割を超えており、前回調査と比較すると約6ポイント増加している。一方、小学生以上の保護者も読み聞かせを『していた』（＝「よくしていた」＋「ときどきしていた」）割合は中2及び高2保護者が8割、小学生の保護者も7割以上みられるものの、「よくしていた」と回答した割合は、子どもの学年が下がるにつれて減少する傾向がみられる。前回調査と比較すると、小2保護者は『していた』割合が約7ポイント増加している。一方、小5保護者は『していた』割合が約6ポイント減少しているほか、高2保護者も約4ポイント減少している。
- 読み聞かせを始めたきっかけとしては、就学前児童の保護者は「4ヶ月健診で絵本をもらって」と回答した割合が3割を超えて最も多くなっている。小学生以上の保護者はいずれも「保育園や幼稚園ですすすめられて」の割合が最も多くなっている。
- 読み聞かせを始めた年齢については、就学前保護者は「0～4ヶ月」と「4～10ヶ月」がいずれも4割前後となっており、10ヶ月前から読み聞かせを始めた保護者の割合が8割を超えている。前回調査と比較すると、10ヶ月前から読み聞かせを始めた保護者が増えているほか、「していない」と回答した保護者の割合も1%程度にまで減少しており、早い時期からの読み聞かせ実施が5年前に比べて浸透している傾向がみられる。小学生以上の保護者については、いずれも「1～2歳のとき」が最も多く、次いで「0歳のとき」、「3～4歳のとき」の順となっている。前回調査と比較すると、「0歳のとき」の割合は小2保護者が約3ポイント増加している。小5保護者は約5ポイント減少、中2保護者は約10ポイント増加となっている。高2保護者はほぼ同程度である。
- 読み聞かせの終了年齢については、小2保護者が「小学校入学以後まで（今も読んでいる人を含む）」（46.7%）が4割を超え、他の保護者を大きく上回っている。なお小5以上の保護者では「小学校に入学するまで」がいずれも4割を超えて最も多い。前回調査と比較すると、小5保護者は「小学校入学以後まで」と「小学校に入学するまで」が減少し、「4～5歳まで」が増加している。中2及び高2保護者は「小学校入学以後まで」が増加し、「4～5歳まで」が減少している。
- 読み聞かせの頻度については、就学前保護者は「毎日」が4割程度と他の保護者を2割程度上回っている。また中2保護者以外の保護者は「週に1～2回」が、中2保護者は「週に3～5回」が最も多い。前回調査と比較すると、就学前保護者で「毎日」が約8ポイント増加している。また小2保護者では「週に3～5回」が約8ポイント増加している。
- 読み聞かせの本の選択方法については、いずれの保護者も「書店で見て」の割合が最も多い。前回調査と比較すると、就学前保護者で「書店で見て」と「知人にすすめられて」が増加している一方で「保育園や幼稚園で聞いて」が減少しており、5年前に比べて就学前児童の保護者は保育園や幼稚園で読まれる本よりも、書店や知人からの口コミで読み聞かせの本を選ぶ人が増えている傾向がみられる。
- 読み聞かせが子育てにどのような影響があったかについて、就学前児童の保護者は「子どもが喜んだ」が8割を超えて最も多く、次いで「子どもとのふれあいの時間が増えた」が5割超で続く。前回調査と比較すると、「子どもが喜んだ」と「子どもとのふれあいの時間が増えた」の割合が多い傾向は5年前と同様であるが、「子育てが楽しくなった」の割合が約9ポイント増加している。小学生

以上の保護者については、小2保護者は「本が好きになったと思う」が4割を超えて最も多く、小5、中2及び高2保護者はいずれも「感受性が豊になったと思う」が最も多くなっている。前回調査と比較すると、小学生及び高2保護者は「感受性が豊になったと思う」の割合が減少している。なお、高2保護者は「本が好きになったと思う」の割合が約8ポイント増加している。

3. 読書に関する意識別にみた傾向について

(1) 「読書の好き嫌い」と「読書の大切さ」の関連性

- 児童生徒については、読書の大切さについて「思う」と回答した割合の差は、読書の好き嫌いによって大きな開きがみられる。また読書が大切だと『思う』割合についても、読書の好き嫌いによって開きがみられる。これより、児童生徒については、読書の好き嫌いと言書の大切さに関する意識には相関関係がみられる。
- 保護者については、読書の大切さについて「思う」と回答した割合の差は、読書の好き嫌いによって開きがみられるものの、読書が大切だと『思う』割合については、読書の好き嫌いにかかわらず9割を超えて高くなっている。これより、保護者については、読書の好き嫌いにかかわらず、大半の保護者が読書を大切だと思っている傾向がみられる。

(2) 読書を勧める働きかけが意識と行動に及ぼす影響

① 学校での読書時間の有無別にみた児童生徒の傾向

- 読書の好き嫌いについては、いずれの学年も『好き』の割合は読書時間がある児童生徒の方が、読書時間がない児童生徒よりも上回り、逆に『きらい』の割合は読書時間がある児童生徒よりも読書時間がない児童生徒の方が上回っている。これより、学校での読書時間の有無と児童生徒の読書の好き嫌いには相関関係がみられる。
- 読書の大切さについては、「思う」と回答した割合は、小学生では読書時間の有無によって差がみられるものの、中学2年生、高校2年生は、特に大きな差はみられない。また、「どちらかといえば思う」を合わせた、読書が大切だと『思う』割合も同様の傾向となっている。これより、学校での読書時間の有無によって読書の大切さに関する意識に差が生じるのは小学生のうちで、学年が上がるにつれて学校での読書時間の有無との関係はみられなくなる。
- 月間での本の読書冊数については、学校での読書時間の有無により「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合の差に開きが顕著にみられるのは小学生で、中学2年生になると差は縮まり、さらに高校2年生は学校での読書時間の有無にかかわらず「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合はいずれも5割程度で大きな差はみられない。これより、学校での読書時間の有無によって月間での本の読書冊数に差が生じるのは小学生のうちで、学年が上がるにつれて学校での読書時間の有無との関係はみられなくなる。
- 学校図書館の利用状況については、「よく利用する」と回答した割合の差は、中学2年生以外は学校での読書時間の有無によって開きがみられる。また、『利用する』割合についても、中学2年生以外は学校での読書時間の有無によって開きがみられる。なお、中学2年生は読書時間がない生徒の方が、読書時間がある生徒よりも「よく利用する」の割合が10ポイント以上上回っており、『利用する』割合についても、中学2年生は読書時間がない生徒の方が、読書時間がある生徒よりも約15ポイント上回っている。

② 読み聞かせ経験の有無別にみた保護者の傾向

- 読書の好き嫌いについては、中2保護者までは『好き』の割合は読んでもらったことがある保護者の方が、読んでもらったことはない保護者よりも上回り、逆に『きらい』の割合は読んでもらった

ことがある保護者よりも読んでもらったことはない保護者の方が上回っている。なお、高2保護者は読み聞かせ経験の有無に関わらず『好き』、『きらい』の割合はほぼ同程度となっている。これより、読み聞かせ経験の有無と保護者の読書の好き嫌いには、子どもが中学生のときまでは相関関係がみられる。

- 読書の大切さについては、いずれの保護者も「思う」と回答した割合の差は、読み聞かせ経験の有無によって開きが見られるが、読書が大切だと『思う』割合については、読み聞かせ経験の有無にかかわらず9割を超えている。これより、読み聞かせ経験の有無にかかわらず、大半の保護者が読書を大切だと思っている傾向がみられる。
- ボランティアとしての協力の有無については、「時間的に余裕がない」と回答した保護者が、読み聞かせ経験の有無にかかわらず大半を占めている。なお、「要請があれば協力したい」の割合の差は、いずれの保護者も読み聞かせ経験の有無によって開きが見られる
- 子どもへの家庭での読み聞かせについて、就学前保護者において『している』の割合は、読んでもらったことがある保護者が、読んでもらったことはない保護者よりも約13ポイント上回っている。小・中・高校生保護者については、いずれの保護者も『していた』の割合の差は、読み聞かせ経験の有無によって開きが見られる。
- 読み聞かせの頻度について、「毎日」の割合の差は、小5保護者以外は読み聞かせ経験の有無によって開きが見られる。小5保護者は「毎日」の割合が読み聞かせ経験の有無にかかわらず同程度の割合となっている。なお、就学前保護者のうち、読んでもらったことがある保護者は「毎日」が4割を超えて最も多いが、読んでもらったことはない保護者は「週に1～2回」が4割を超えて最も多くなっている。小学生の保護者はいずれも、読み聞かせ経験の有無にかかわらず「週に1～2回」の割合が最も多い。中学2年生及び高校2年生の保護者は、読んでもらったことがある保護者は「週に3～5回」が最も多いが、読んでもらったことはない保護者は「週に1～2回」が最も多くなっている。

4. 読書活動団体について

(1) 読書活動団体の概要

- 福岡市にある読書活動をしている団体の種類で、最も多いのは「留守家庭子ども会」で活動している団体(44.7%)で、4割を超えている。次いで「市立公民館」(21.3%)、「小学校」(13.7%)、「保育所・幼稚園等」(12.7%)の順となっている。
- 会員数をみると、「51～100人」(38.1%)が最も多いものの、全体的には「20人以下」の小団体から「301人以上」の大きな団体まで幅広く分布している。主な活動場所別にみると、「市立公民館」は「21～50人」(45.2%)、「小学校」は「301人以上」(81.5%)、「留守家庭子ども会」は「51～100人」(68.2%)、「保育所・幼稚園等」は「100～200人」(44.0%)が最も多く、活動場所によって会員数に差がみられる。
- 団体の中で読み聞かせなどの催しをして中心となって活動している人の数としては、「1～3人」(28.9%)が最も多く、次いで「4～6人」(22.8%)となっている。主な活動場所別にみると、「市立公民館」は「10～12人」(23.8%)が、「小学校」と「保育所・幼稚園等」は「16人以上」が、「留守家庭子ども会」は「1～3人」(51.1%)が最も多く、活動場所によって人数に差がみられる。
- 会員の中で司書の資格を持っている人がいる団体は17.2%と全体の2割に満たない。主な活動場所別にみると、「市立公民館」が31.0%、「小学校」は40.7%、「留守家庭子ども会」は6.8%、「保育所・幼稚園等」は8.0%となっている。
- 各団体の活動内容として最も多いものは「本の読み聞かせ」(88.2%)で、8割以上を占めている。次いで「自由に読書」(51.3%)、「本の貸し出し」(41.6%)の順となっている。主な活動場所別に

みると、「市立公民館」では「本の貸し出し」が、「小学校」と「保育所・幼稚園等」は「本の読み聞かせ」が最も多くなっている。なお「留守家庭子ども会」では「本の読み聞かせ」と「自由に読書」がいずれも96.6%と最も高い。

- 各団体を利用できる対象者としては「小学1年生～3年生（または4年生）」が4割を超えて最も多い。主な活動場所別にみると、「市立公民館」は「乳幼児から小学生」が、「小学校」は「全校児童」が最も多い。なお「留守家庭子ども会」は「小学1年生～3年生（または4年生）」、「保育所・幼稚園」は「在園児」のみ対象となっている。
- 各団体の月間平均参加人数は「51～100人」が約4割で最も多い。主な活動場所別にみると、「市立公民館」と「留守家庭子ども会」では「51～100人」が、「小学校」と「保育所・幼稚園等」では「101人以上」が最も多くなっている。

IV. 調査結果

第1部 子ども編

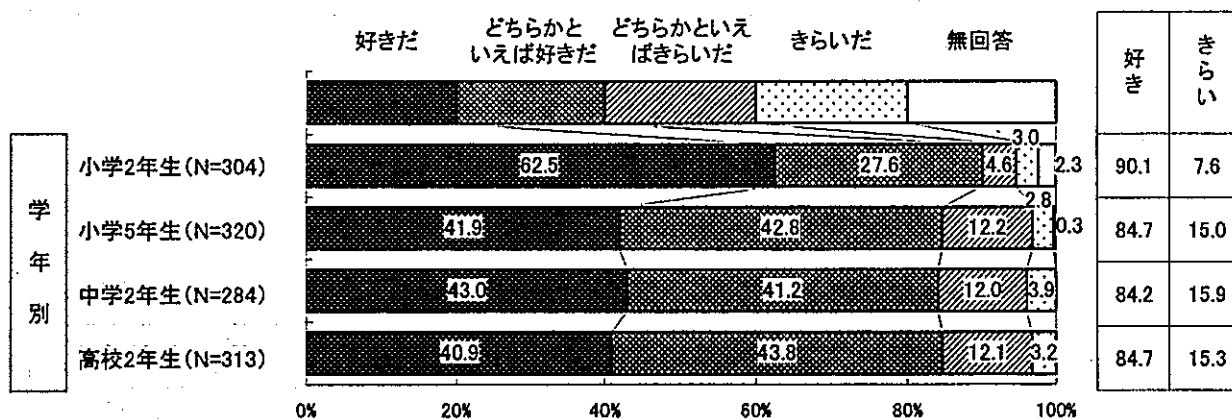
1. 読書について

(1) 読書の好き嫌い

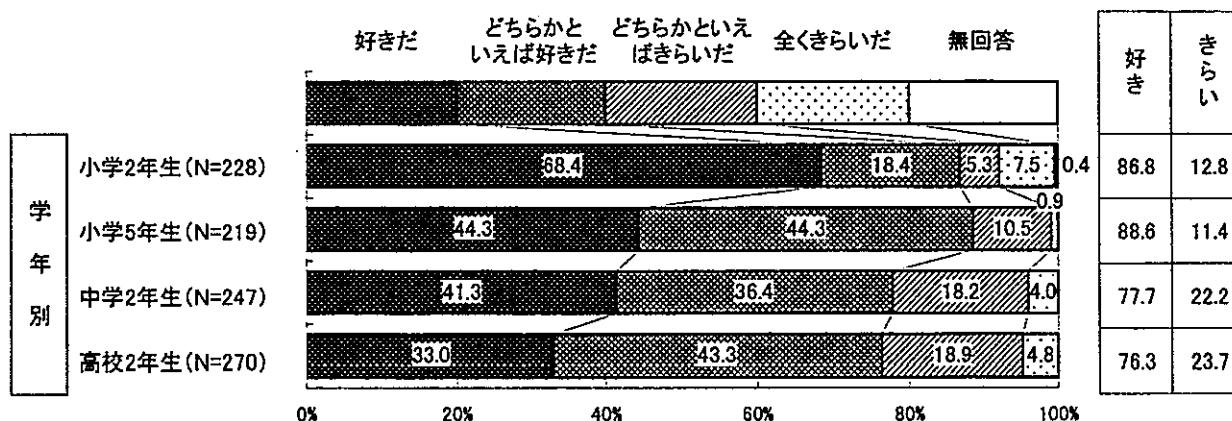
読書の好き嫌いについて尋ねたところ、読書が「好きだ」と回答した割合は小学2年生が62.5%で最も多く、その他の学年はいずれも4割程度となっている。また、「どちらかといえば好きだ」を合わせた『好き』の割合も同じく小学2年生が90.1%で最も多く、次いで小学5年生と高校2年生（いずれも84.7%）、中学2年生（84.2%）の順となっている。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は『好き』の割合が増加しているものの、小学5年生は『好き』の割合が減少している。中学2年生、高校2年生は『好き』の割合が増加しており、特に、高校2年生は約8ポイント増加している。一方、『きれい』（＝「全くきれいだ」＋「どちらかといえばきれいだ」）の割合は小学2年生が減少しているが、小学5年生は増加している。中学2年生、高校2年生はいずれも『きれい』の割合は減少しており、特に、高校2年生は約8ポイント減少している。5年前に比べて、小学校低学年及び中高生は読書が好きな児童生徒が増加している傾向がみられる。

図表 読書の好き嫌い



参考：読書の好き嫌い（前回調査）

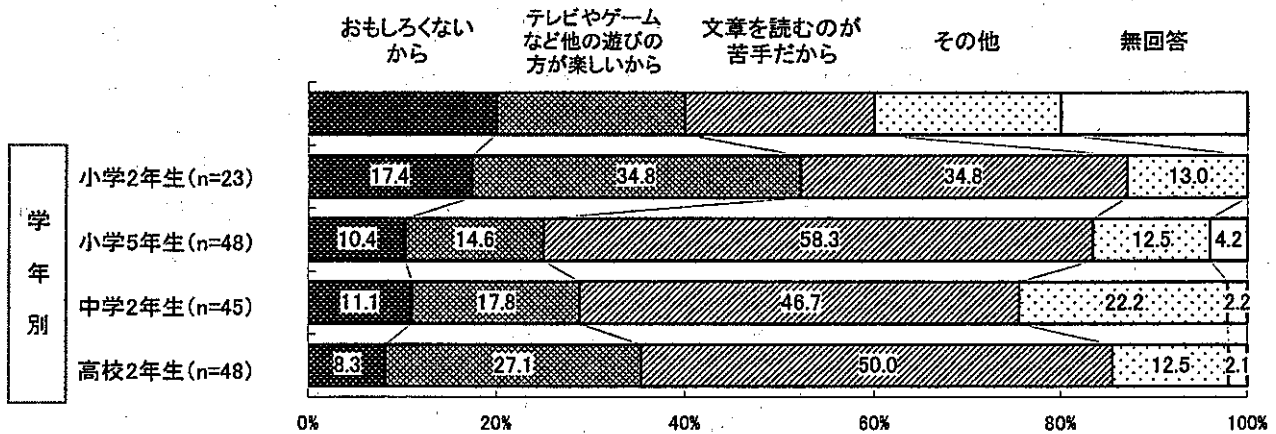


(2) 読書が嫌いな理由

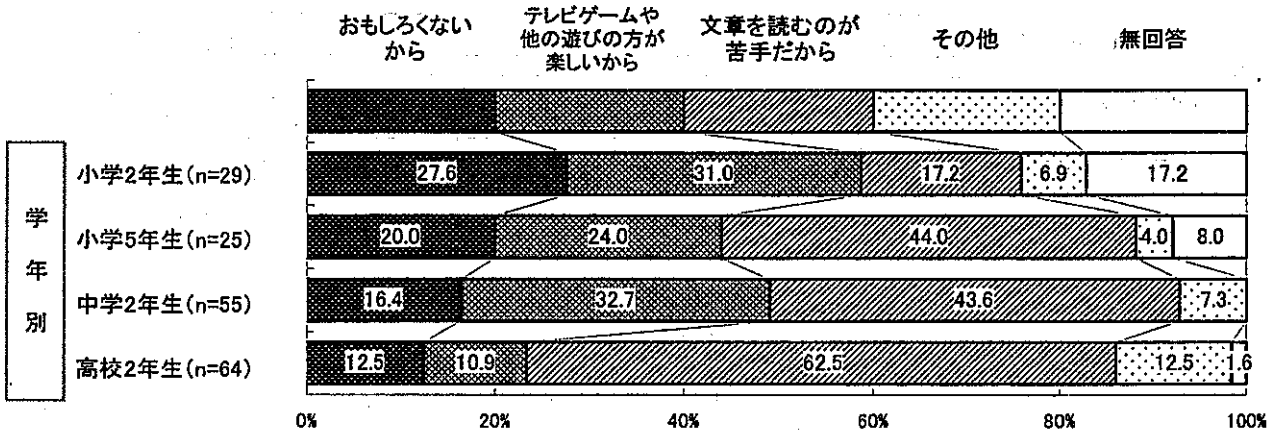
読書が嫌いな理由としては、小学2年生では「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」と「文章を読むのが苦手だから」がいずれも34.8%で最も多くなっている。その他の学年はいずれも「文章を読むのが苦手だから」が最も多くなっている。また、小学5年生以上では「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」の割合が、学年が高くなるほど多くなっている。

前回調査の結果と比較すると、「文章を読むのが苦手だから」が小学2年生で約17ポイント、小学5年生で約14ポイントも増加しており、5年前に比べて小学生の中で文章に対する苦手意識が増大している傾向がみられる。一方、高校2年生は「文章を読むのが苦手だから」が約12ポイント減少し、逆に「テレビやゲームなど他の遊びの方が楽しいから」が約16ポイント増加している。

図表 読書が嫌いな理由



参考：読書が嫌いな理由（前回調査）



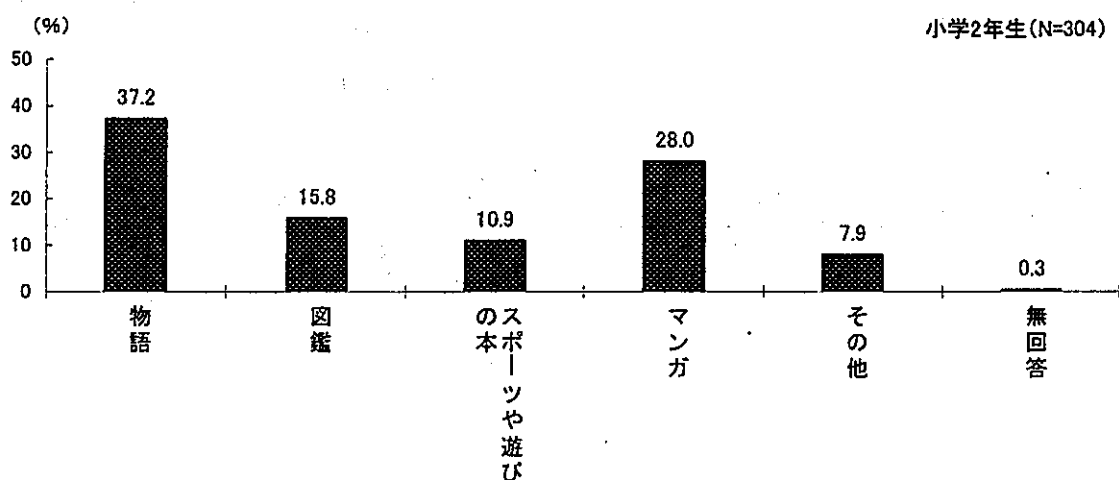
(3) 好きな本の種類

好きな本の種類を①小学2年生、②小学5年生・中学2年生、③高校2年生別に尋ねてみたところ、次のようになっている。

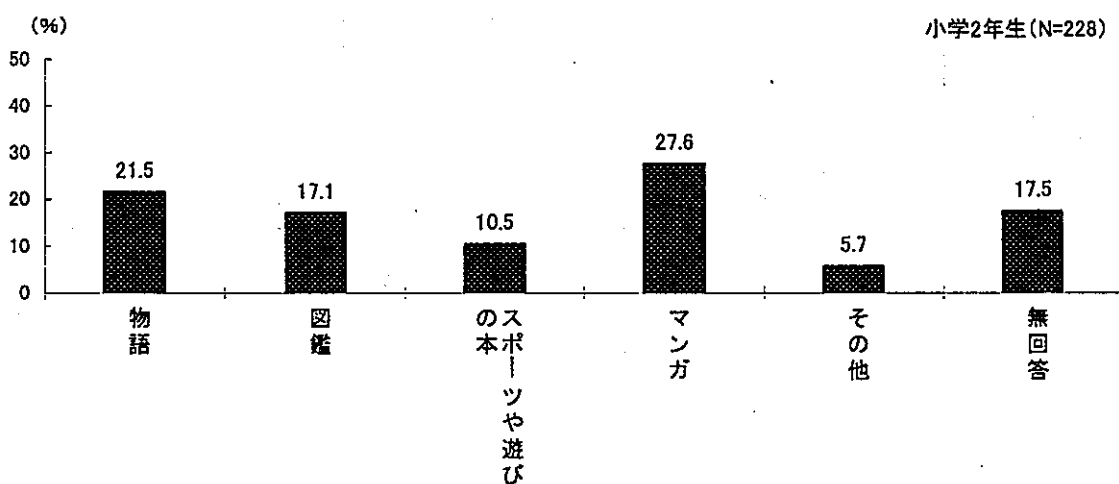
①小学2年生

小学2年生では、第1位が「物語」(37.2%)、第2位が「マンガ」(28.0%)、第3位が「図鑑」(15.8%)となっており、前回調査の結果から第1位と第2位が入れ替わっている。特に、今回第1位の「物語」は前回調査の結果を約15ポイント上回る結果となっている。

図表 好きな本の種類 (小学2年生)



参考：好きな本の種類 (小学2年生) (前回調査)

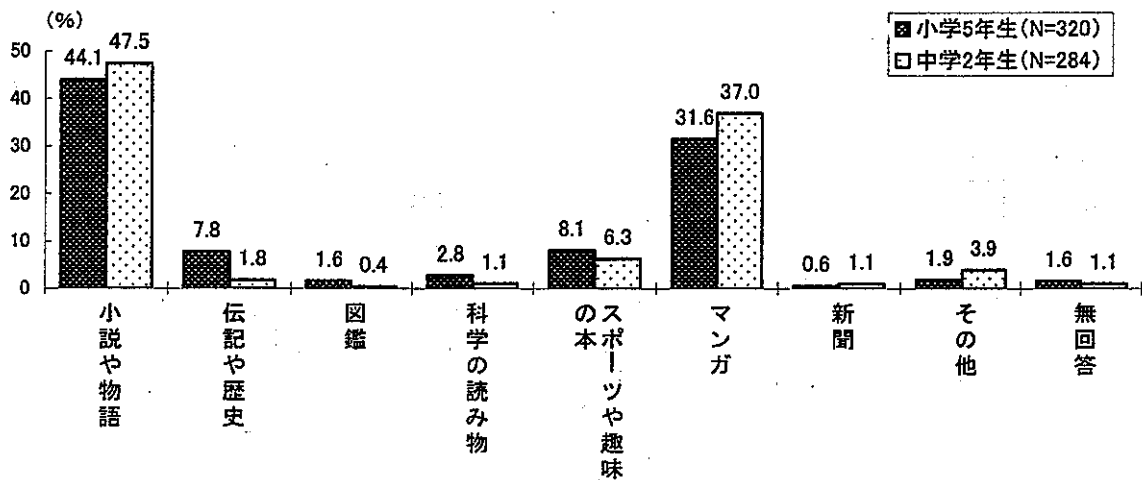


②小学5年生・中学2年生

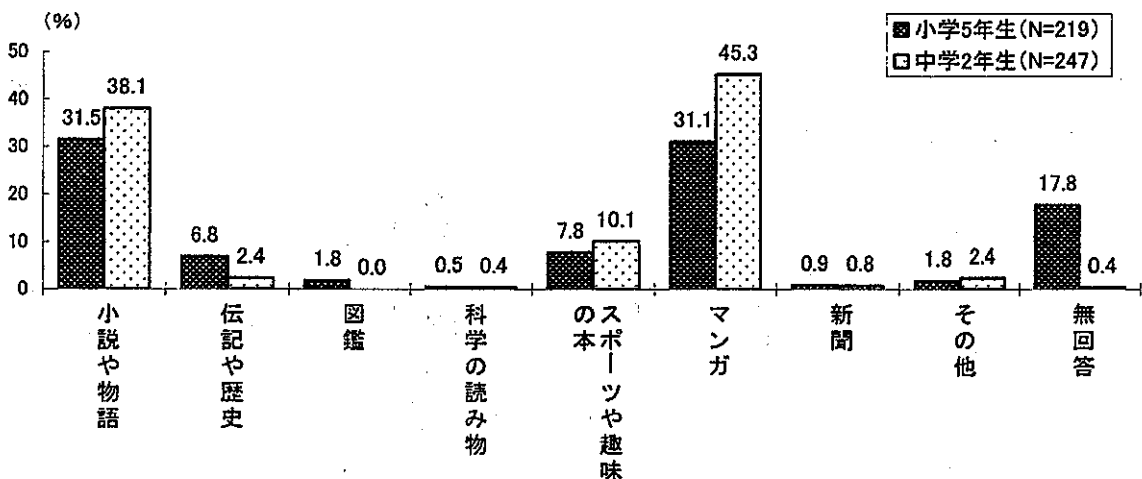
小学5年生では、第1位が「小説や物語」(44.1%)、第2位が「マンガ」(31.6%)と続き、それ以外は少ない。前回調査の結果から順位に変動はないものの、第1位の「小説や物語」は前回調査の結果を約12ポイント上回る結果となっている。

中学2年生では、第1位が「小説や物語」(47.5%)、第2位が「マンガ」(37.0%)となっており、前回調査の結果から第1位と第2位が入れ替わっており、その差も「小説や物語」は約9ポイント増、「マンガ」は約8ポイント減と、活字本を「好きだ」と回答する生徒の割合が増加している。

図表 好きな本の種類 (小学5年生・中学2年生)



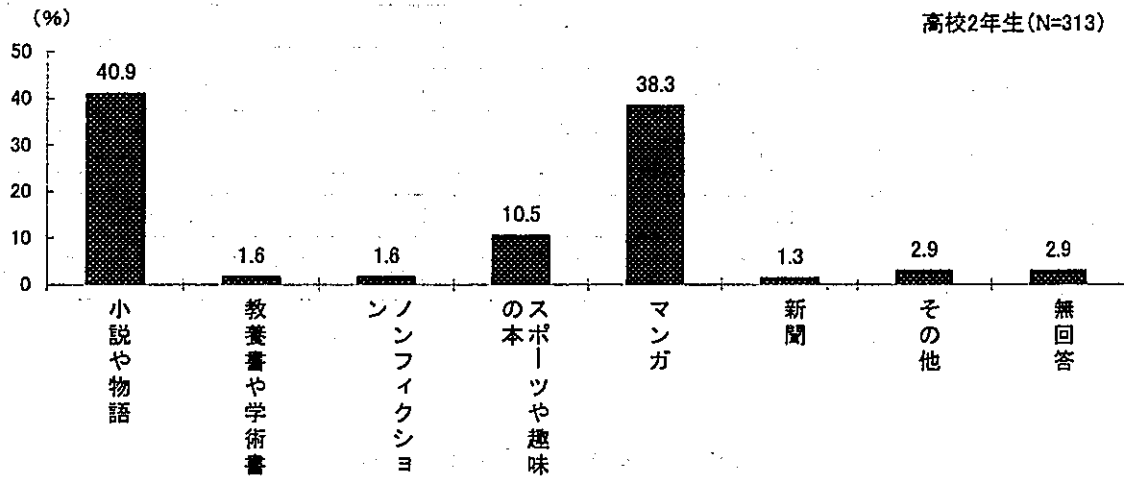
参考：好きな本の種類 (小学5年生・中学2年生) (前回調査)



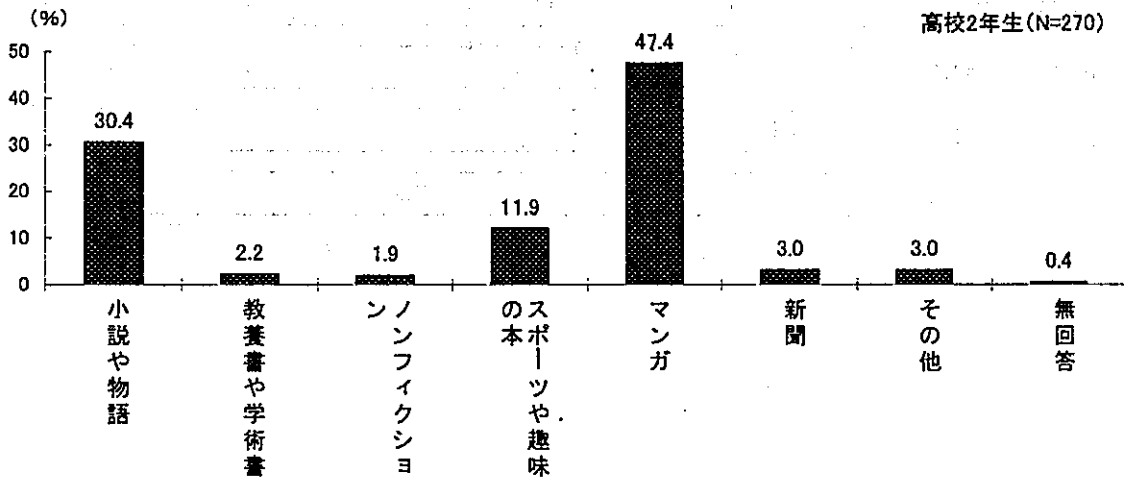
③高校2年生

高校2年生では、第1位が「小説や物語」(40.9%)、第2位が「マンガ」、第3位が「スポーツや趣味の本」(10.5%)と続いている。前回調査の結果から第1位と第2位が入れ替わっており、「小説や物語」は約10ポイント増、「マンガ」は約9ポイント減となっている。小学5年生・中学2年生と同様、活字本を「好きだ」と回答する生徒の割合が増加している。

図表 好きな本の種類 (高校2年生)



参考：好きな本の種類 (高校2年生) (前回調査)

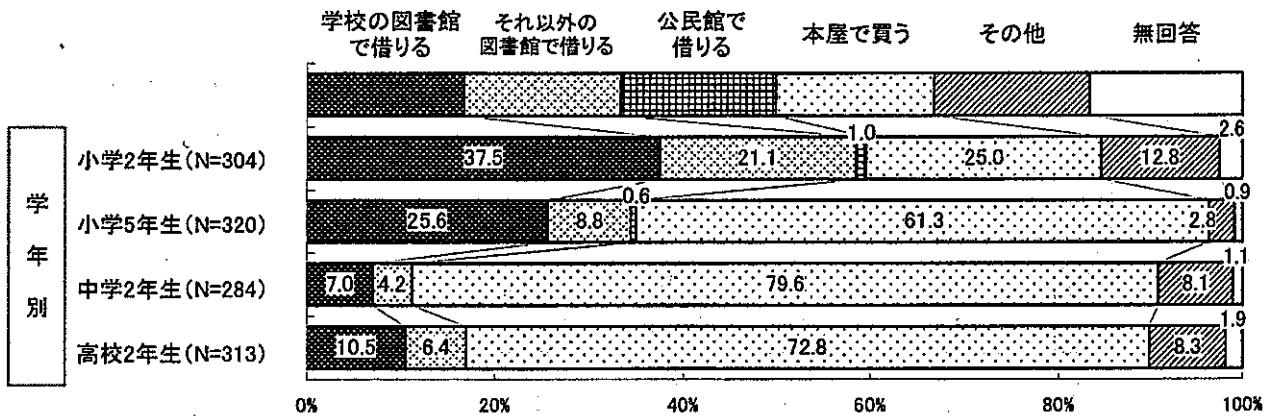


(4) 本の入手方法

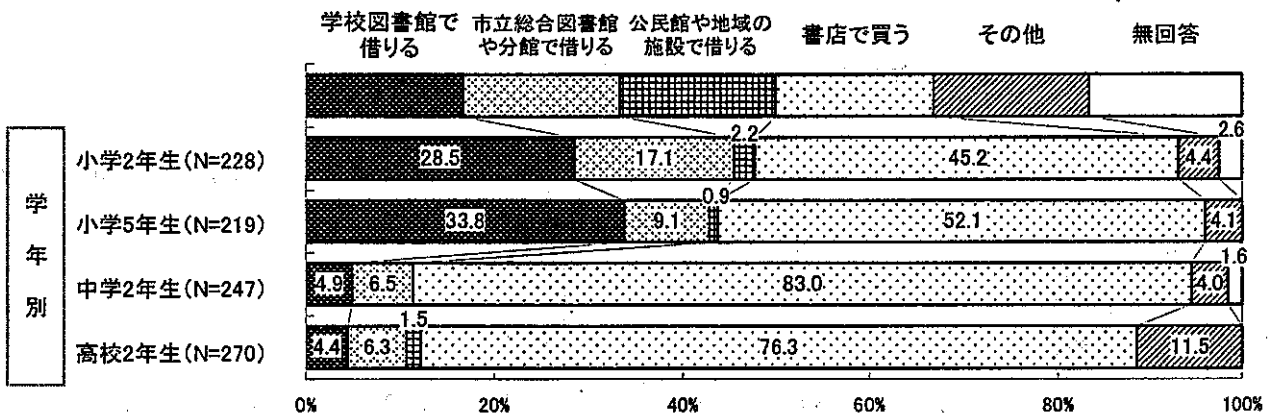
本の入手方法について尋ねたところ、小学2年生では「学校の図書館で借りる」(37.5%)が最も多く、「それ以外の図書館で借りる」(21.1%)と「公民館で借りる」も合わせた『借りる』の割合が約6割を占めているが、その他の学年はいずれも「本屋で買う」が6割以上を占めている。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「本屋で買う」の割合が減少しており、特に小学2年生は約20ポイントも減少している。

図表 本の入手方法



参考：本の入手方法（前回調査）



(5) 月間での読書冊数

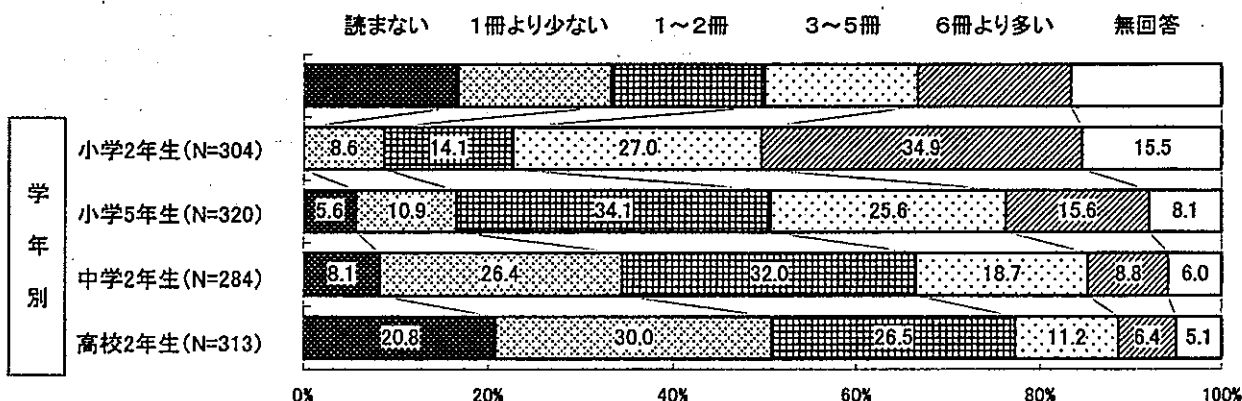
月間の読書冊数を①本、②マンガに分けて尋ねた。

①本

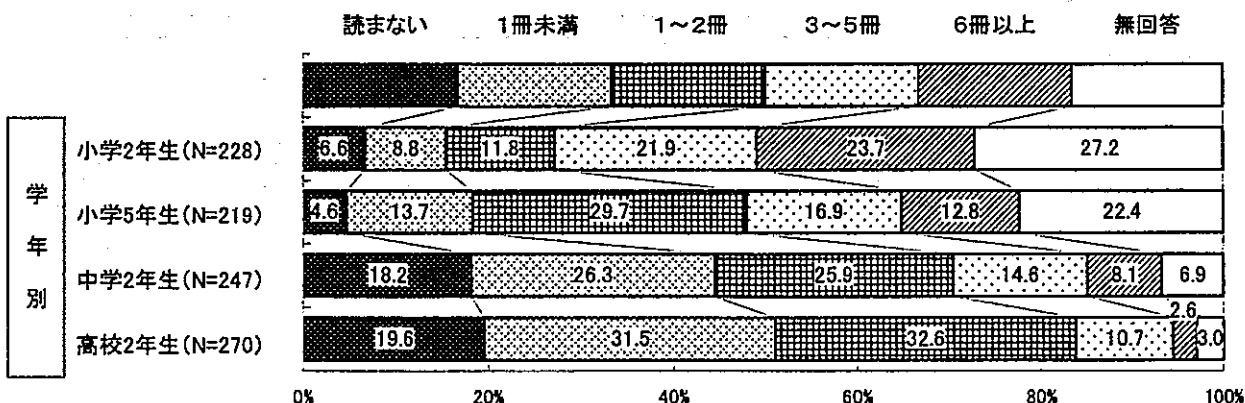
本の読書冊数は、小学2年生は「6冊より多い」(34.9%)が最も多く、次いで「3～5冊」(27.0%)の順となっており、これらを合わせると、月間に3冊以上読む児童の割合は6割を超える。しかしながら、学年が上がるにつれて「3～5冊」と「6冊より多い」は割合が減少している一方で、「読まない」と「1冊より少ない」の割合が増加しており、学年が上がるほど月間に読む本の冊数が少なくなる傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、「読まない」と「1冊より少ない」を合わせた割合は、小学2年生で約6ポイント減少、中学2年生は約10ポイント減少している。なお、小学5年生及び高校2年生は5年前とほぼ同様となっている。

図表 月間での読書冊数 (本)



参考：月間での読書冊数 (本) (前回調査)

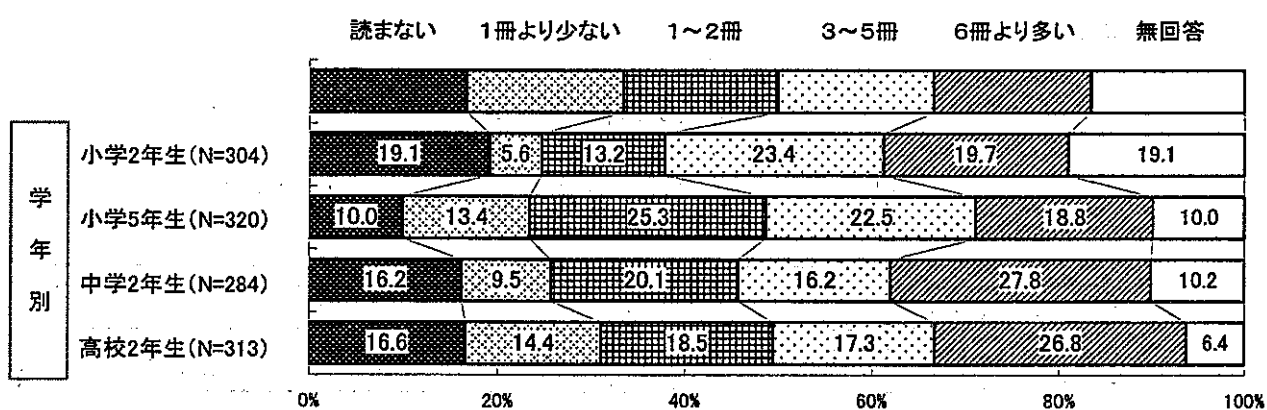


②マンガ

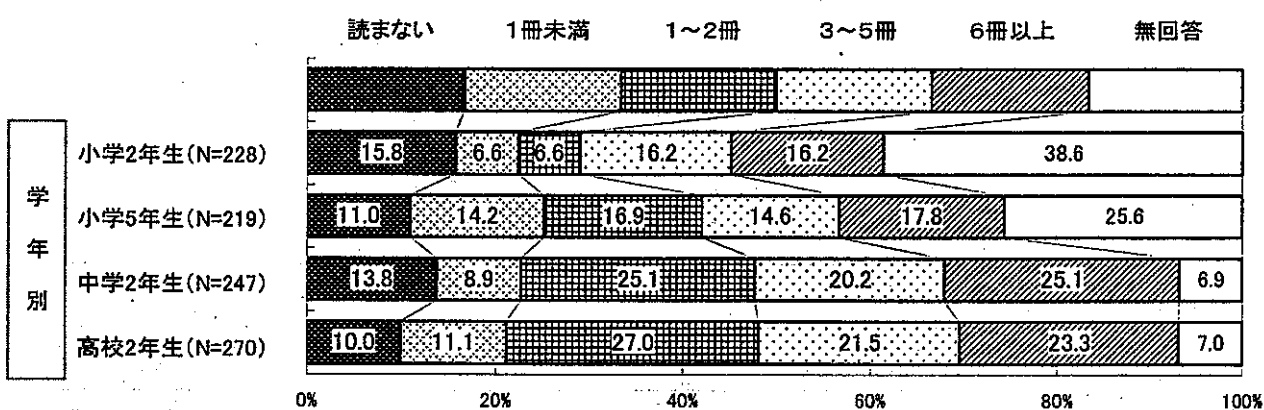
マンガの冊数は、小学2年生では「3～5冊」(23.4%)が、小学5年生では「1～2冊」(25.3%)が最も多く、中学2年生以上になると「6冊より多い」が最も多いなど、本と比べて高い学年での読書冊数が多い傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は「読まない」の割合が約3ポイント増加している。小学5年生は「1～2冊」及び「3～5冊」の割合が増加しており、5年前に比べて月間に読むマンガの冊数が僅かに増えている傾向がみられる。中学2年生、高校2年生は「読まない」の割合が増加している一方で、「6冊以上」の割合も増加しており、マンガを読む生徒と読まない生徒の2極化が進んでいる傾向がみられる。

図表 月間での読書冊数 (マンガ)



参考：月間での読書冊数 (マンガ) (前回調査)

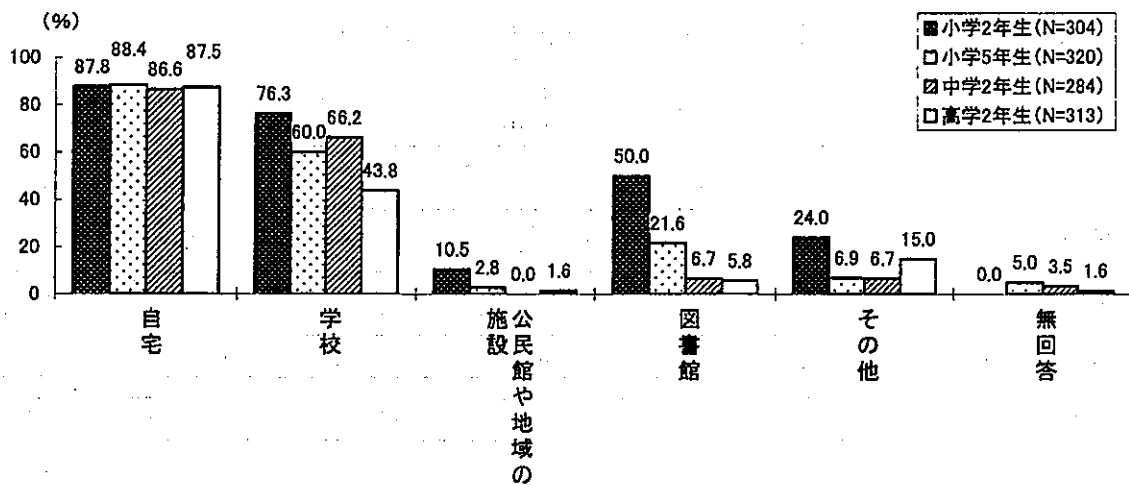


(6) 本を読む場所

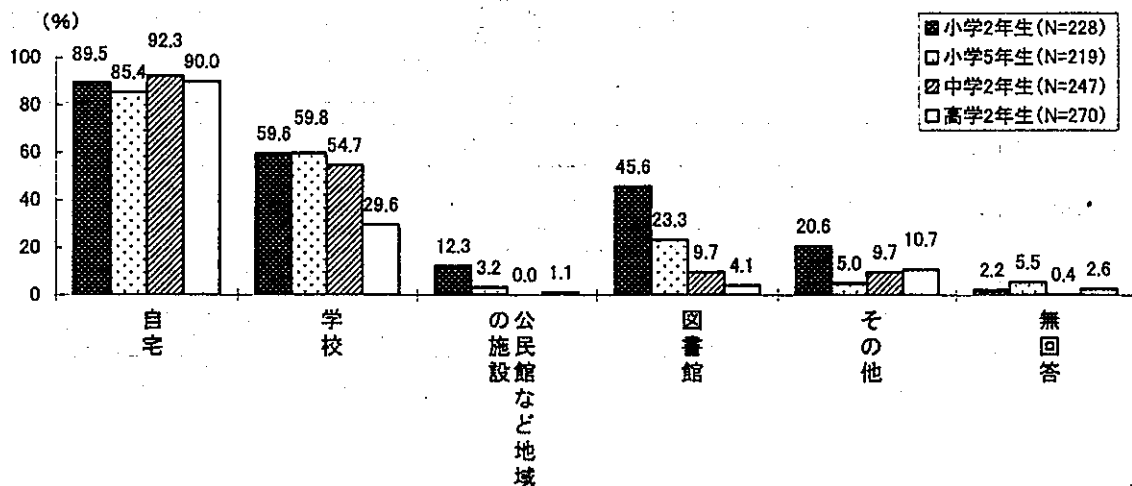
本を読む場所について尋ねたところ、いずれの学年も「自宅」が最も多く、8割を超えて突出している。次いで「学校」、「図書館」の順となっている。小学生及び中学生は「学校」の割合も比較的高く、また小学2年生は「図書館」が5割みられる。一方で高校生は「自宅」が突出して高いのが特徴的である。

前回調査の結果と比較すると、「学校」の割合はいずれの学年も増加しており、特に小学2年生は16ポイント以上も増加しているほか、中学2年生は約11ポイント、高校2年生も約14ポイント増加しており、5年前に比べて学校で本を読む児童生徒が増加している傾向がみられる。

図表 本を読む場所



参考：本を読む場所（前回調査）



(7) 平日での時間の使い方

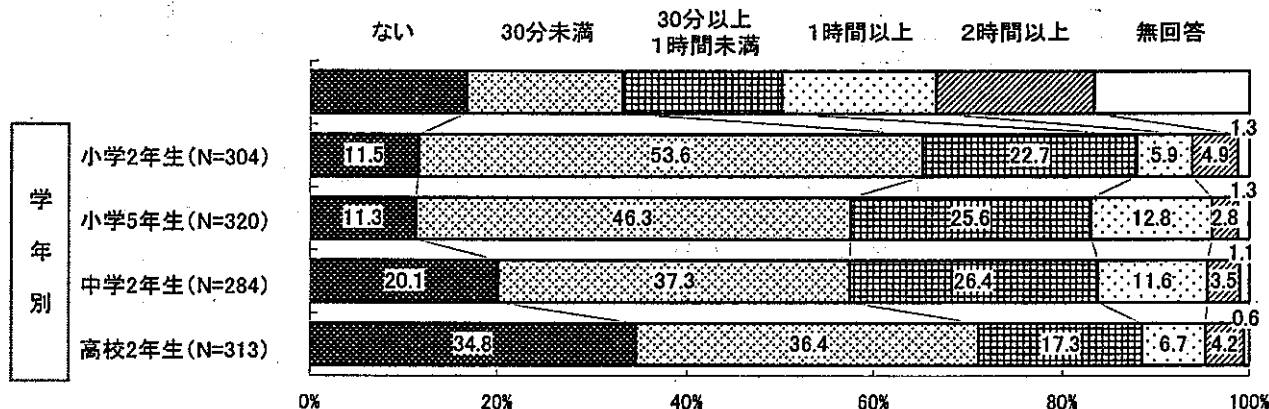
平日における自由時間の過ごし方を項目別に尋ねた。

①本を読む

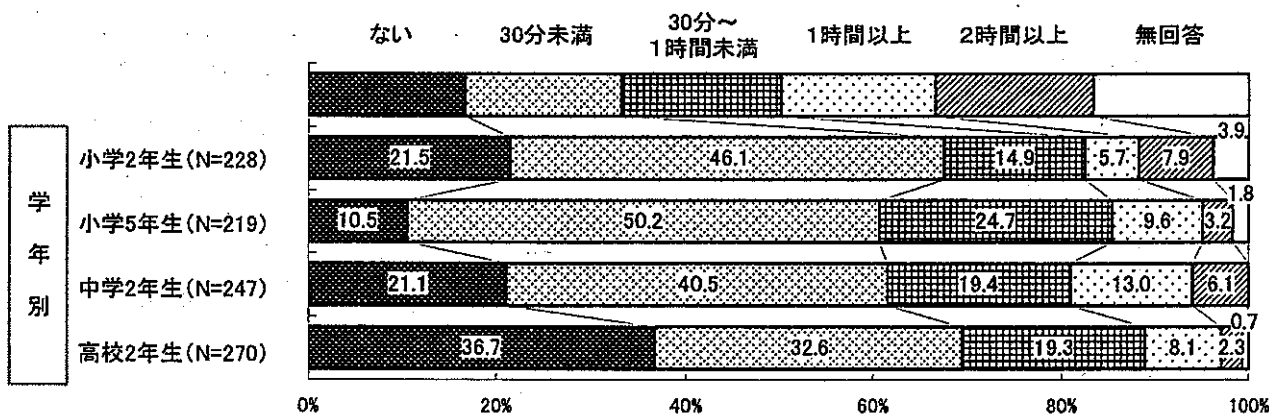
本を読む時間としては、いずれの学年も「30分未満」が最も多く、特に小学生では約半数を占めている。なお、小学校高学年以上では学年が上がるほど「ない」と回答した児童生徒の割合が増加する傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は本を読まない児童の割合が減少しており、5年前に比べて本を読む児童の割合が増加しているが、その他の学年については、5年前の傾向とそれほど大きな違いはみられない。

図表 平日での時間の使い方（本を読む）



参考：平日での時間の使い方（本を読む）（前回調査）

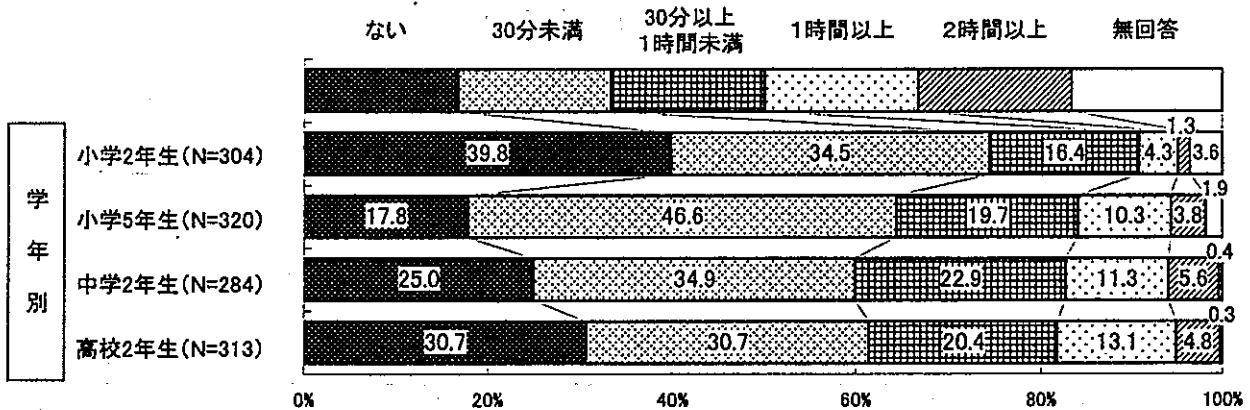


②マンガを読む

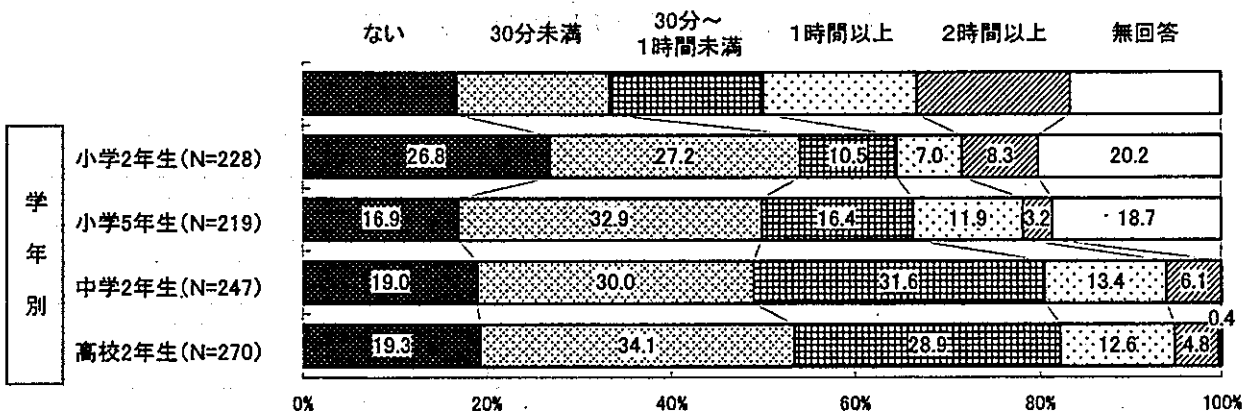
マンガを読む時間としては、いずれの学年も「30分未満」が最も多く、小学5年生では4割以上を占めている。マンガを読まない児童生徒の割合が最も多いのは小学2年生で、約4割を占めている。一方で、学年が上がるほど「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が増加する傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年もマンガを読まない児童生徒の割合が増加しており、5年前に比べてマンガを読む児童生徒が減っている傾向がみられる。

図表 平日での時間の使い方（マンガを読む）



参考：平日での時間の使い方（マンガを読む）（前回調査）

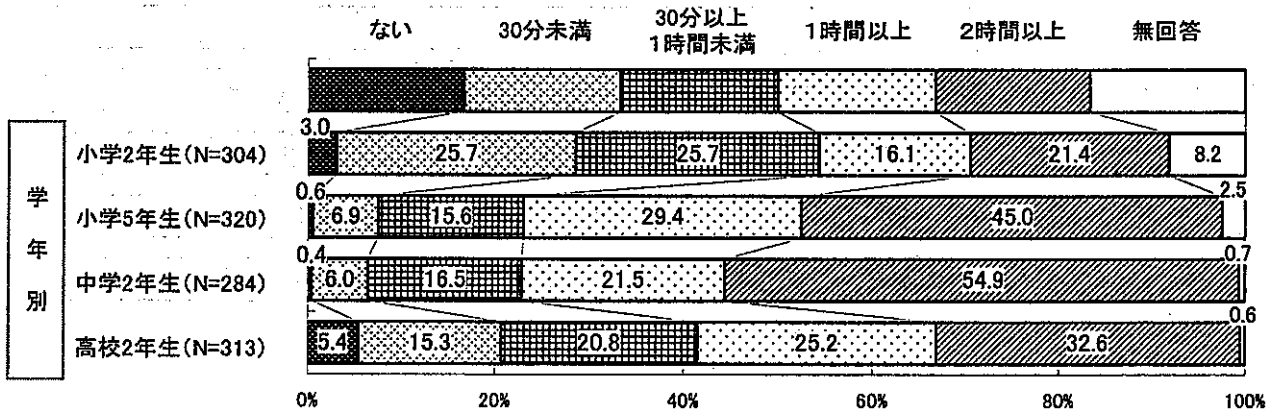


③テレビを見る

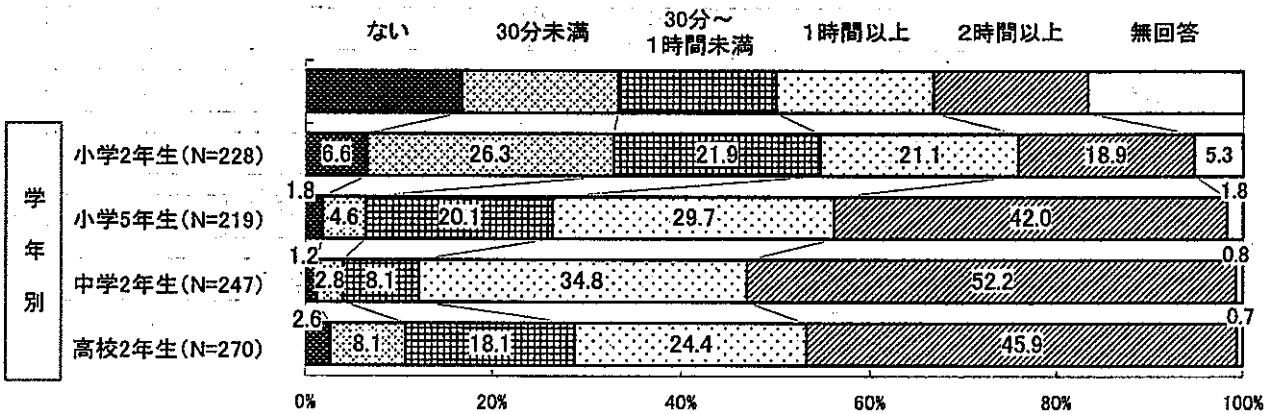
テレビを見る時間としては、小学2年生は「30分以上1時間未満」が25.7%で最も多くなっているが、小学校高学年以上では「2時間以上」の割合が最も多く、特に中学2年生は半数を超えている。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は「30分以上1時間未満」が約3ポイント増加しているものの、「1時間以上」や「2時間以上」といった長時間テレビを見ている児童の割合は減少している。小学5年生は5年前の傾向とほぼ同じである。中学2年生は「1時間以上」が約13ポイント減少しているものの、「2時間以上」はほとんど変わらない。高校2年生は「1時間以上」や「2時間以上」といった長時間テレビを見ている生徒の割合が減少している。

図表 平日での時間の使い方（テレビを見る）



参考：平日での時間の使い方（テレビを見る）（前回調査）

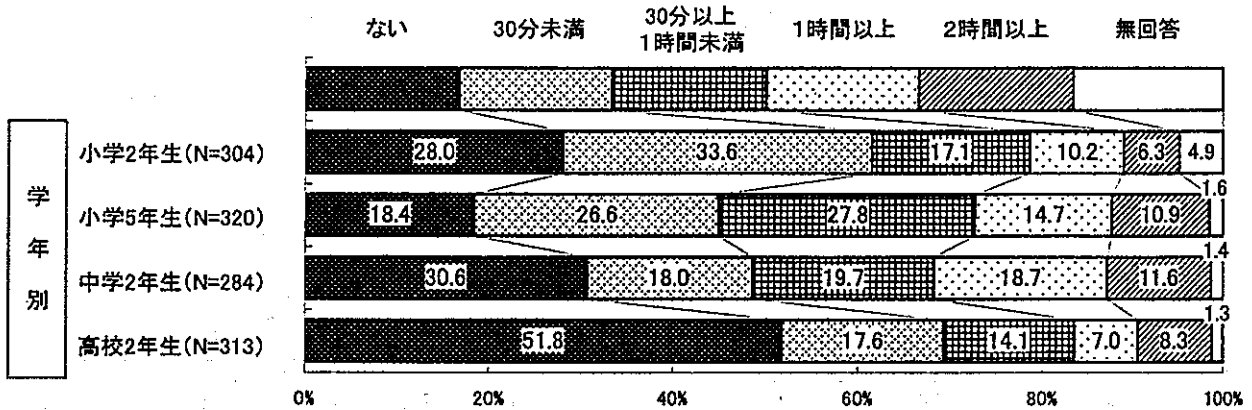


④ゲーム機やパソコンでゲームをする

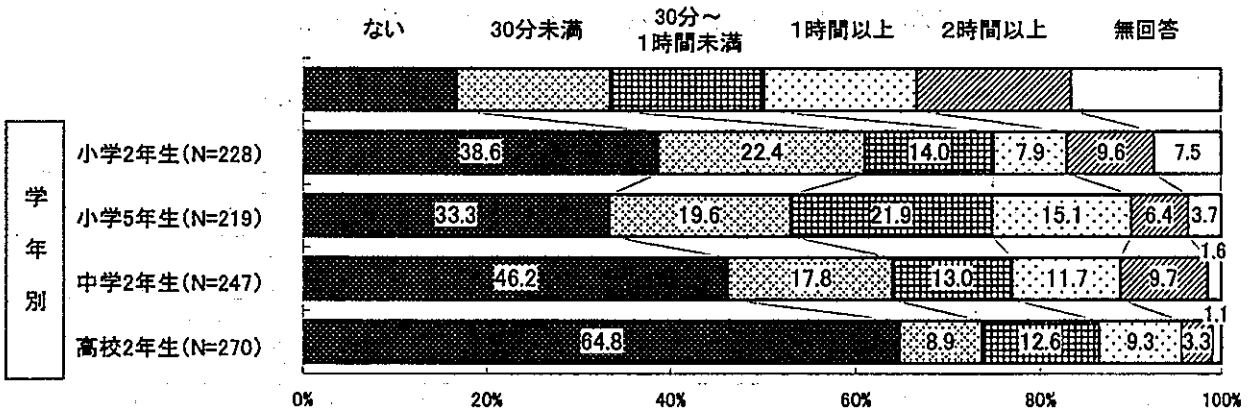
ゲーム機やパソコンでゲームをする時間としては、小学2年生は「30分未満」が33.6%で最も多く、小学5年生は「30分以上1時間未満」が27.8%で最も多くなっている。なお、中学2年生、高校2年生はゲーム機やパソコンでゲームをしない人が最も多く、特に高校2年生は半数を超えている。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年もゲーム機やパソコンでゲームをしない児童生徒の割合は減少しており、5年前に比べてゲーム機やパソコンでゲームをする児童生徒が増えている傾向がみられる。

図表 平日での時間の使い方（ゲーム機やパソコンでゲームをする）



参考：平日での時間の使い方（テレビゲームをする）（前回調査）

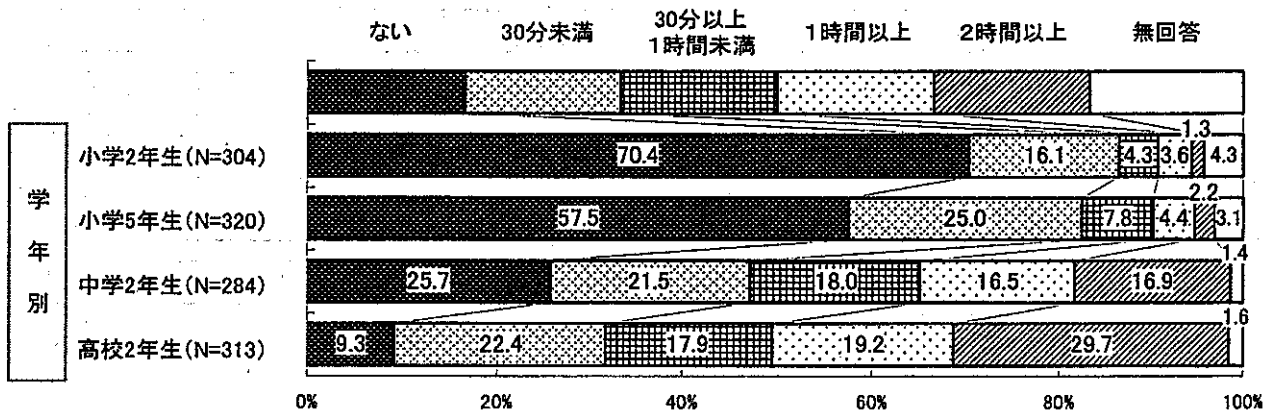


⑤パソコンやケータイでメールやインターネットをする

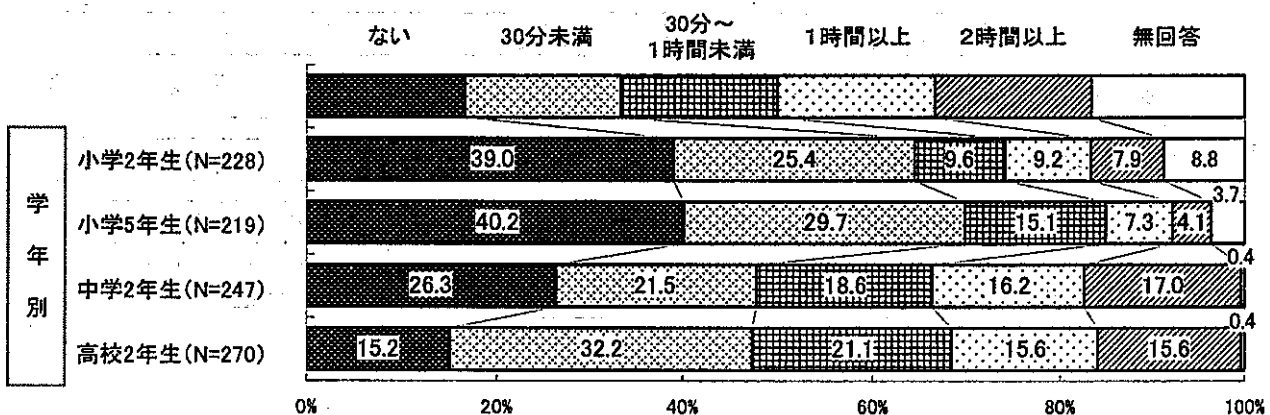
パソコンやケータイでメールやインターネットをする時間としては、小学生はメールやインターネットをしない児童の割合が最も多く、小学2年生は7割、小学5年生は5割を超えている。なお、学年が上がるほどメールやインターネットをする児童生徒の割合が増加する傾向がみられ、特に高校2年生は「2時間以上」が29.7%と約3割を占めている。

前回調査の結果と比較すると、小学生はメールやインターネットをする児童の割合が減少している。中学2年生は5年前の傾向とほぼ同じである。高校生はメールやインターネットをする児童の割合が増加しており、特に「1時間以上」や「2時間以上」といった長時間メールやインターネットをする生徒の割合が5年前に比べて増加しているのが特徴的である。

図表 平日での時間の使い方（パソコンやケータイでメールやインターネットをする）



参考：平日での時間の使い方（メールやインターネットをする）（前回調査）

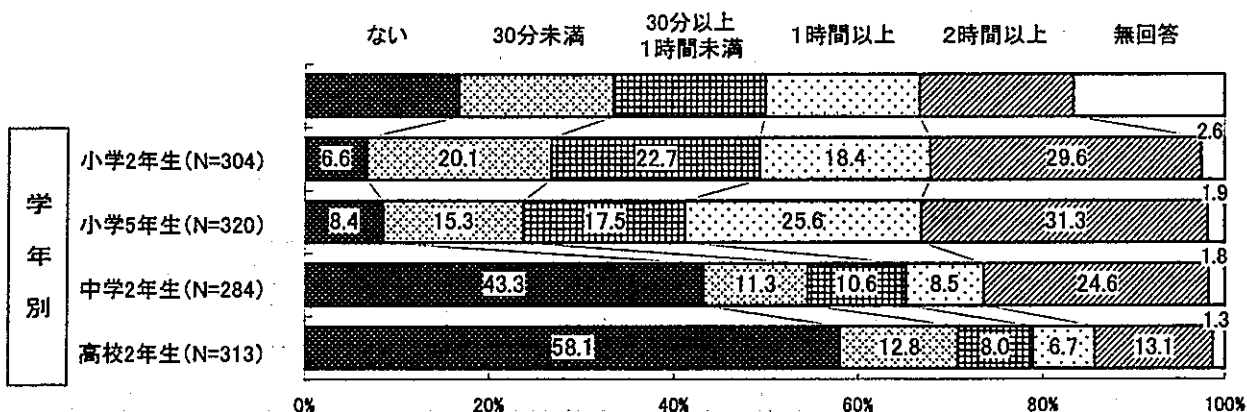


⑥外で遊ぶ

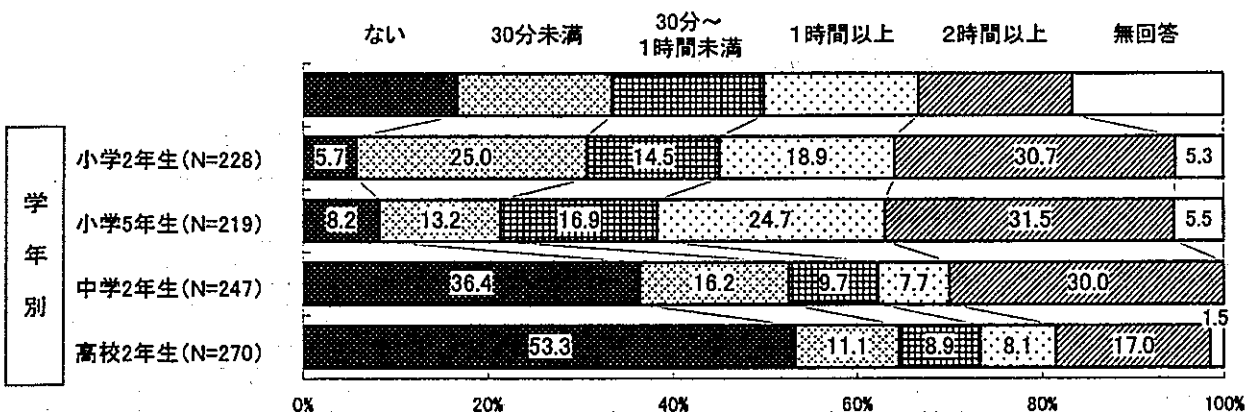
外で遊ぶ時間としては、小学生では「1時間以上」と「2時間以上」を合わせると半数近くが1時間以上外で遊んでおり、外で遊ばない児童は1割にも満たない。中学2年生になると、外で遊ばない生徒43.3%と4割を超え、高校2年生では58.1%と約6割にまで増加する。

前回調査の結果と比べると、小学生は5年前の傾向とそれほど大きな違いはみられないが、中学2年生、高校2年生は5年前に比べて外で遊ばない生徒が増えている傾向がみられる。

図表 平日での時間の使い方（外で遊ぶ）



参考：平日での時間の使い方（外で遊ぶ）（前回調査）

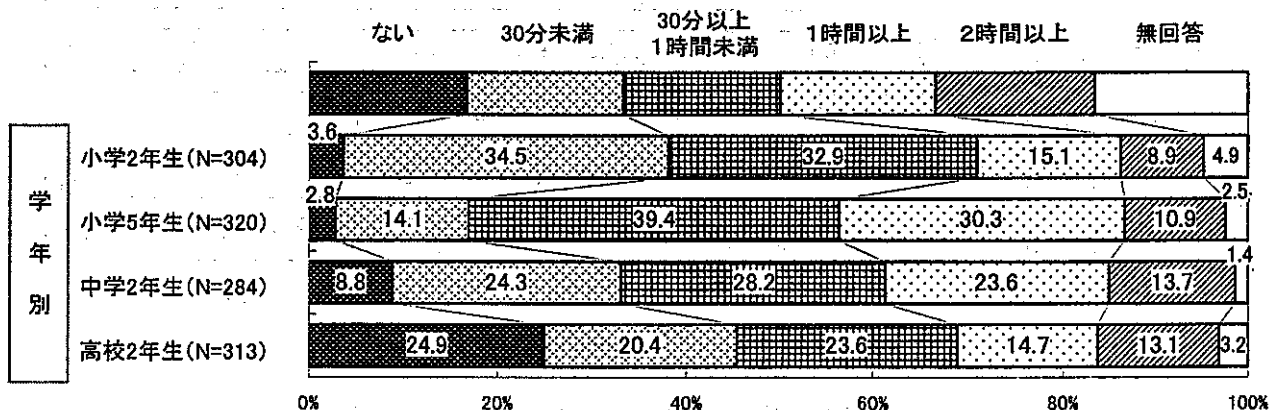


⑦勉強する（学校以外で）

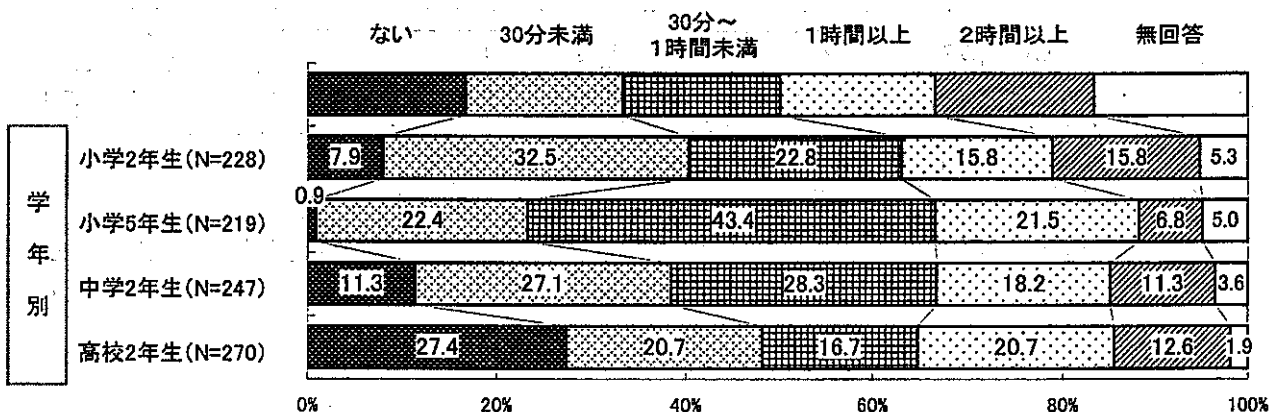
学校以外での勉強時間としては、小学2年生は「30分未満」が34.5%で最も多く、小学5年生、中学2年生は「30分以上1時間未満」が最も多いが、小学5年生は約4割を占めているのに対して、中学2年生は約3割となっている。なお、高校2年生は学校以外での勉強が「ない」と回答した生徒の割合が最も多くなっている。

前回調査の結果と比べると、小学2年生は「30分以上1時間未満」が約10ポイント増、小学5年生は「1時間以上」の割合が約9ポイント増となっている。中学2年生は5年前の傾向とそれほど大きな違いはみられない。高校2年生は「1時間以上」と「2時間以上」を合わせた割合が5年前に比べて約5ポイント減少している。

図表 平日での時間の使い方（勉強する（学校以外で））



参考：平日での時間の使い方（勉強する（学校以外で））（前回調査）



【学年別にみた平日における自由時間の過ごし方】

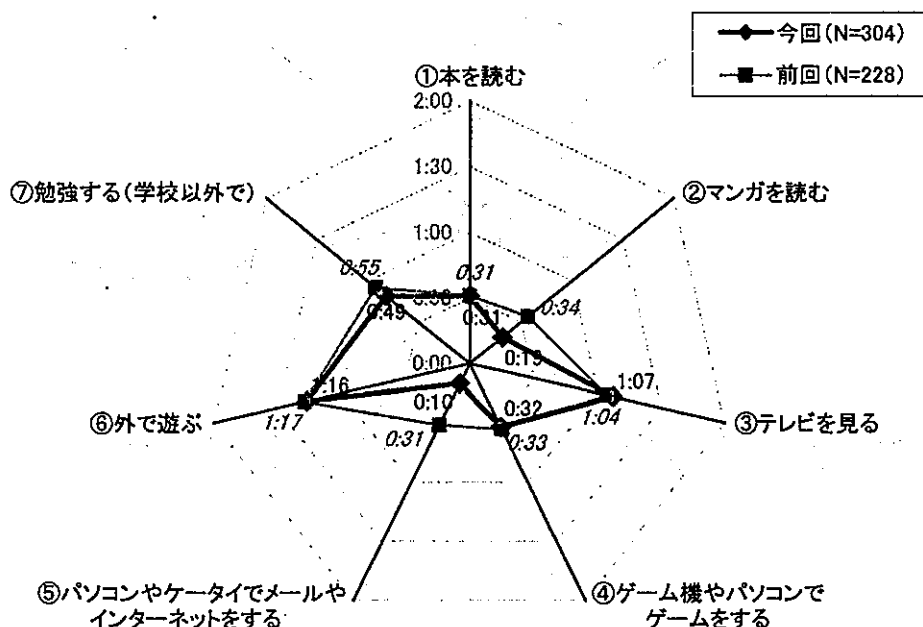
平日における自由時間の過ごし方の平均時間を算出し、これを学年別にみた。

①小学2年生

「外で遊ぶ」が平均1時間16分で最も長く、次いで「テレビを見る」(平均1時間07分)、「勉強する(学校以外で)」(平均55分)の順となっており、「本を読む」は平均31分となっている。

前回調査の結果と比較すると、「マンガを読む」と「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」は減少している。また、「勉強する(学校以外で)」も若干ではあるが減少している。その他は5年前とほぼ同程度で、「本を読む」も5年前と同程度となっている。

図表 平日における自由時間の過ごし方の平均時間(小学2年生)



注) 平均時間の算出方法について

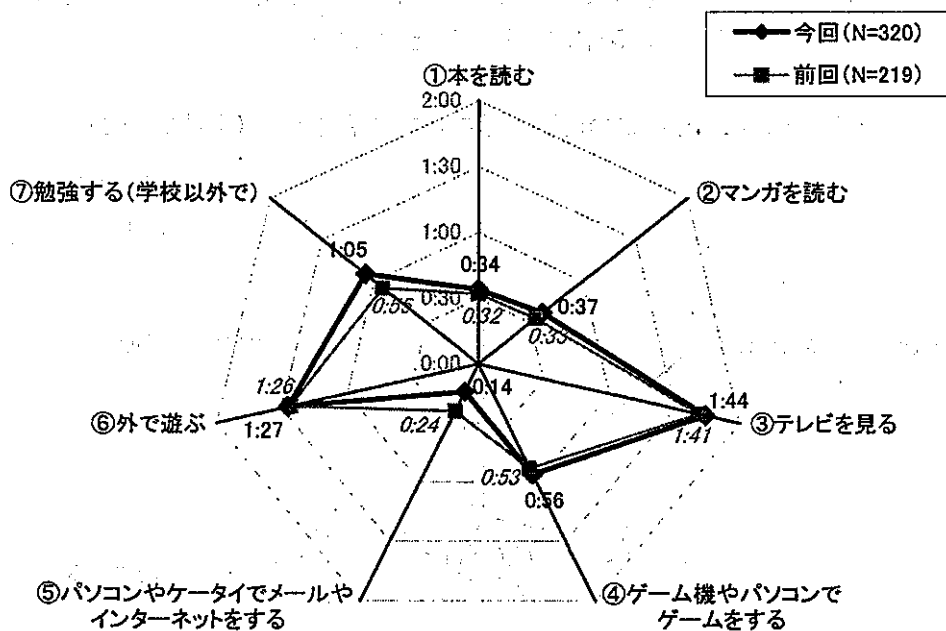
質問の回答は選択肢形式としているため、ここでは「ない」=0分、「30分未満」=15分、「30分～1時間未満」=45分、「1時間以上」=90分、「2時間以上」=150分と設定し、それぞれ平均時間を算出した。なお、平均時間を算出する際、無回答の者は除外している。

②小学5年生

「テレビを見る」が平均1時間44分で最も長く、次いで「外で遊ぶ」(平均1時間27分)、「勉強する(学校以外で)」(平均1時間5分)、「ゲーム機やパソコンでゲームをする」(平均56分)の順となっており、「本を読む」は平均34分となっている。

前回調査の結果と比較すると、「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」が減少している一方、「勉強する(学校以外で)」が増加している。その他は5年前とほぼ同程度で、「本を読む」も5年前とほぼ同程度となっている。

図表 平日における自由時間の過ごし方の平均時間(小学5年生)

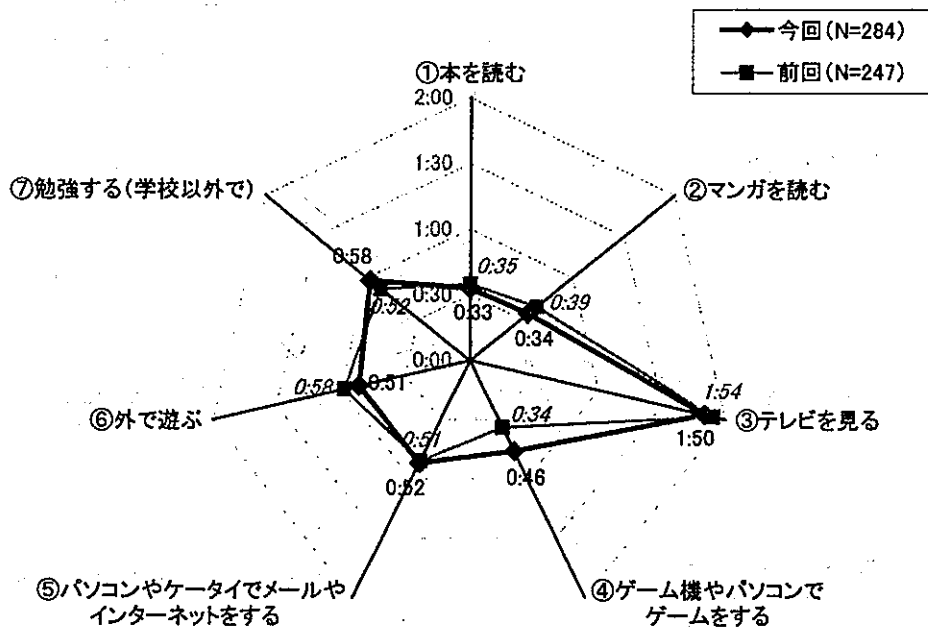


③中学2年生

「テレビを見る」が平均1時間50分で最も長く、他の項目に比べて突出している。次いで「勉強する(学校以外で)」(平均58分)、「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」(平均52分)、「外で遊ぶ」(平均51分)、「ゲーム機やパソコンでゲームをする」(平均46分)の順となっており、「本を読む」は平均33分となっている。

前回調査の結果と比較すると、「ゲーム機やパソコンでゲームをする」、「勉強する(学校以外で)」が増加している。一方で、「外で遊ぶ」、「マンガを読む」が若干ではあるが減少している。なお、「本を読む」は5年前とほぼ同程度となっている。

図表 平日における自由時間の過ごし方の平均時間(中学2年生)

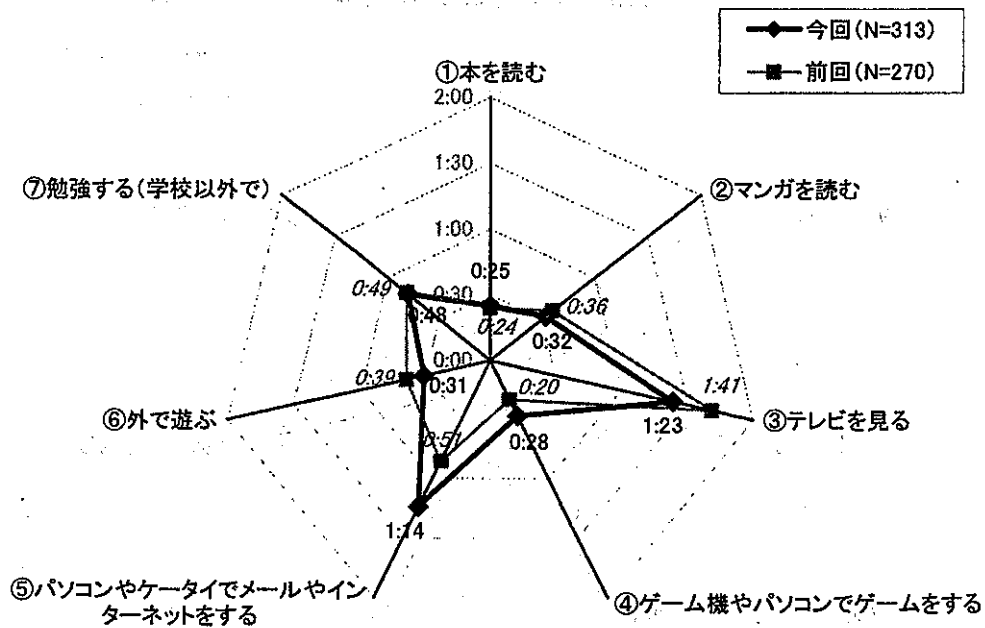


④高校2年生

「テレビを見る」が平均1時間23分で最も長く、次いで「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」(1時間14分)の順となっており、この2項目が他に比べて突出している。なお、「本を読む」は平均25分と、小学生、中学2年生に比べて短い。

前回調査の結果と比較すると、「パソコンやケータイでメールやインターネットをする」が平均で20分以上加している、「ゲーム機やパソコンでゲームをする」も増加している。一方、「テレビを見る」が減少しているほか、「マンガを読む」、「外で遊ぶ」も減少している。その他は5年前とほぼ同程度で、「本を読む」も5年前とほぼ同程度となっている。

図表 平日における自由時間の過ごし方の平均時間(高校2年生)

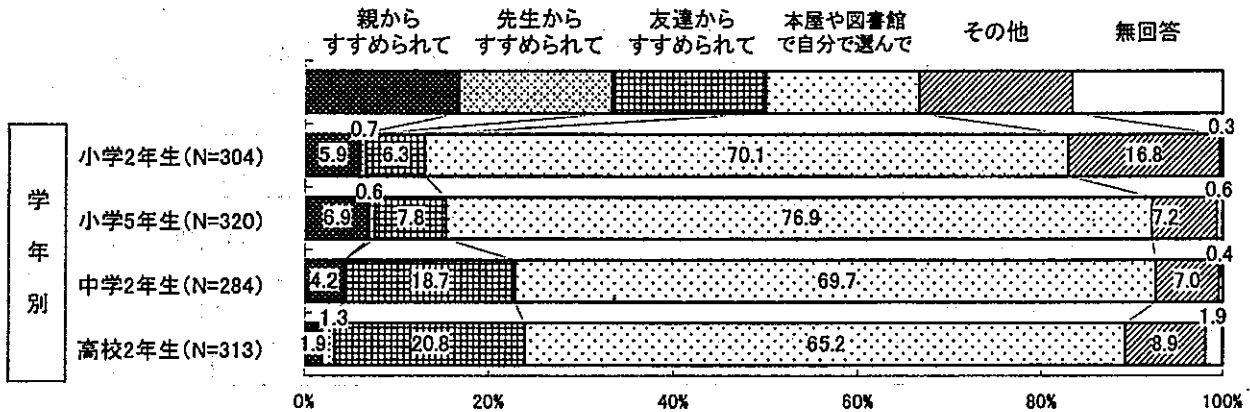


(8) 本の選択方法

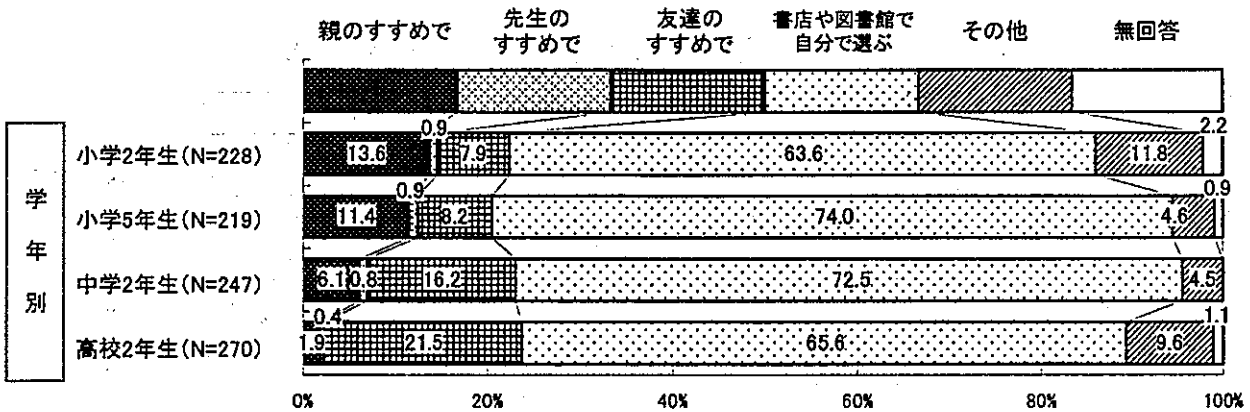
本の選択方法について尋ねたところ、いずれの学年も「書店や図書館で自分で選んで」が最も多くなっている。なお、「親からすすめられて」の割合は学年が上がるにつれて減少する傾向がみられる一方、「友達からすすめられて」の割合は学年が上がるにつれて増加する傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学生は「親からすすめられて」の割合が減少している一方で、「書店や図書館で自分で選んで」の割合が増加しており、自分で選ぶ児童が増えている傾向がみられる。なお、中学2年生、高校2年生については、5年前の傾向とそれほど大きな違いはみられない。

図表 本の選択方法



参考：本の選択方法（前回調査）

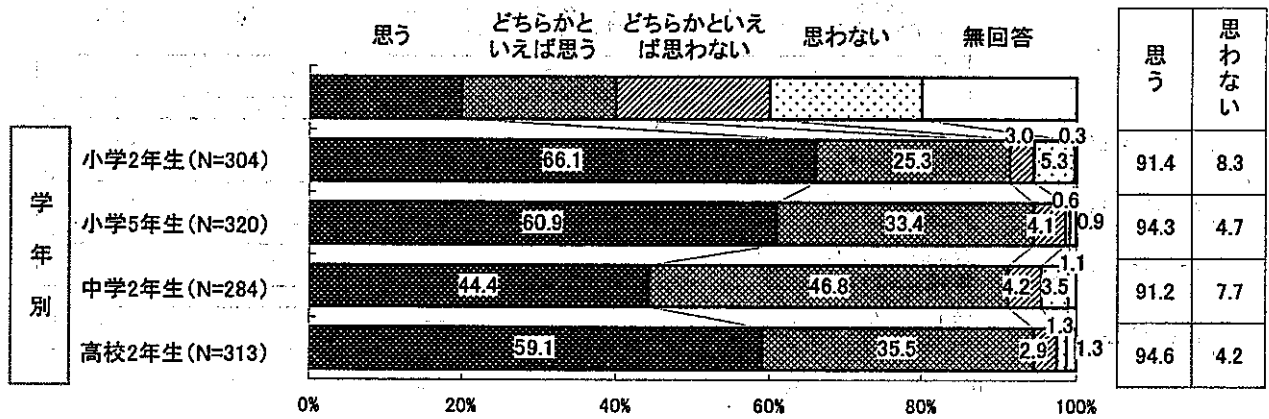


(9) 読書の大切さ

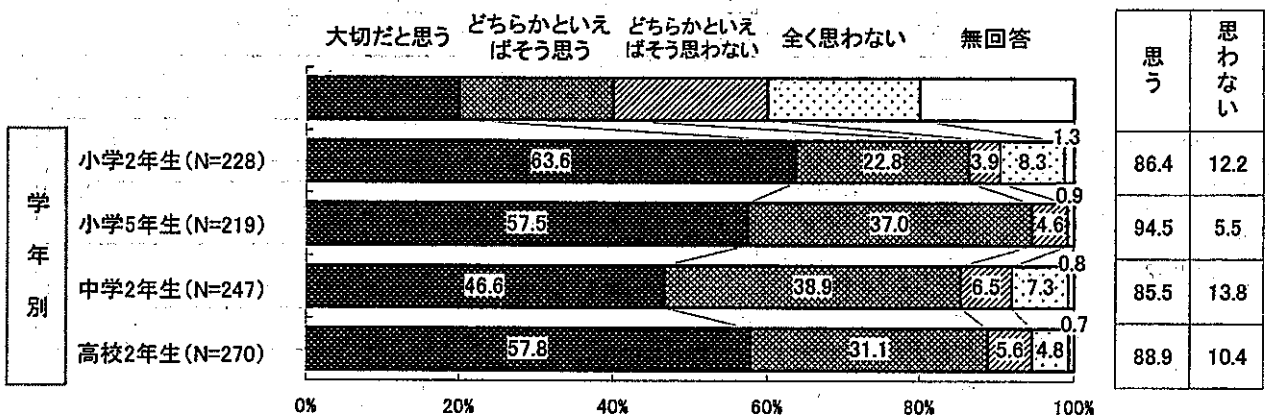
読書の大切さについて尋ねたところ、「思う」と回答した児童生徒は小学2年生が66.1%で最も多く、次いで小学5年生(60.9%)、高校2年生(59.1%)、中学2年生(44.4%)の順となっており、中学2年生は他の学年に比べて「思う」と回答した生徒の割合が低い。なお、「どちらかといえば思う」を合わせた、読書が大切だと『思う』割合はいずれの学年も9割を超えている。

前回調査の結果と比較すると、「思う」と回答した人の割合の傾向は5年前と変わらないものの、読書が大切だと『思う』割合をみると、小学2年生、中学2年生、高校2年生でそれぞれ増加しており、5年前に比べて読書が大切だと思う児童生徒が増加している傾向がみられる。

図表 読書の大切さ



参考：読書の大切さ（前回調査）



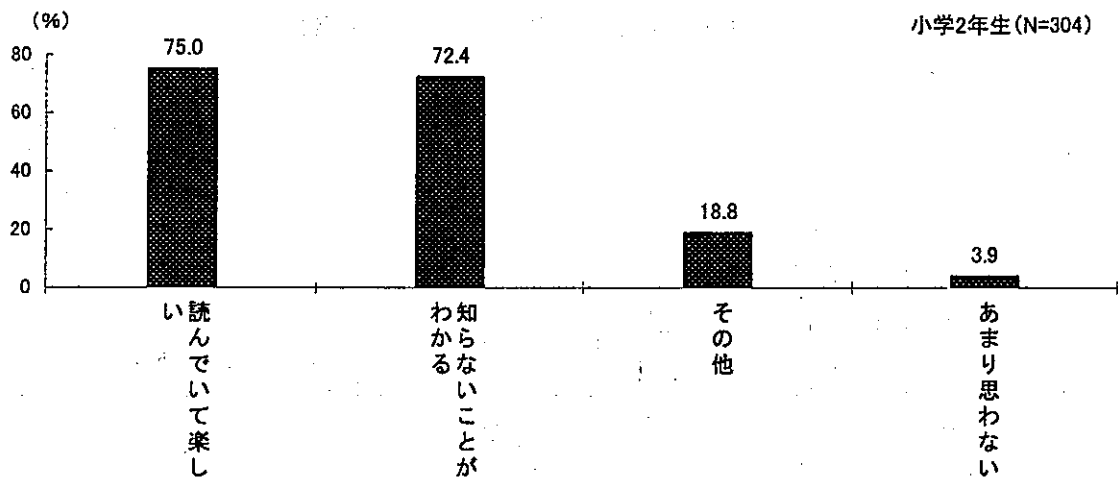
(10) 本を読んで良い点

①小学2年生

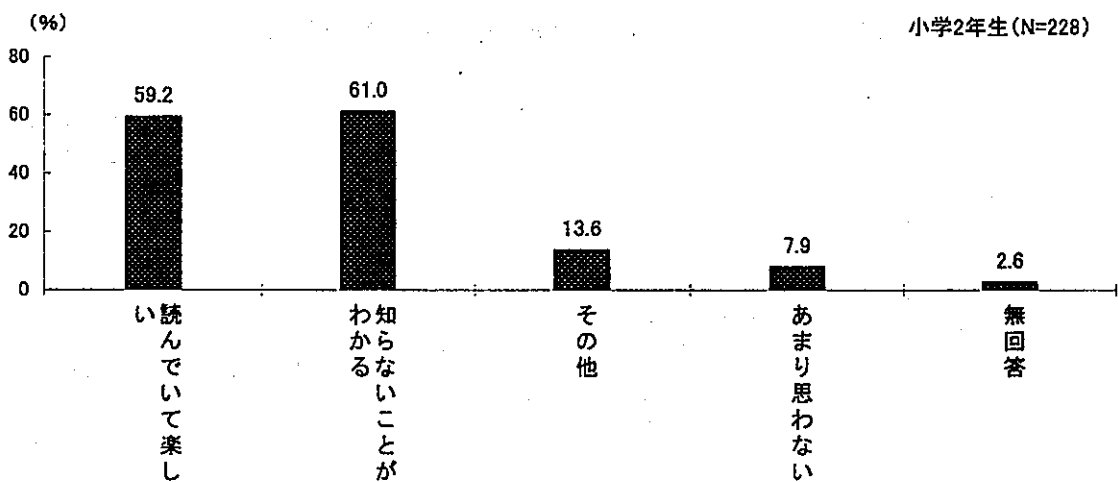
本を読んで良い点としては、「読んでいて楽しい」が75.0%で最も多く、次いで「知らないことがわかる」(72.4%)の順となっている。

前回調査の結果と比較すると、「読んでいて楽しい」、「知らないことがわかる」のいずれも、5年前に比べて割合は増加している。また、「あまり思わない」も5年前から4ポイント減少している。

図表 本を読んで良い点 (小2)



参考：本を読んで良い点 (小2) (前回調査)

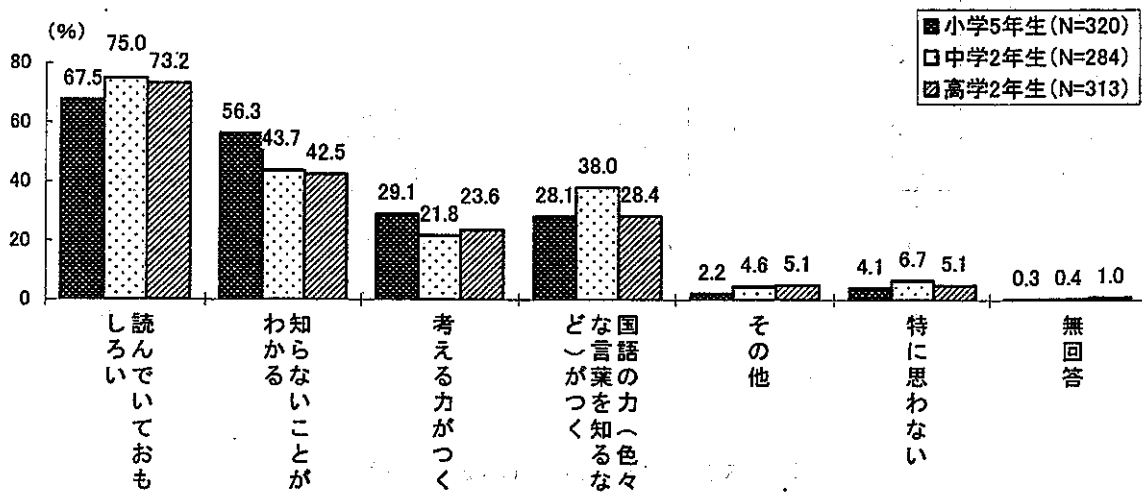


②小学5年生、中学2年生、高2年生

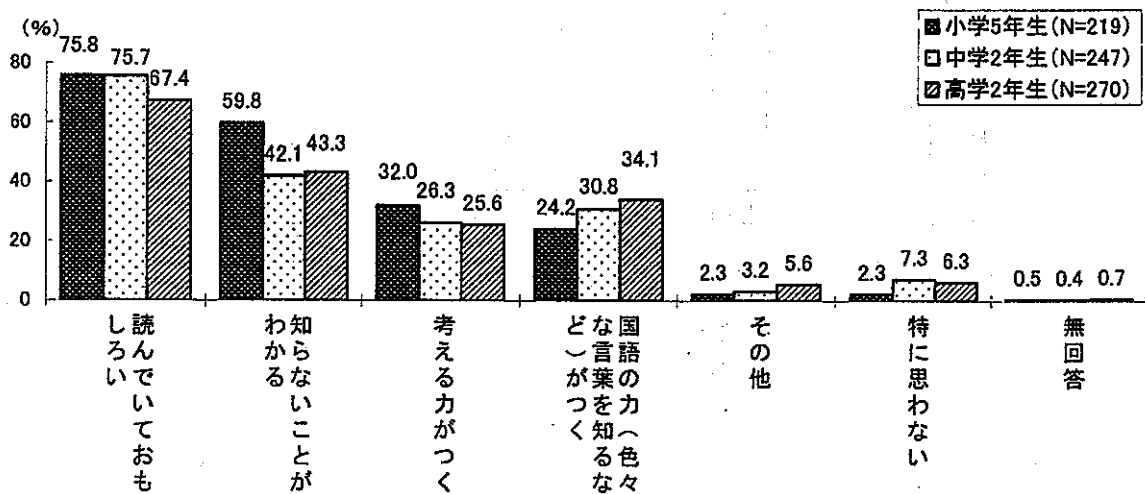
本を読んで良い点としては、「読んでいておもしろい」がいずれの学年も最も多く、次いで「知らないことがわかる」の順となっている。なお、小学5年生は第3位に「考える力がつく」、第4位に「国語の力（色々な言葉を知るなど）がつく」の順となっているが、中学2年生、高校2年生は、順位が逆となっている。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「読んでいておもしろい」の割合が約8ポイント減少している。中学2年生は「国語の力（色々な言葉を知るなど）がつく」の割合が約7ポイント増加している。一方、高校2年生は「国語の力（色々な言葉を知るなど）がつく」の割合が約5ポイント減少している。

図表 本を読んで良い点（小5・中2・高2）



参考：本を読んで良い点（小5・中2・高2）（前回調査）

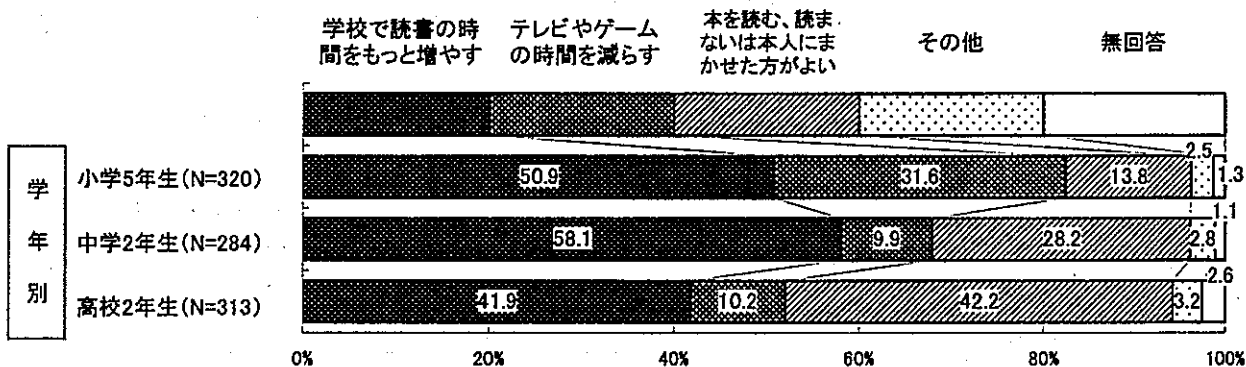


(11) 本を読むようになる方法 (小5・中2・高2)

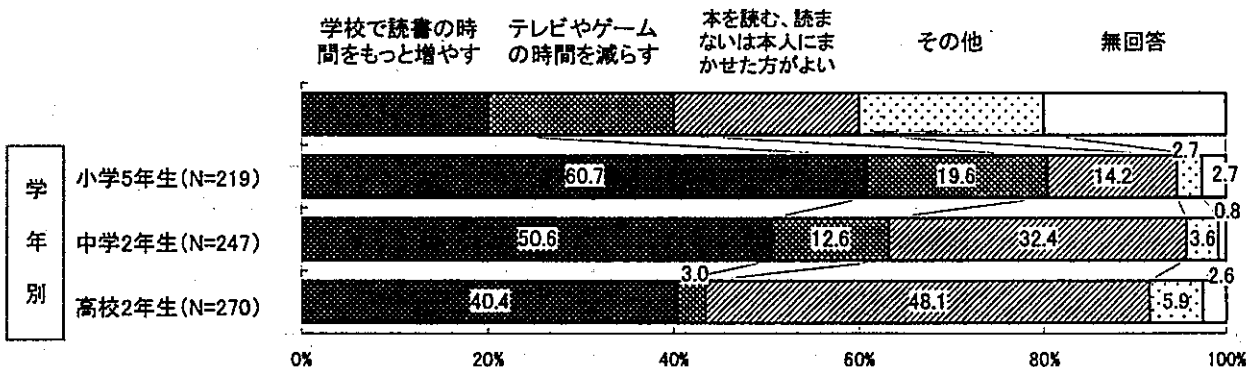
本を読むようになる方法について尋ねたところ、小学5年生と中学2年生は「学校で読書の時間をもっと増やす」の割合が最も多いものの、高校2年生は「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」の割合が「学校で読書の時間をもっと増やす」を僅かではあるものの上回っている。なお、学年が上がると「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」は増加する傾向がみられる。また、小学5年生は「テレビやゲームの時間を減らす」と回答した児童が3割みられ、他の学年に比べて高いのが特徴的である。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「学校で読書の時間をもっと増やす」の割合が約10ポイント減少している一方で、「テレビやゲームの時間を減らす」の割合が約11ポイント増加している。中学2年生は「学校で読書の時間をもっと増やす」の割合が約7ポイント増加している。高校2年生は「テレビやゲームの時間を減らす」の割合が約7ポイント増加している。

図表 本を読むようになる方法 (小5・中2・高2)



参考：本を読むようになる方法 (小5・中2・高2) (前回調査)

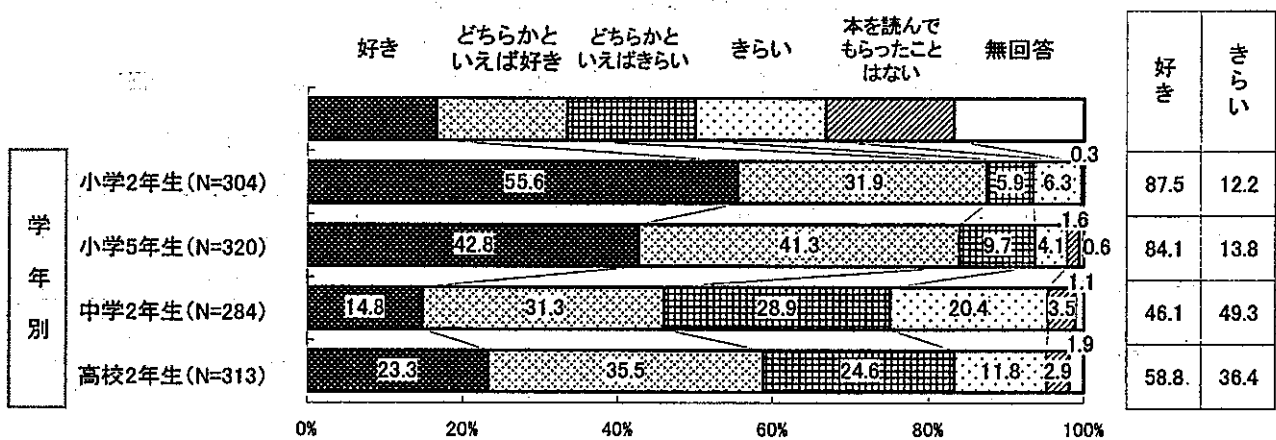


(12) 本の読み聞かせについて

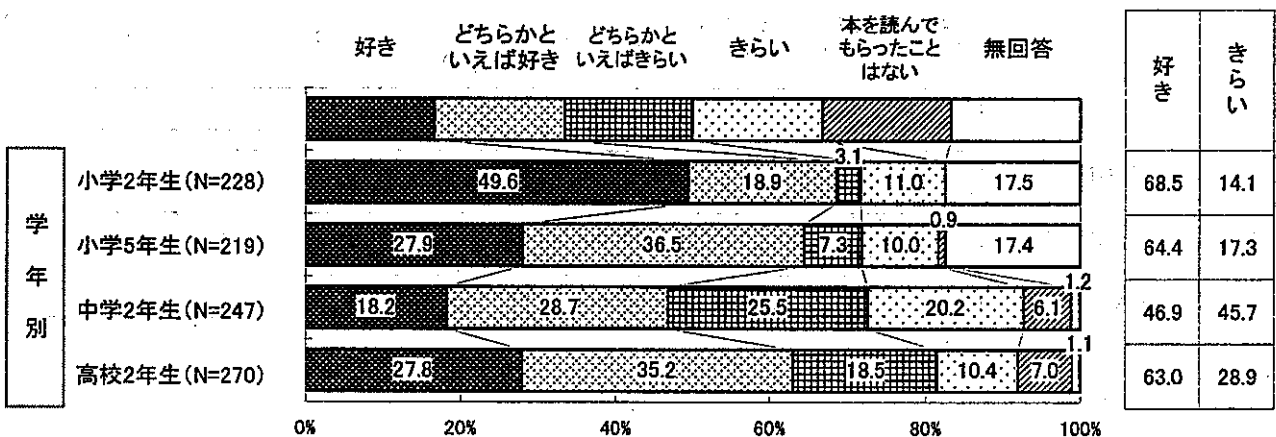
本の読み聞かせについて尋ねたところ、「好き」と回答した児童生徒は小学2年生が55.6%で最も多く、次いで小学5年生(42.8%)、高校2年生(23.3%)、中学2年生(14.8%)の順となっており、中学2年生は他の学年に比べて「好き」と回答した生徒の割合が低い。なお、「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』の割合は、小学生が8割を超えているが、高校2年生は約6割、中学2年生は4割となっている。なお、中学生は『きれい』(=「きれい」+「どちらかといえばきれい」)の割合が『好き』を上回っているのが特徴的である。

前回調査の結果と比較すると、小学生は『好き』の割合が約20ポイントも増加しており、5年前に比べて読み聞かせが好きな児童が増加している傾向がみられる。なお、中学2年生、高校2年生は5年前との傾向にそれほど大きな違いはみられない。

図表 本の読み聞かせについて



参考：本の読み聞かせについて（前回調査）



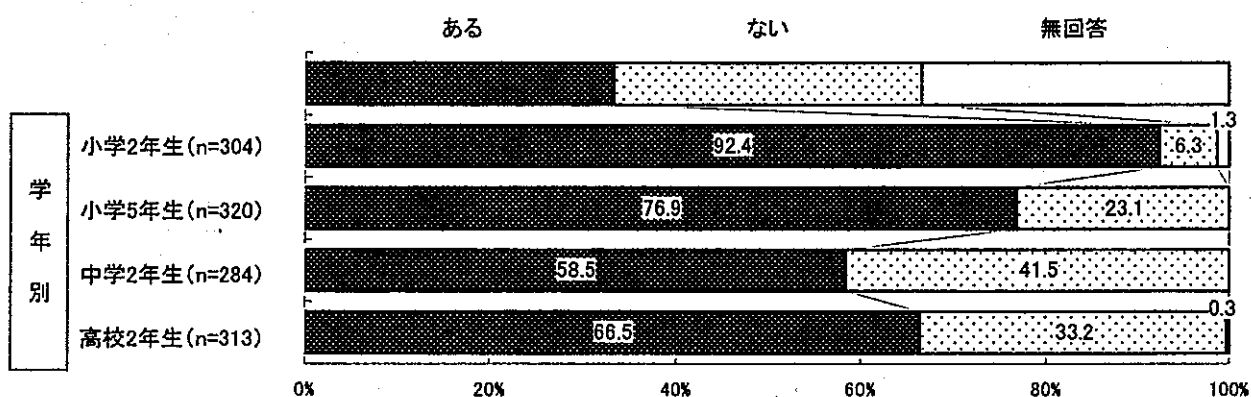
2. 学校、学校図書館について

(1) 読書の時間（朝の読書など）の有無

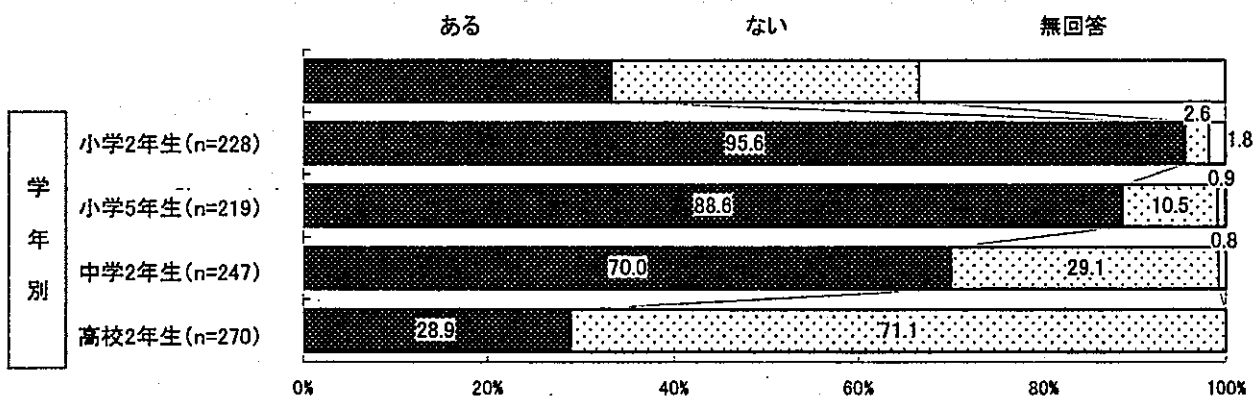
クラスに読書の時間（朝の読書など）が「ある」と回答した児童生徒は、小学2年生が92.4%、小学5年生は76.9%、中学2年生は58.5%、高校2年生は66.5%となっており、中学2年生は他の学年に比べて割合が低い。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は5年前とほぼ変わらないものの、小学5年生、中学2年生は「ある」と回答した児童生徒の割合が減少している。一方で、高校2年生は「ある」と回答した生徒の割合が30ポイント以上も増加しており、5年前に比べて読書の時間（朝の読書など）が大幅に増加している傾向がみられる。

図表 読書の時間（朝の読書など）の有無



参考：読書の時間（朝の読書など）の有無（前回調査）

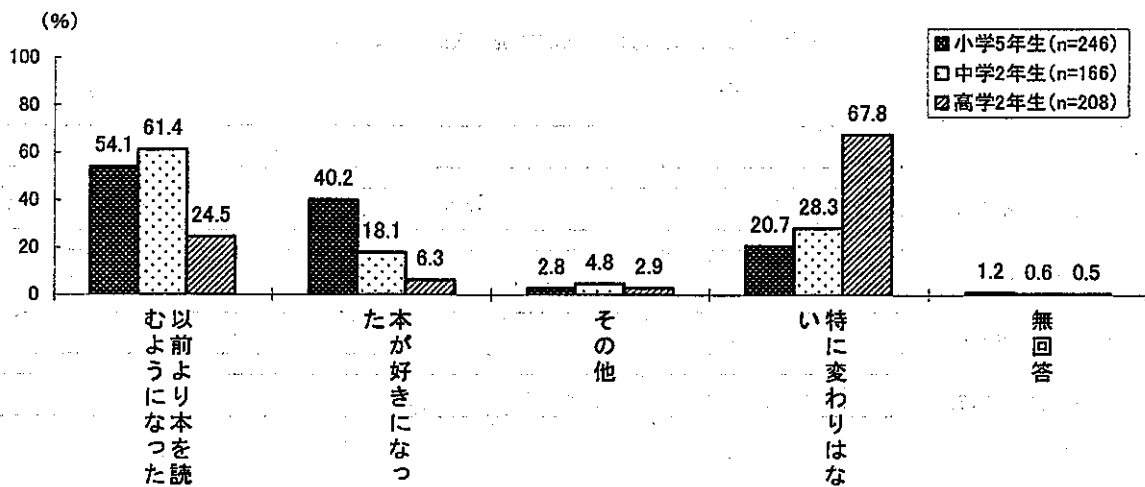


(2) 読書の時間による変化 (小5・中2・高2)

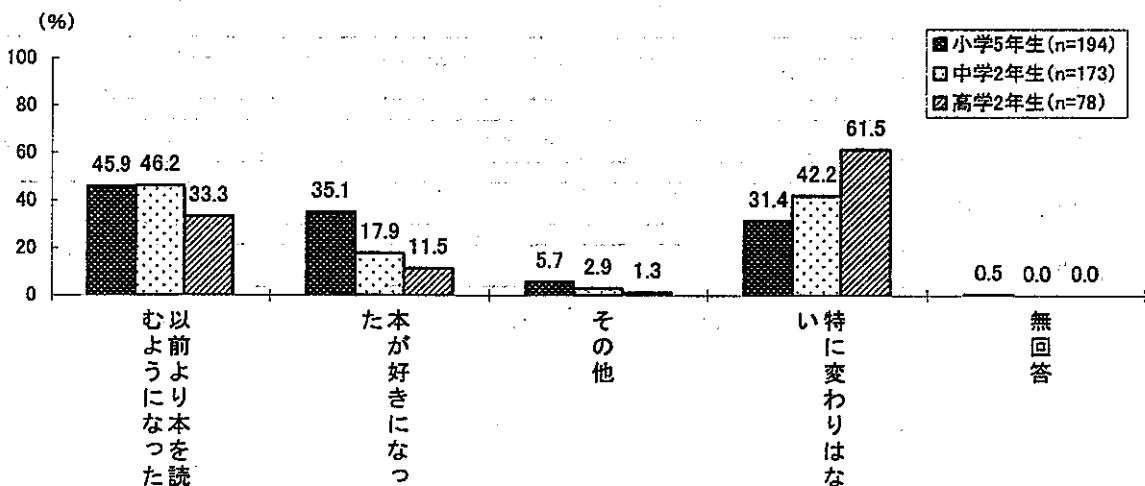
読書の時間があることによって何か変化があったかを尋ねたところ、小学5年生、中学2年生は「以前より本を読むようになった」と回答した児童生徒の割合が最も多い。一方、高校2年生は「特に変わりはない」と回答した生徒が67.8%で最も多く、意識に違いがみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生、中学2年生は「以前より本を読むようになった」と回答した児童生徒の割合が増加し、一方で「特に変わりはない」の割合が減少しており、読書の時間があることによって本を読むようになったと感じている児童生徒が5年前よりも増加している傾向がみられる。また、小学5年生は「本が好きになった」と回答した児童の割合が約5ポイント増加している。

図表 読書の時間による変化 (小5・中2・高2)



参考：読書の時間による変化 (小5・中2・高2) (前回調査)

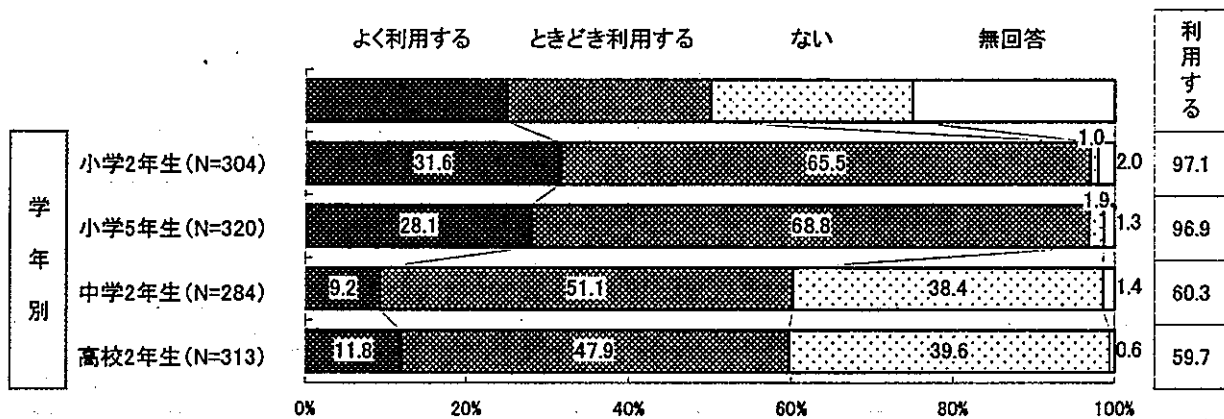


(3) 学校図書館の利用状況

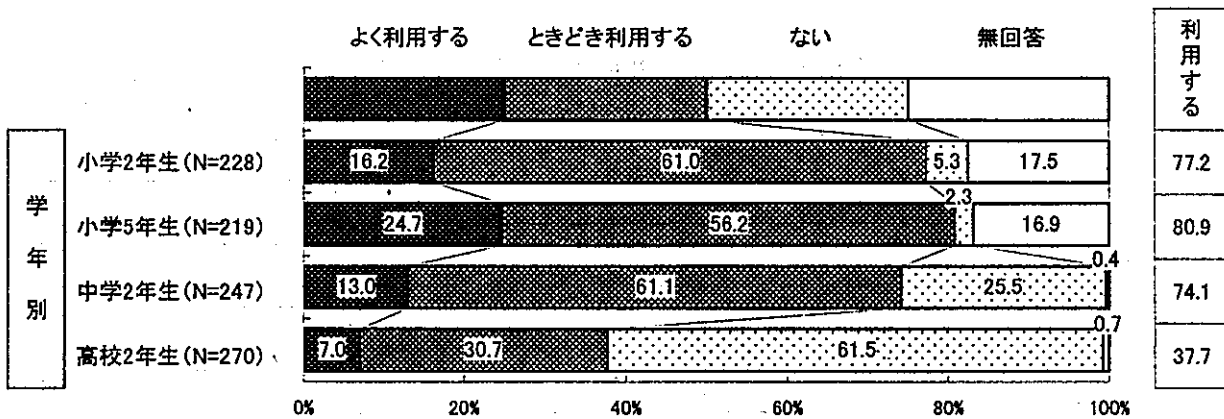
学校図書館の利用状況をみると、「よく利用する」と回答した児童生徒は小学2年生が31.6%、小学5年生は28.1%、中学2年生は9.2%、高校2年生は11.8%となっており、中学2年生は他の学年に比べて「よく利用する」と回答した生徒の割合が低い。なお、「ときどき利用する」を合わせた『利用する』の割合は、小学生が9割を超えているものの、中学2年生、高校2年生は6割程度となっており、小学校と中学校以降で差がみられる。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「よく利用する」と回答した児童生徒の割合は増加している。『利用する』の割合も、中学2年生以外は5年前に比べて増加している。

図表 学校図書館の利用状況



参考：学校図書館の利用状況（前回調査）

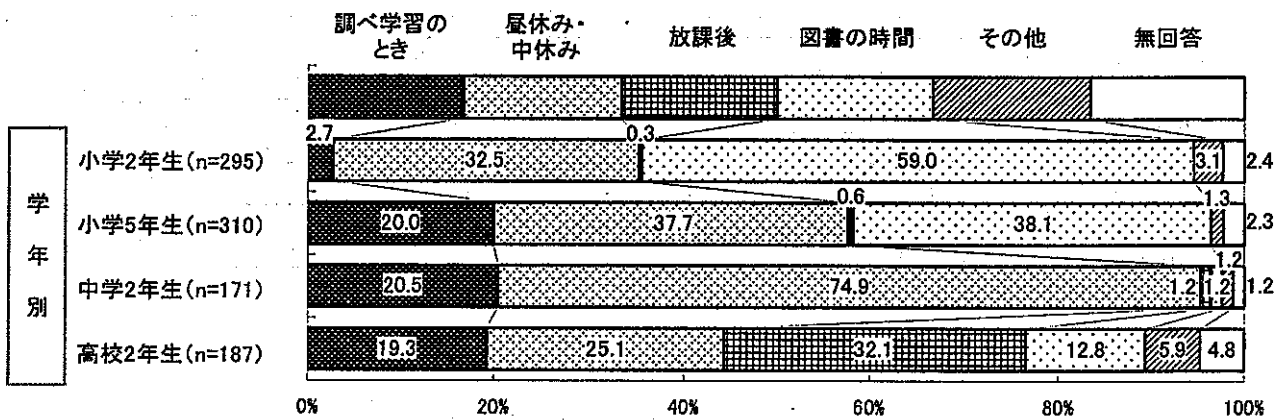


(4) 学校図書館の利用方法

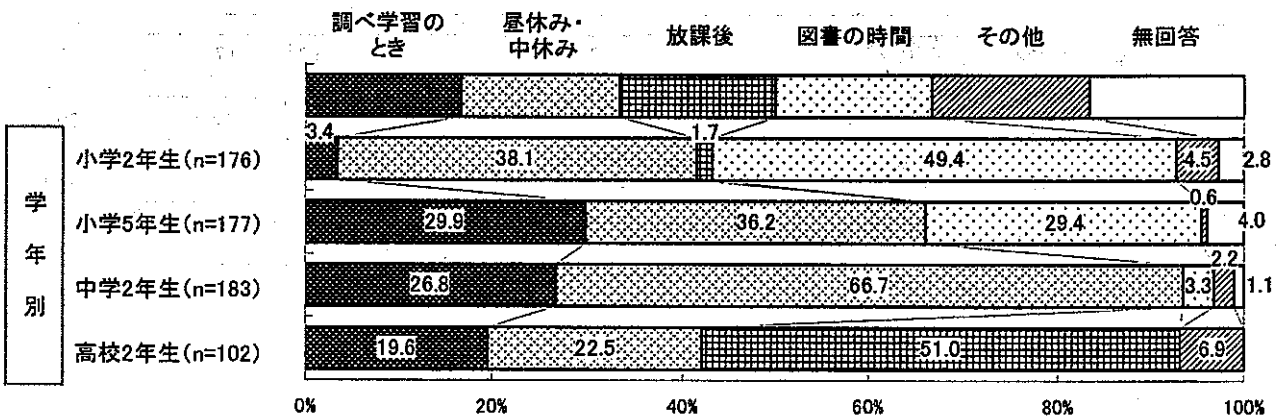
学校図書館の利用方法について尋ねたところ、小学2年生は「図書の時間」(59.0%)が最も多く、6割を占めている。小学5年生は「図書の時間」(38.1%)と「昼休み・中休み」(37.7%)がそれぞれ約4割みられる。中学2年生は「昼休み・中休み」(74.9%)が最も多く、7割以上を占めている。高校2年生は「放課後」(32.1%)が最も多く、次いで「昼休み・中休み」(25.1%)の順となっている。なお、小学5年生以上は「調べ学習のとき」と回答した児童生徒がいずれも2割程度みられる。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は「図書の時間」の割合が約10ポイント増加している。小学5年生は「調べ学習のとき」の割合が減少している一方で、「図書の時間」が増加している。中学2年生は「調べ学習のとき」の割合が減少している一方で、「昼休み・中休み」が増加している。高校2年生は「放課後」の割合が約18ポイント減少している一方で、「図書の時間」と回答した生徒が1割みられるのが特徴的な変化といえる。

図表 学校図書館の利用方法



参考：学校図書館の利用方法（前回調査）

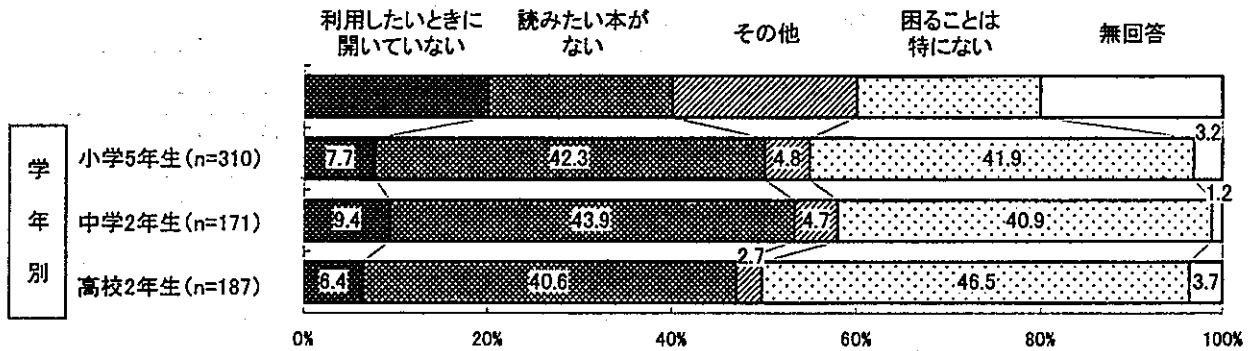


(5) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)

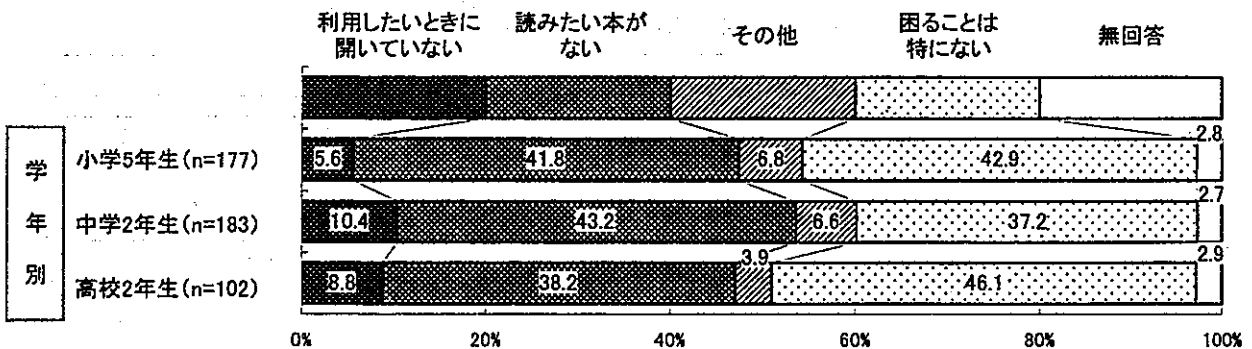
学校図書館の利用上での問題点について尋ねたところ、いずれの学年も「読みたい本がない」と回答した児童生徒が4割みられる一方で、「困ることは特にない」と答えた児童生徒も、いずれの学年も4割みられる。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も5年前とそれほど大きな違いはみられない。

図表 利用上での問題点 (小5・中2・高2)



参考：利用上での問題点 (小5・中2・高2) (前回調査)

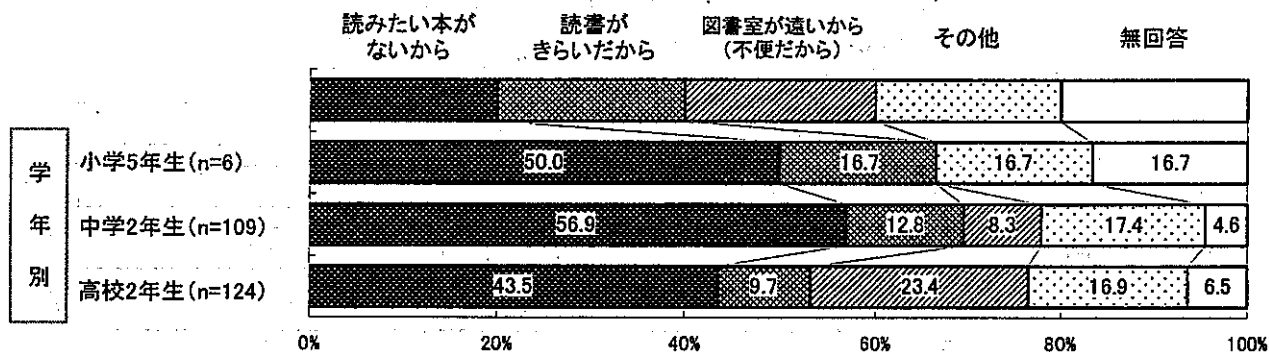


(6) 利用しない理由 (小5・中2・高2)

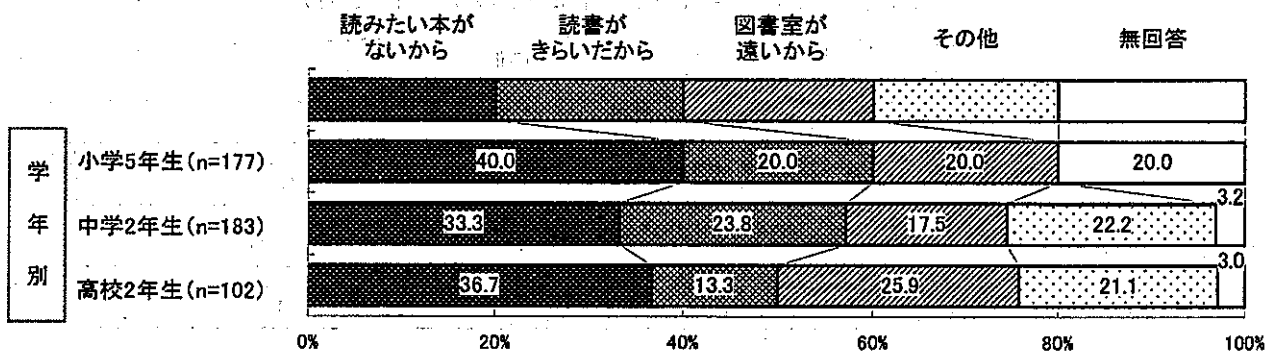
学校図書館を利用しない理由としては、いずれの学年も「読みたい本がないから」と回答した児童生徒の割合が最も多くなっている。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「読みたい本がないから」の割合が5年前に比べて増加している一方で、「読書がきらいだから」、「図書室が遠いから (不便だから)」の割合は減少している。

図表 利用しない理由 (小5・中2・高2)



参考：利用しない理由 (小5・中2・高2) (前回調査)



(7) 学級文庫の利用状況

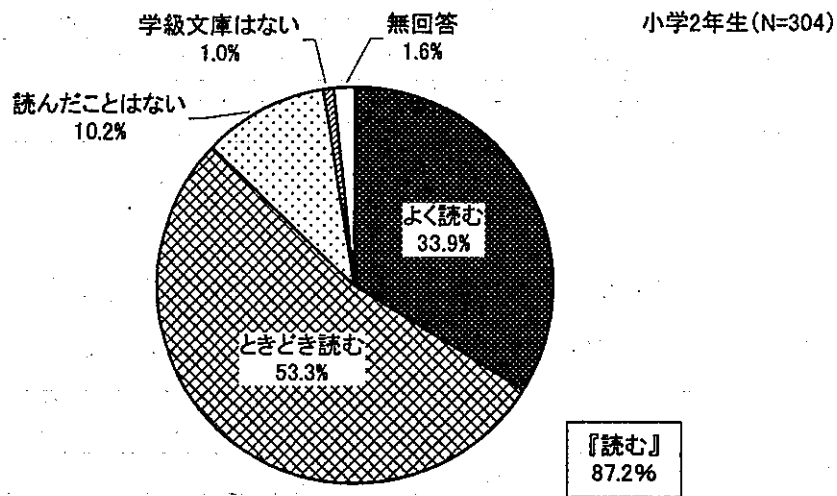
学級文庫の利用について尋ねてみた。

①小学2年生

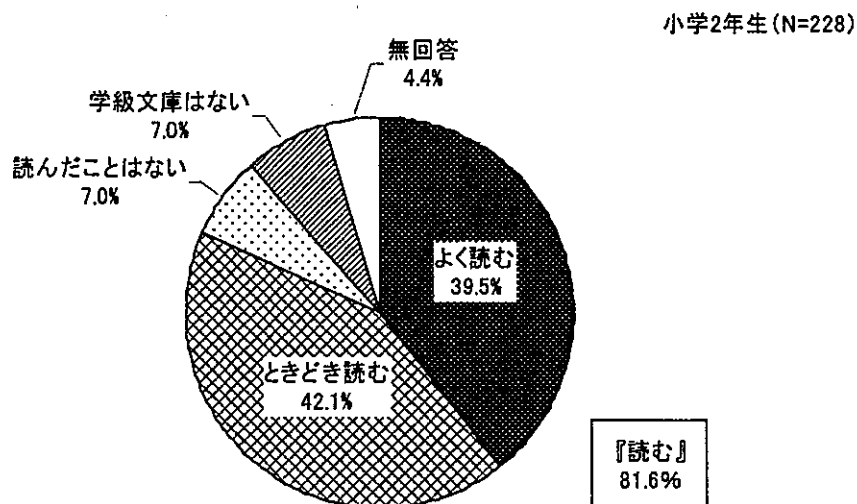
「よく読む」と回答した児童が 33.9%と3割を超えている。また、「ときどき読む」を合わせた『読む』の割合は 87.2%と8割を超えている。

前回調査の結果と比較すると、「よく読む」の割合は約5ポイント減少している一方で、『読む』の割合は約5ポイント増加している。

図表 学級文庫の利用状況 (小2)



参考：学級文庫の利用状況 (小2) (前回調査)

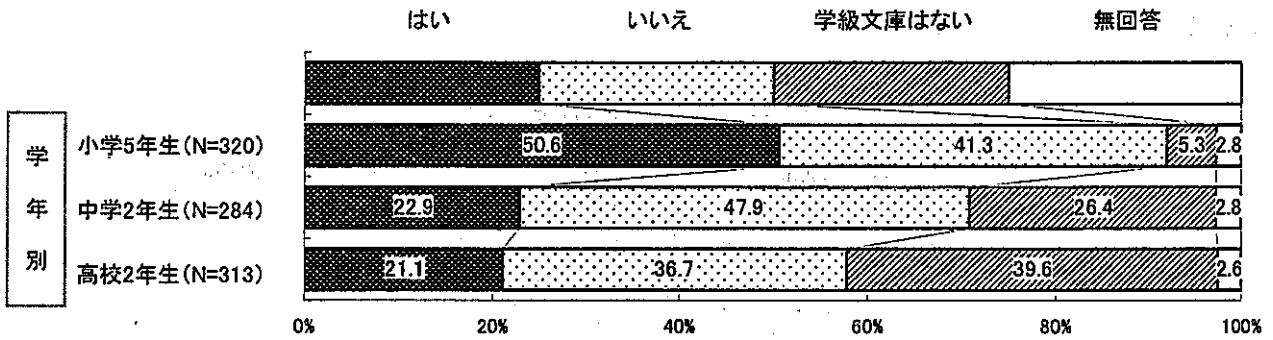


②小学5年生、中学2年生、高校2年生

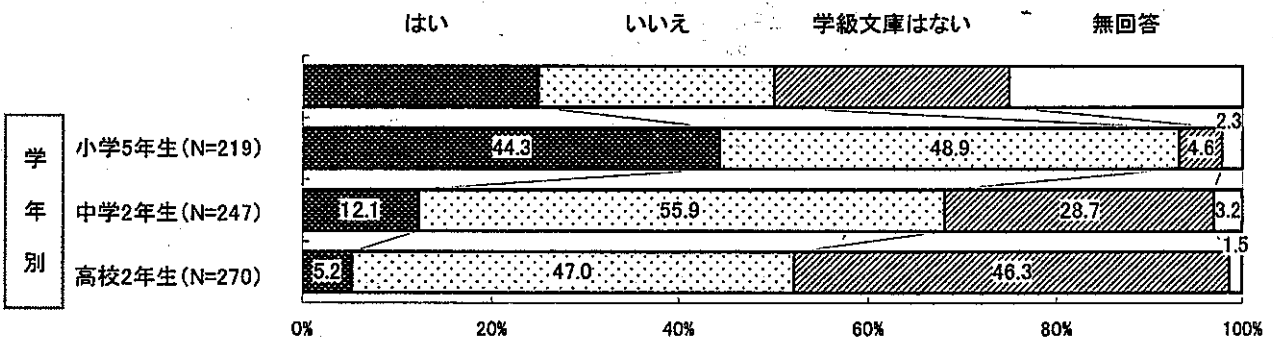
「はい」と回答した児童生徒は小学5年生が50.6%と5割を超えているが、中学2年生は22.9%、高校2年生は21.1%と、2割程度となっている。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「はい」と回答した児童生徒の割合が増加している。

図表 学級文庫の利用状況 (小5・中2・高2)



参考：学級文庫の利用状況 (小5・中2・高2) (前回調査)

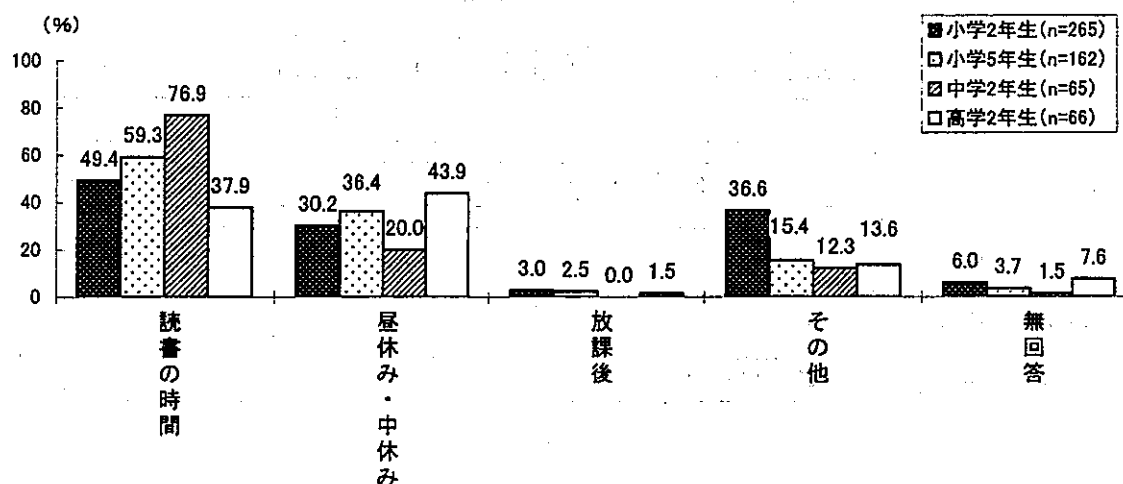


(8) 学級文庫の利用方法

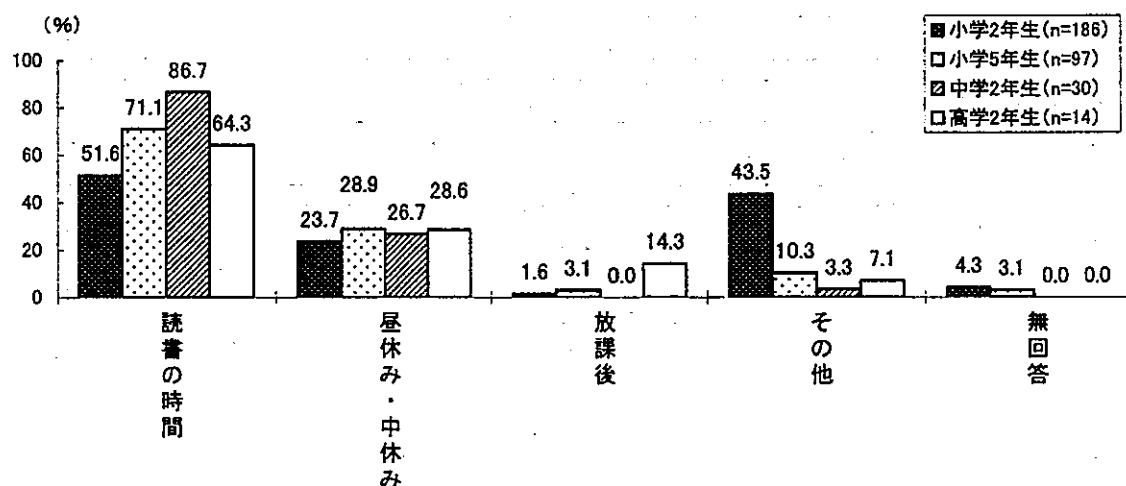
学級文庫の利用方法について尋ねたところ、小学生、中学2年生は「読書の時間」の割合が最も多いものの、高校2年生は「昼休み・中休み」(43.9%)が最も多くなっている。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は「昼休み・中休み」の割合が約6ポイント増加している。小学5年生、高校2年生は「読書の時間」が減少している一方で、「昼休み・中休み」の割合が増加している。特に高校2年生は「昼休み・中休み」の割合が約15ポイントも増加している。なお、中学2年生は「読書の時間」、「昼休み・中休み」のいずれも減少している。

図表 学級文庫の利用方法



参考：学級文庫の利用方法（前回調査）



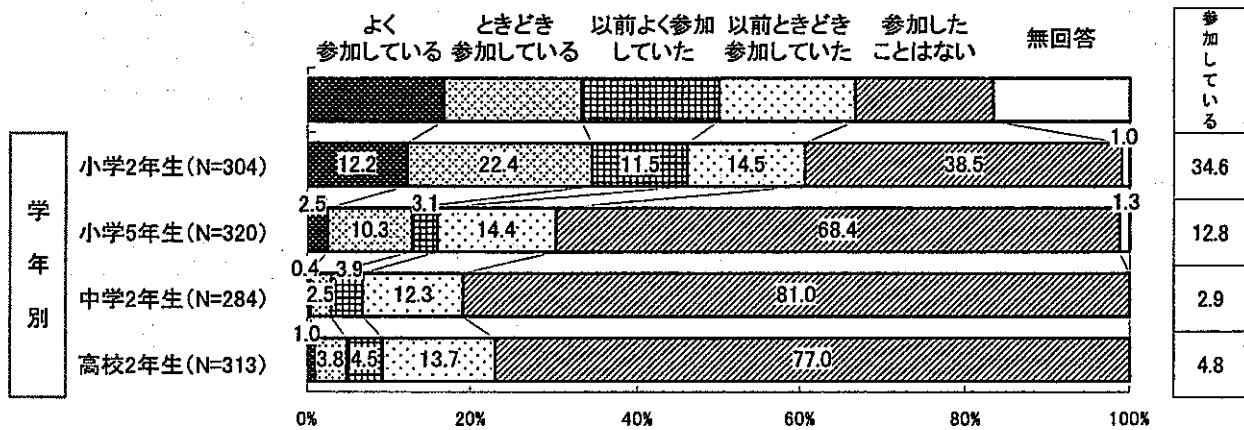
3. 地域文庫等について

(1) 公民館や地域の文庫活動への参加状況

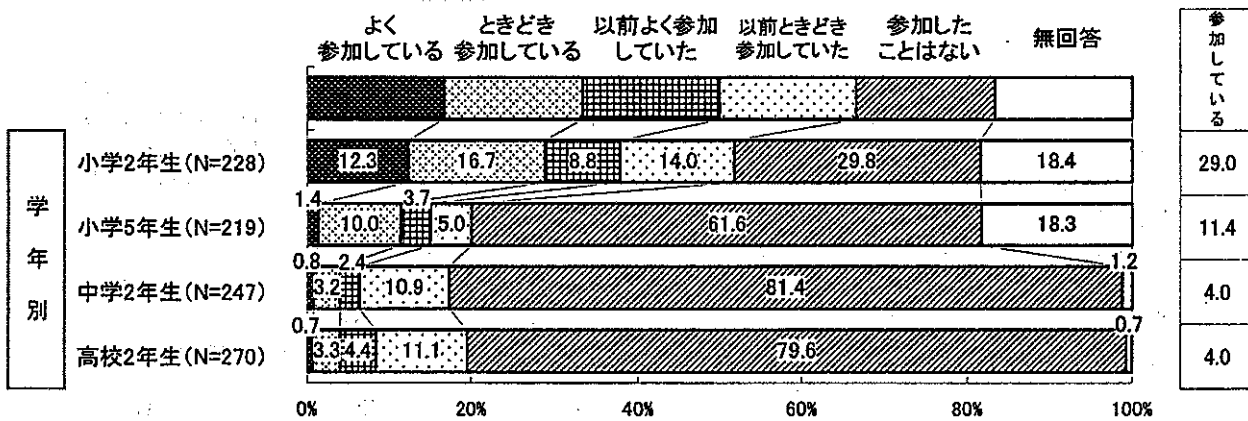
公民館や地域の文庫活動への参加状況を見ると、小学2年生は「よく参加している」と回答した児童が12.2%と1割を超えているものの、その他の学年の児童生徒は1割にも満たない。なお、「ときどき参加している」と合わせた『参加している』の割合は小学2年生が34.6%で最も多く、次いで小学5年生(12.8%)で、中学2年生、高校2年生は1割にも満たない。

前回調査の結果と比較すると、小学2年生は『参加している』の割合が約4ポイント増加している。その他の学年は5年前とそれほど大きな違いはみられない。

図表 公民館や地域の文庫活動への参加状況



参考：公民館や地域の文庫活動への参加状況（前回調査）

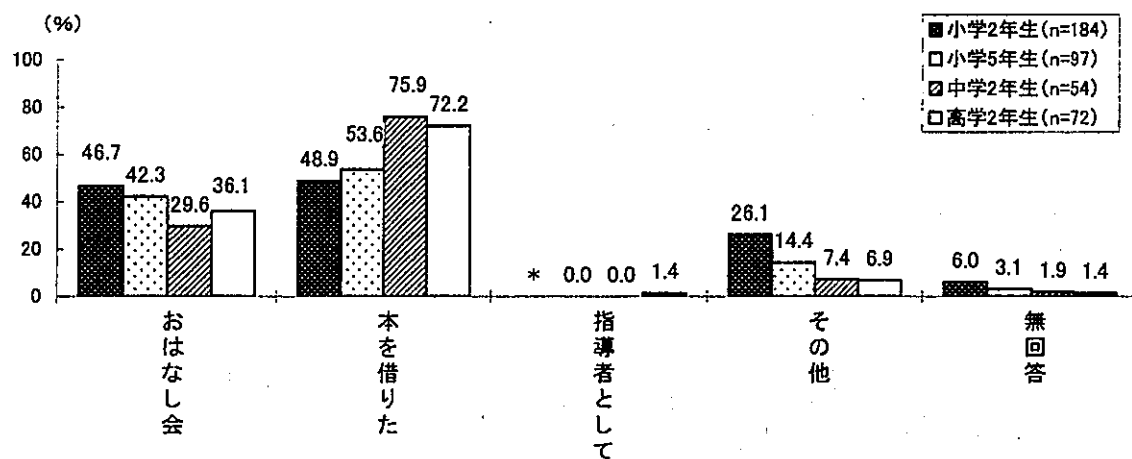


(2) 参加目的

参加目的について尋ねたところ、いずれの学年も「本を借りた」と回答した児童が最も多く、次いで「おはなし会」の順となっている。特に中学2年生、高校2年生は「本を借りた」の割合が7割を超えており、小学生との差が大きい。

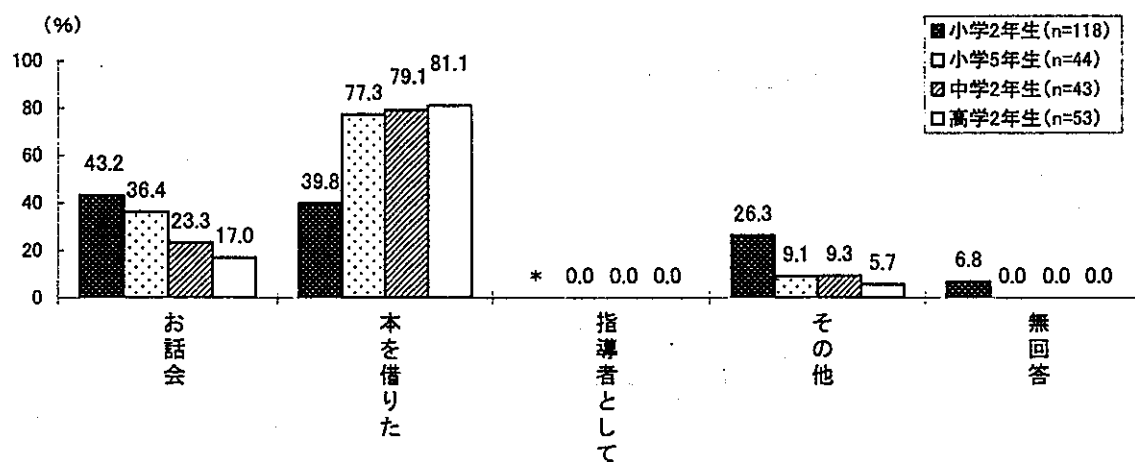
前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「本を借りた」の割合が約23ポイントも減少している。一方、高校2年生は「おはなし会」の割合が約19ポイント増加している。

図表 参加目的



注) *は未調査項目

参考：参加目的 (前回調査)

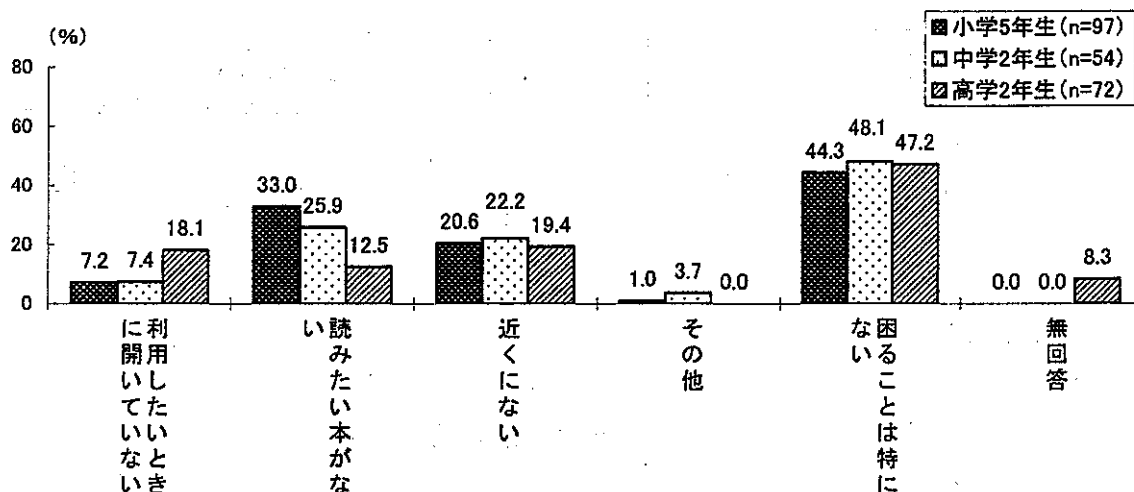


(3) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)

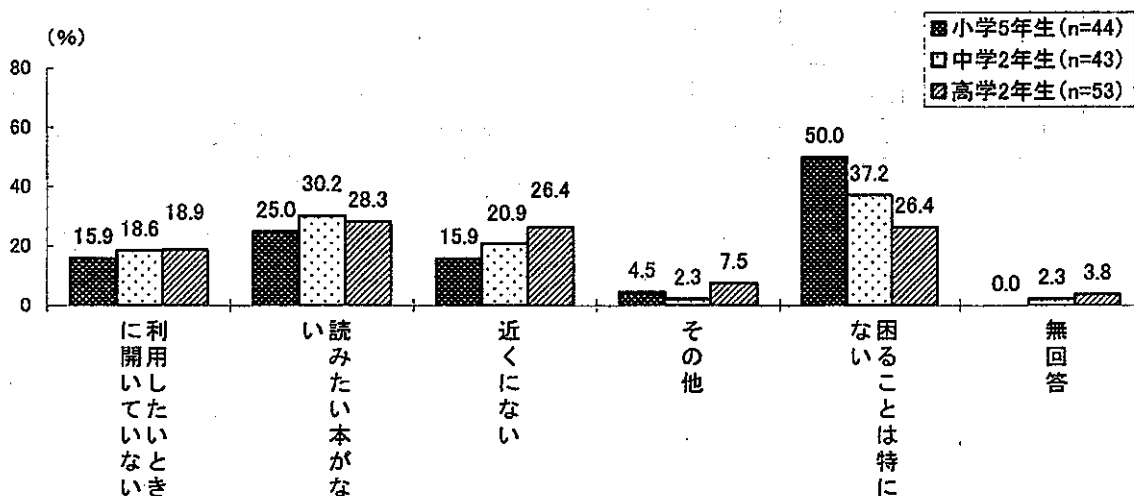
地域文庫を利用する上での問題点については、小学5年生と中学2年生は「読みたい本がない」が最も多く、次いで「近くにない」の順となっている。一方、高校2年生は「近くにない」が最も多く、次いで「利用したいときに開いていない」の順となっている。なお、いずれの学年も「困ることは特にない」と回答した児童生徒の割合が最も多くなっている。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「読みたい本がない」の割合が約8ポイント増加、「近くにない」も約4ポイント増加している一方で、「利用したいときに開いていない」は約8ポイント減少している。また、「困ることは特にない」も約5ポイント減少している。中学2年生は「読みたい本がない」、「利用したいときに開いていない」が減少している一方で、「困ることは特にない」が増加している。高校2年生は「読みたい本がない」、「近くにない」の割合が減少している一方で、「困ることは特にない」が増加している。

図表 利用上での問題点 (小5・中2・高2)



参考：利用上での問題点 (小5・中2・高2) (前回調査)

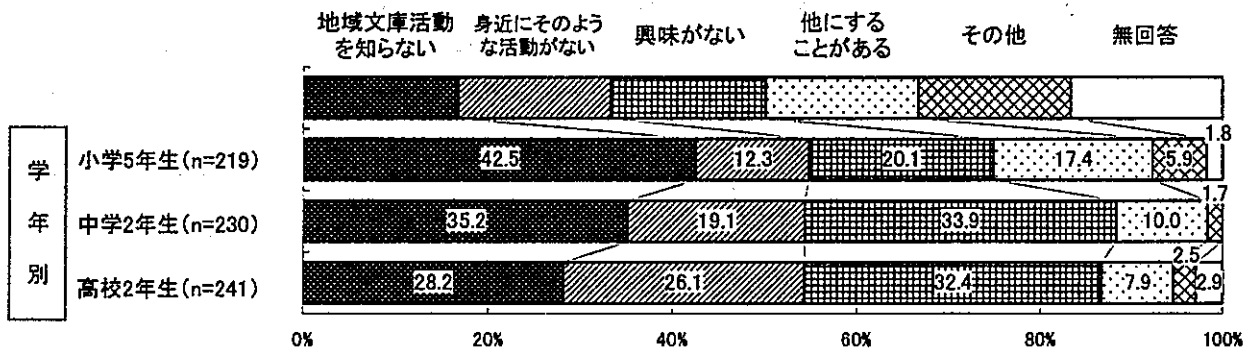


(4) 参加しない理由 (小5・中2・高2)

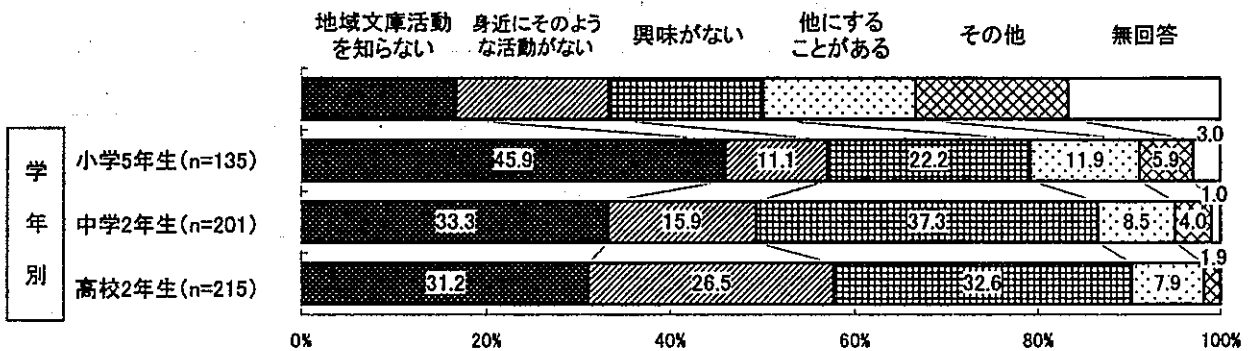
地域文庫に参加しない理由について尋ねたところ、小学5年生、中学2年生は「地域文庫活動を知らない」の割合が最も多くが、高校2年生は「興味がない」(32.4%)が最も多くなっている。なお、学年が上がるにつれて「身近にそのような活動がない」の割合が増加する傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「他にすることがある」の割合が約5ポイント増加している。中学2年生は「身近にそのような活動がない」の割合が約3ポイント増加している一方で、「興味がない」の割合が約3ポイント増加している。高校2年生は「地域文庫活動を知らない」の割合が約3ポイント減少している。

図表 参加しない理由 (小5・中2・高2)



参考：参加しない理由 (小5・中2・高2) (前回調査)

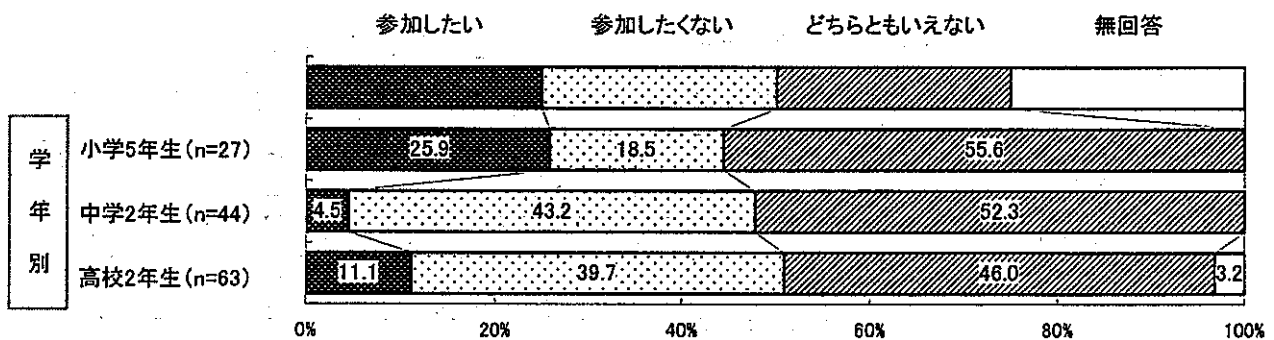


(5) 参加意向 (小5・中2・高2)

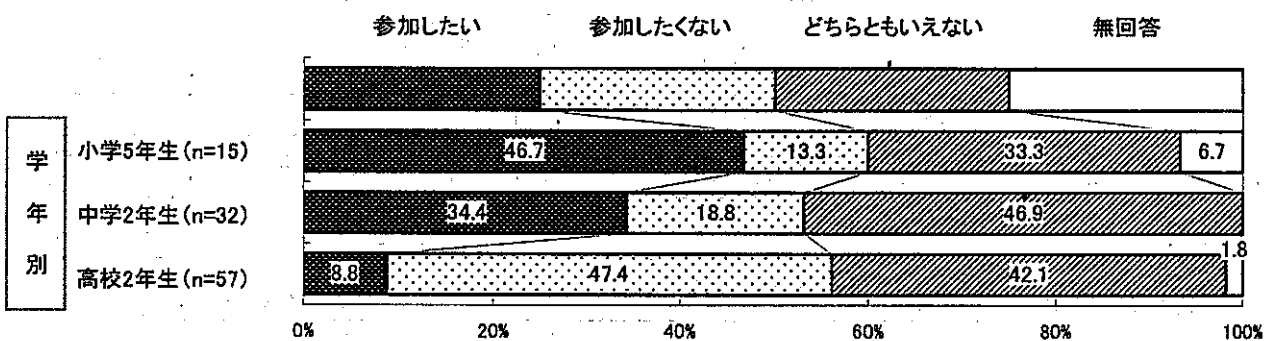
前問で「地域文庫活動がない」と回答した児童生徒に、機会があったら地域文庫活動に参加してみたいかどうか尋ねたところ、小学5年生は「参加したい」の割合が25.9%で、「参加したくない」(18.5%)を上回っている。その他の学年で「参加したい」と回答した割合は、中学2年生が4.5%、高校2年生は11.1%となっているが、いずれも「参加したくない」と回答した生徒が4割みられ、参加意向は低い。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生、中学2年生は「参加したい」の割合が減少している一方で、「参加したくない」が増加しているが、高校2年生は「参加したい」が約2ポイントと僅かではあるが増加している一方で、「参加したくない」が減少している。

図表 参加意向 (小5・中2・高2)



参考：参加意向 (小5・中2・高2) (前回調査)



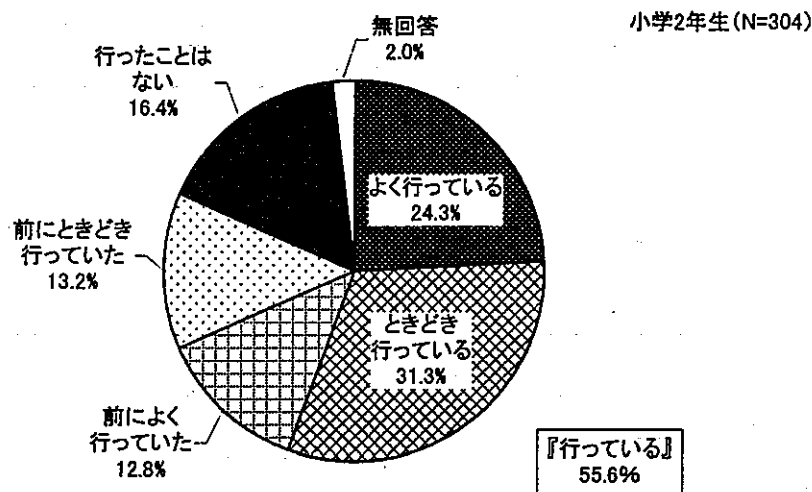
4. 市立総合図書館・分館について

(1) 図書館（学校以外）への来館経験（小2）

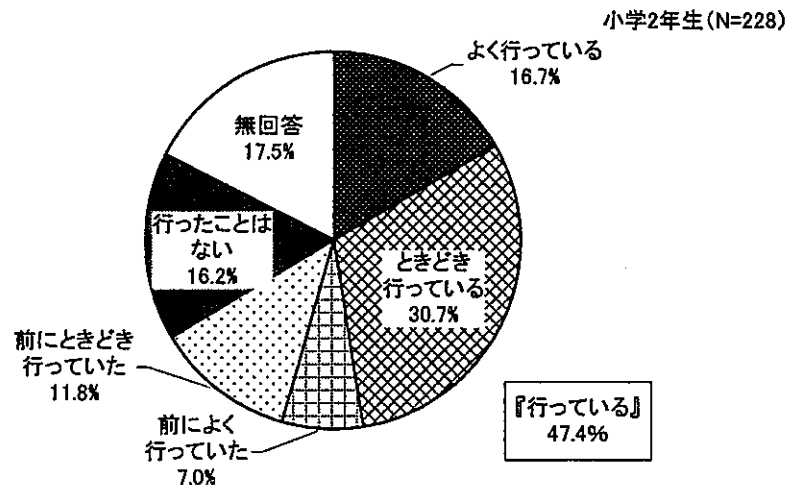
小学2年生に、図書館（学校以外）への来館経験について尋ねたところ、「よく行っている」の割合は24.3%で、「ときどき行っている」と合わせた『行っている』割合は55.6%と、全体の半数以上が図書館（学校以外）への来館経験がある。

前回調査の結果と比較すると、「よく行っている」の割合は約7ポイント増加しているほか、『行っている』の割合も約8ポイント増加しており、5年前に比べて図書館（学校以外）への来館経験が増加している傾向がみられる。

図表 図書館（学校以外）への来館経験（小2）



参考：図書館（学校以外）への来館経験（小2）（前回調査）

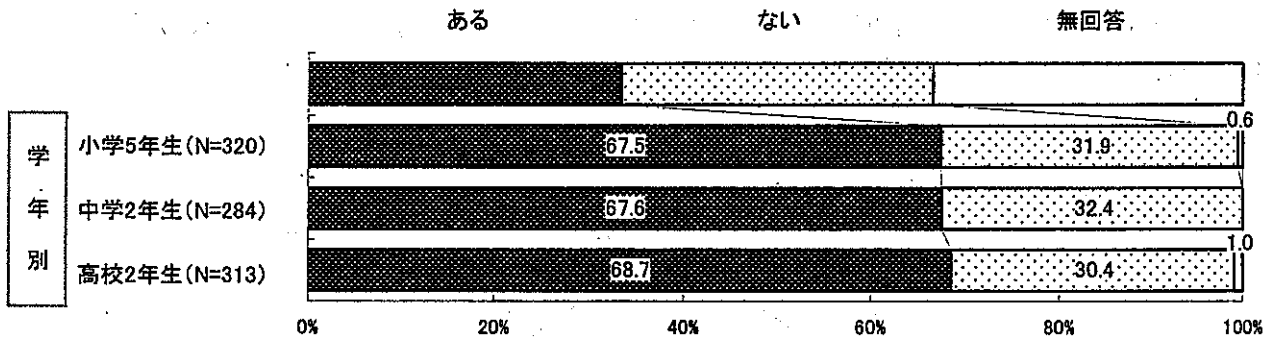


(2) 市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験（小5・中2・高2）

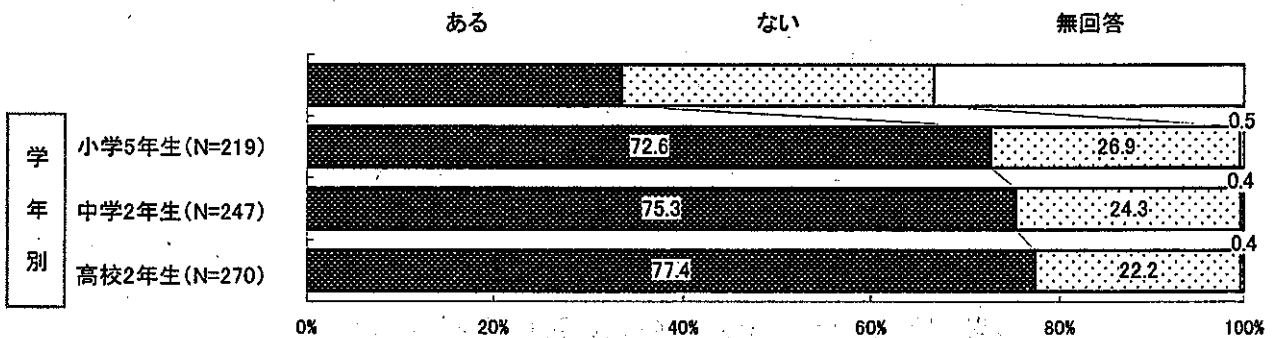
小学5年生以上の児童生徒に、市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験について尋ねたところ、いずれの学年も「ある」と回答した割合が6割を超えている。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「ある」の割合は減少しており、5年前に比べて市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験が減少している傾向がみられる。

図表 市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験（小5・中2・高2）



参考：市立図書館（総合図書館・分館）への来館経験（小5・中2・高2）（前回調査）

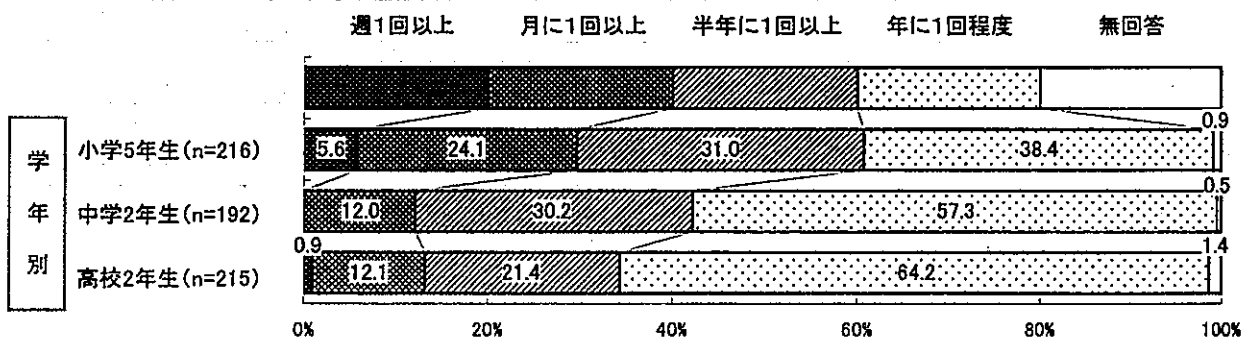


(3) 来館頻度 (小5・中2・高2)

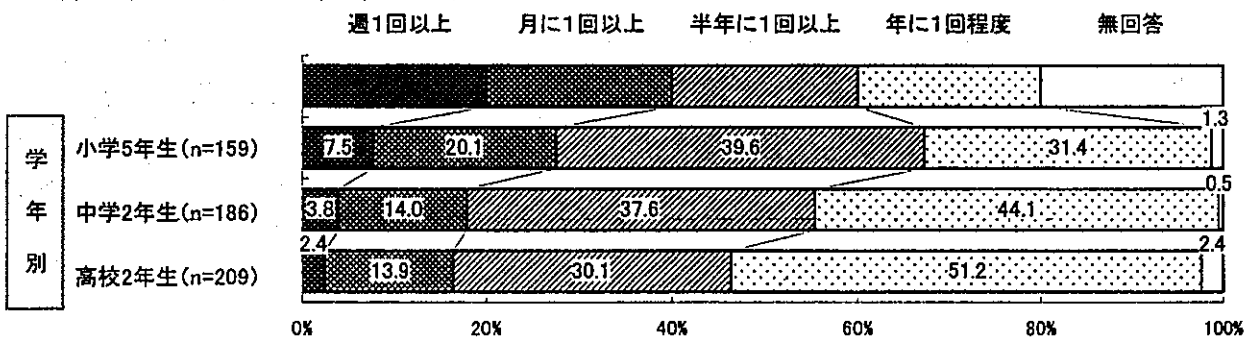
市立図書館(総合図書館・分館)への来館経験が「ある」と回答した児童生徒に、来館頻度を尋ねたところ、いずれの学年も「年に1回程度」の割合が最も多く、学年が上がるにつれて、割合が増加する傾向がみられる。なお、小学5年生は「月に1回以上」が24.1%と2割以上みられ、他の学年に比べて多くなっている。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「月に1回以上」の割合が約4ポイント増加している一方で、「半年に1回以上」は約8ポイント減少しているものの、「年に1回以上」が約7ポイント増加しており、来館頻度が多い児童と少ない児童に2極化している傾向がみられる。中学2年生、高校2年生はいずれも「月に1回以上」、「半年に1回以上」の割合が減少している一方で、「年に1回以上」が増加しており、来館頻度が全体的に減少している傾向がみられる。

図表 来館頻度 (小5・中2・高2)



参考：来館頻度 (小5・中2・高2) (前回調査)

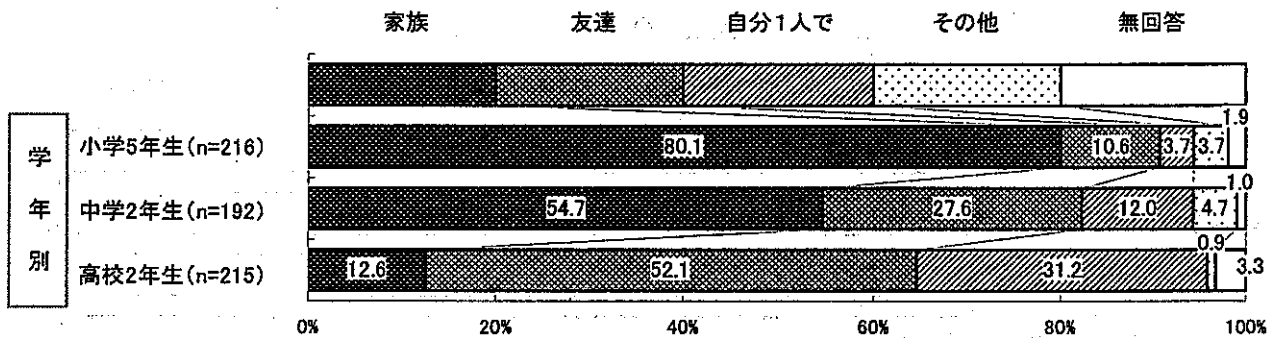


(4) 同伴者 (小5・中2・高2)

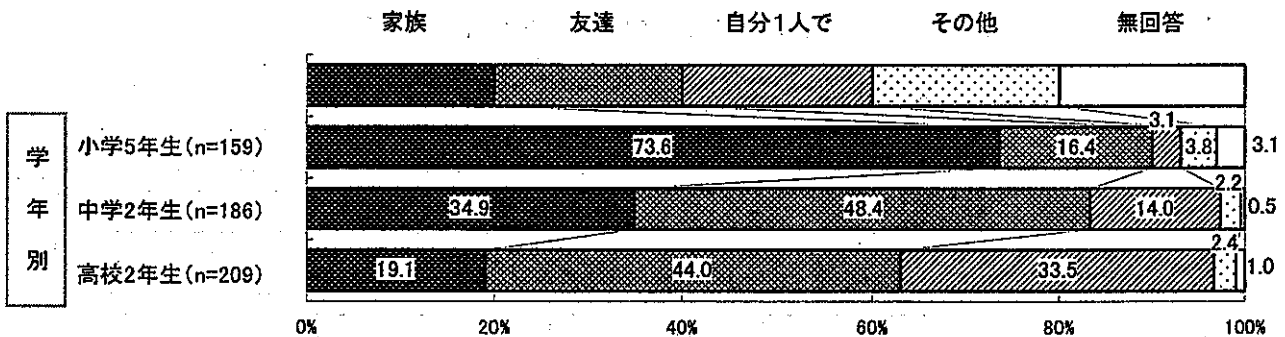
市立図書館(総合図書館・分館)に来館する際の同伴者について尋ねたところ、小学5年生は「家族」の割合が80.1%と、8割を占めている。中学2年生は「家族」が54.7%で最も多く、次いで「友達」(27.6%)の順となっている。高校2年生は「友達」が52.1%で最も多く、次いで「自分1人で」(31.2%)の順となっている。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「家族」の割合が約6ポイント増加している一方で、「友達」が約6ポイント減少している。中学2年生は「家族」の割合が20ポイント以上も増加している一方で、「友達」が約20ポイント減少している。高校2年生は「友達」の割合が約8ポイント増加している一方で、「家族」が約6ポイント減少している。

図表 同伴者 (小5・中2・高2)



参考：同伴者 (小5・中2・高2) (前回調査)

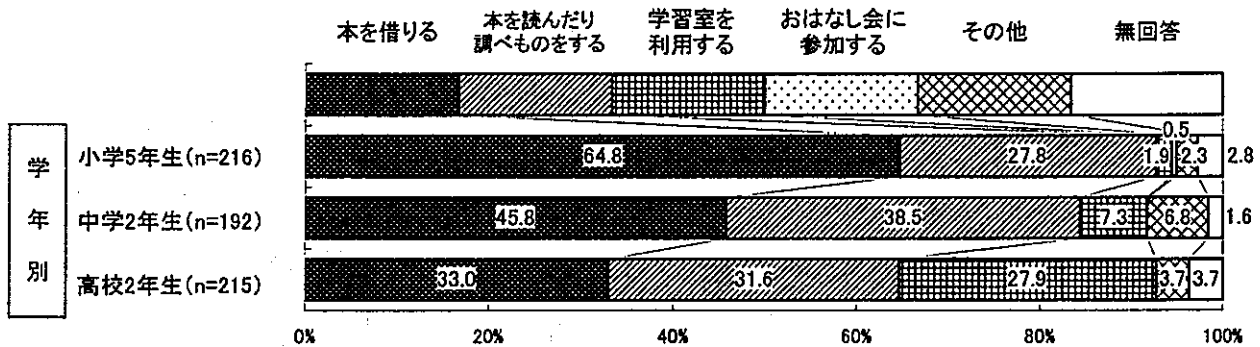


(5) 主な目的 (小5・中2・高2)

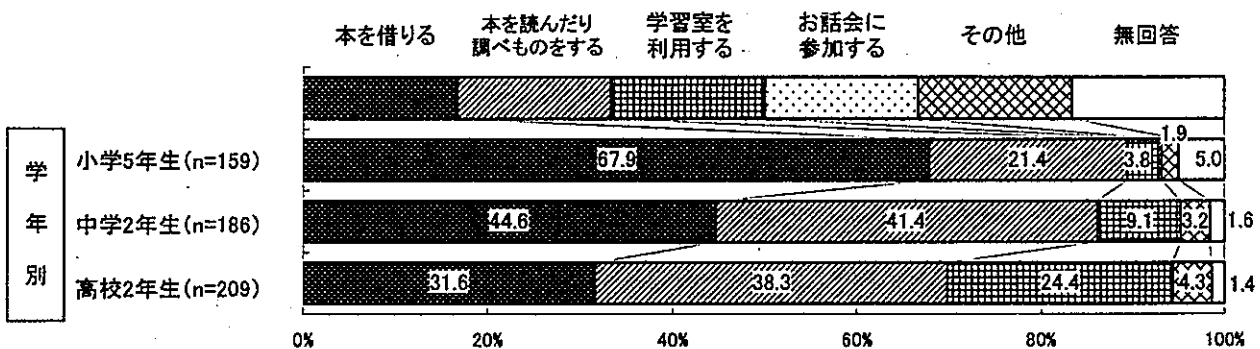
市立図書館(総合図書館・分館)に来館する際の主な目的について尋ねたところ、いずれの学年も「本を借りる」の割合が最も多く、次いで「本を読んだり調べものをする」の順となっている。なお、学年が上がるにつれて「学習室を利用する」の割合が増加しており、高校2年生では27.9%と、約3割を占めている。

前回調査の結果と比較すると、「本を借りる」と回答した児童生徒の割合が最も多い傾向は変わらないものの、高校2年生は「学習室を利用する」の割合が約3ポイント増加している。

図表 主な目的 (小5・中2・高2)



参考：主な目的 (小5・中2・高2) (前回調査)

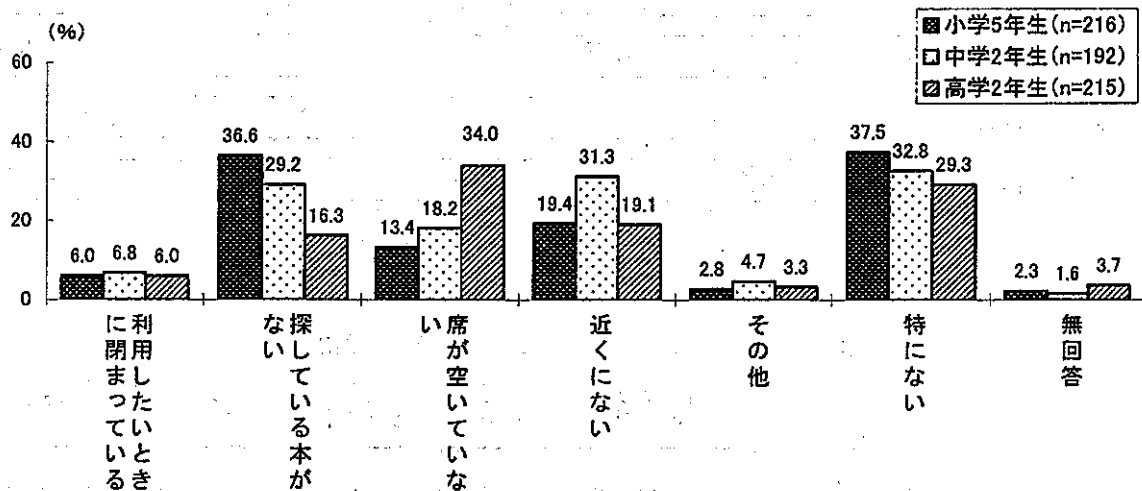


(6) 利用上での問題点 (小5・中2・高2)

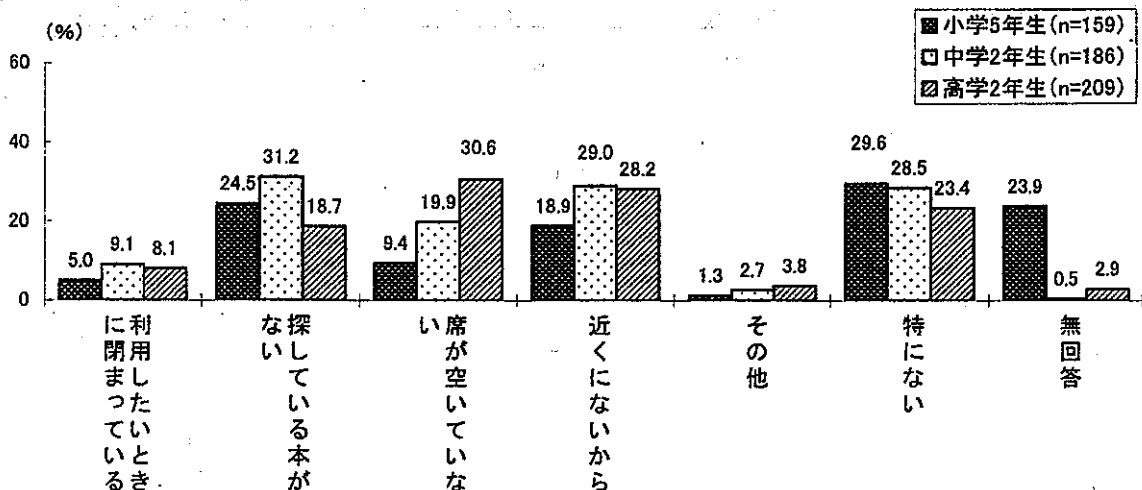
市立図書館(総合図書館・分館)を利用する上での問題点について尋ねたところ、小学5年生は「探している本がない」(36.6%)、中学2年生は「近くにない」(31.3%)、高校2年生は「席が空いていない」(34.0%)が、それぞれ最も多くなっている。なお、「特にない」と回答した児童生徒はいずれの学年も3割程度みられる。

前回調査の結果と比較すると、いずれの学年も「特にない」の割合が増加しているものの、小学5年生は「探している本がない」の割合が約12ポイント増加している。また、「席が空いていない」の割合が小学5年生、高校2年生で増加している。一方、高校2年生は「近くにない」の割合が約9ポイント減少している。

図表 利用上での問題点 (小5・中2・高2)



参考：利用上での問題点 (小5・中2・高2) (前回調査)

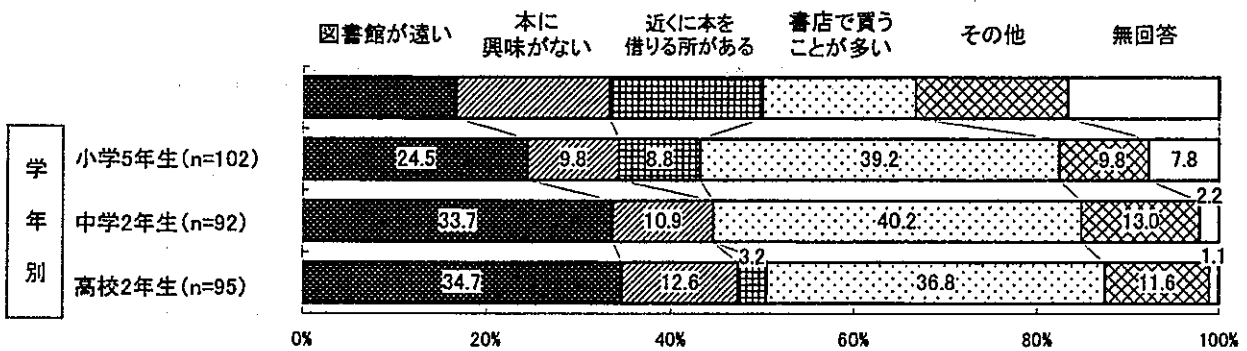


(7) 利用しない理由 (小5・中2・高2)

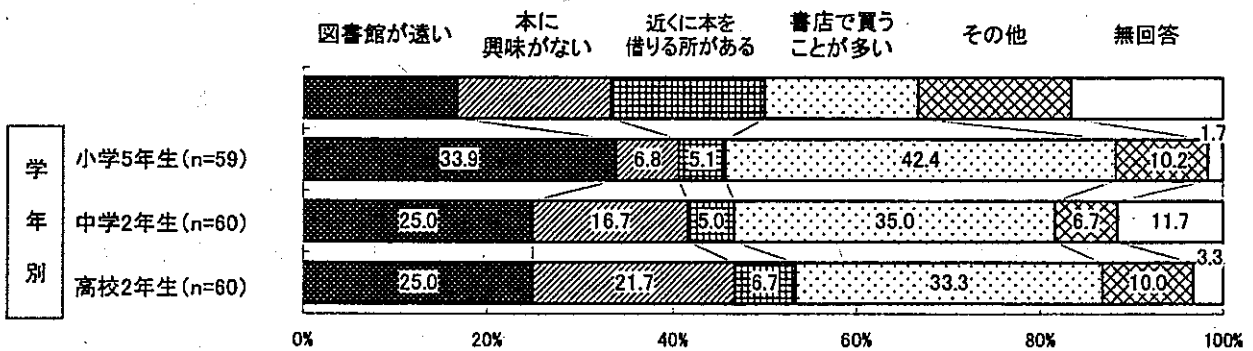
市立図書館(総合図書館・分館)を利用しない児童生徒に、その理由を尋ねたところ、いずれの学年も「書店で買うことが多い」の割合が最も多くなっている。なお、学年が上がるにつれて「図書館が遠い」の割合が増加しているほか、「本に興味がない」の割合も増加している傾向がみられる。

前回調査の結果と比較すると、小学5年生は「図書館が遠い」が約9ポイント減少しているほか、「書店で買うことが多い」も約3ポイント減少している。中学2年生、高校2年生は「図書館が遠い」が増加している一方で、「本に興味がない」が減少している。また、「書店で買うことが多い」の割合が増加している。

図表 利用しない理由 (小5・中2・高2)



参考：利用しない理由 (小5・中2・高2) (前回調査)



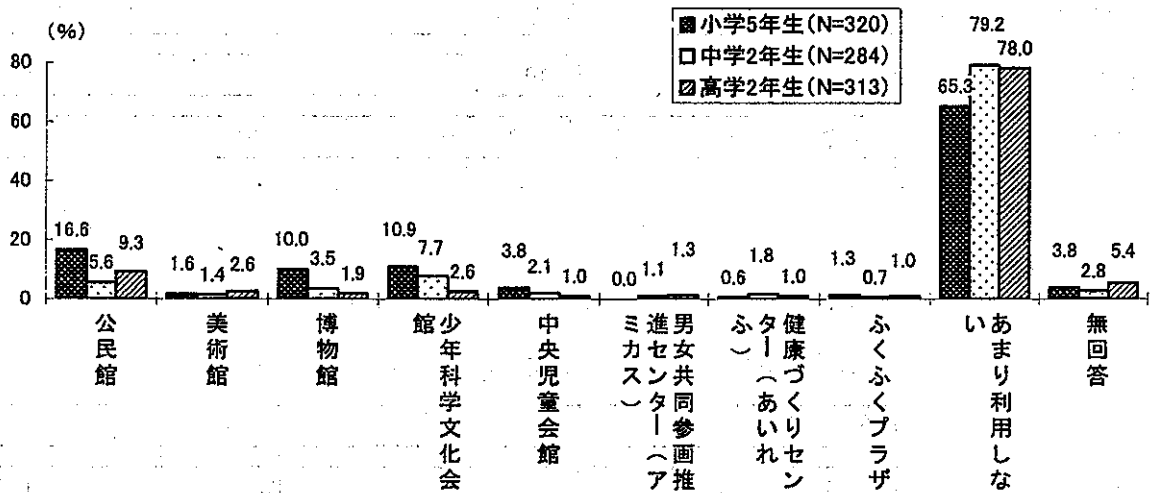
5. 市の公共施設内の図書室について

(1) 公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室（小5・中2・高2）

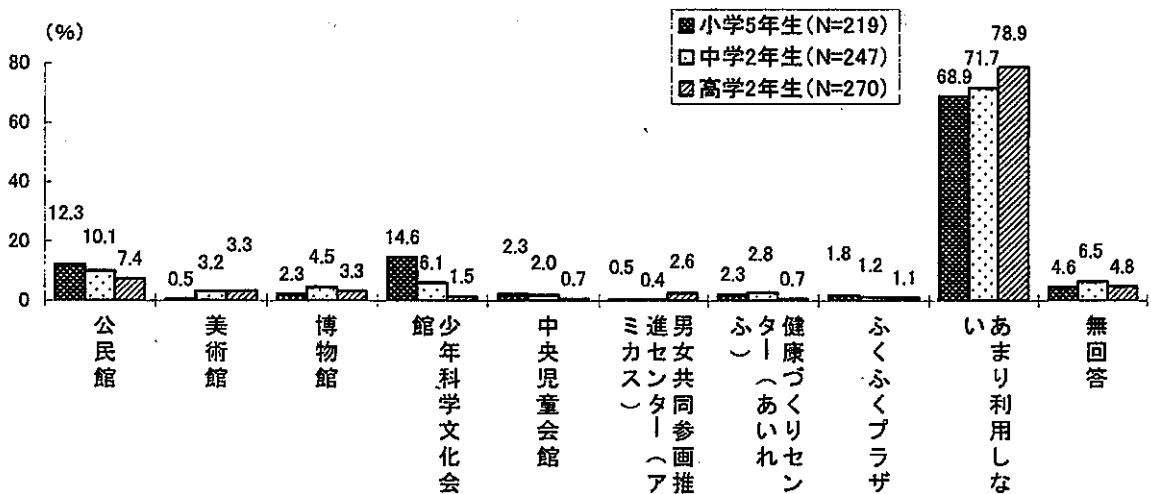
公共施設内にある図書室のなかでよく利用する図書室について尋ねたところ、小学5年生は「公民館」が16.6%で最も多く、次いで「少年科学文化会館」（10.9%）、「博物館」（10.0%）の順となっている。中学2年生は「少年科学文化会館」が7.7%で最も多く、次いで「公民館」（5.6%）の順となっている。高校2年生は「公民館」が9.3%で最も多くなっている。なお、「あまり利用しない」と回答した児童生徒が小学5年生で6割以上、中学2年生、高校2年生は7割以上みられる。

前回調査の結果と比較すると、「あまり利用しない」と回答した児童生徒の割合が最も多い傾向は変わらないものの、小学5年生は「少年科学文化会館」の割合が約3ポイント減少している一方で、「公民館」の割合が約4ポイント増加している。

図表 公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室（小5・中2・高2）



参考：公共施設内の図書室のなかでよく利用する図書室（小5・中2・高2）（前回調査）



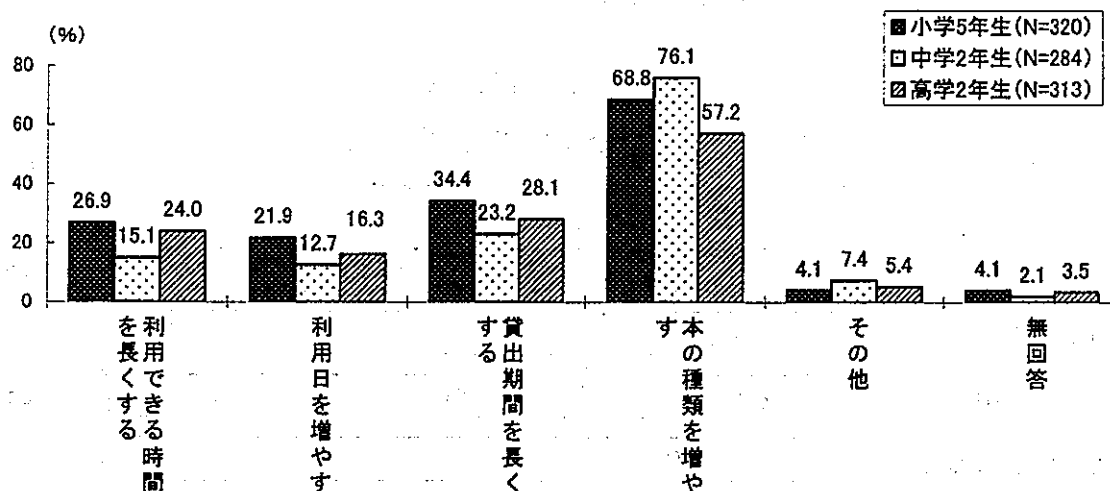
6. 公共図書館全体について

(1) 使いやすくするための方策 (小5・中2・高2)

公共施設内にある図書室を使いやすくするために必要なことについて尋ねたところ、いずれの学年も「本の種類を増やす」と回答した児童生徒の割合が最も多く、小学5年生と中学2年生は7割前後、高校2年生も約6割の生徒が回答している。次いで割合が多いのは「貸し出し期間を長くする」となっている。

前回調査の結果と比較すると、「貸し出し期間を長くする」と回答した児童生徒の割合が最も多い傾向は変わらないものの、小学5年生は「貸し出し期間を長くする」の割合が約6ポイント増加している。

図表 使いやすくするための方策 (小5・中2・高2)



参考：使いやすくするための方策 (小5・中2・高2)

